

# 博士論文（要約）

論文題目 縄文時代中期／後期移行期における社会変容プロセスの研究

氏名 太田圭

## 本文編目次

### 第1章 研究の目的

第1節 縄文時代中期／後期移行期をめぐる研究の課題.....	1
第1項 縄文時代中期／後期移行期研究の現状.....	1
第2項 移行期研究の課題.....	5
第2節 研究の目的.....	7
第1項 「移行期」の定義.....	7
第2項 研究の目的.....	8

### 第2章 分析対象と研究内容

第1節 対象地域と時期.....	9
第2節 研究内容.....	9
第1項 検討項目.....	9
第2項 検討内容.....	9

### 第3章 時間軸の設定—東日本における広域土器編年の構築—

第1節 検討方法と対象地域.....	11
第1項 分析の方法と前提.....	11
第2項 層位的出土状況の把握.....	13
第3項 検討手順の確認.....	13
第4項 分析対象.....	13
第5項 後期初頭～後期前葉土器群の段階設定とその呼称.....	14
第2節 中期末葉から後期初頭土器群の様相.....	15
第1項 大木9式・大木10式の検討.....	16
第2項 加曽利E式終末土器群の検討.....	26
第3節 後期前葉の土器群の様相.....	38
第1項 後期前葉土器群の研究史.....	38
第2項 いわゆる「門前式」の段階設定.....	40
第3項 岩手北部における「前十腰内式土器群」の段階設定.....	45
第4項 東日本太平洋側における後期前葉土器群の段階設定.....	47
第5項 後期前葉土器群の地域的特徴.....	51
第6項 秋田県・山形県域における中期後葉～後期前葉土器群の様相.....	67
第4節 東日本における広域編年の構築.....	69
第1項 非在地系土器群の分布・出土状況からみる土器群の併行関係.....	69
第2項 東日本太平洋側における中期後葉から後期前葉土器群の対応関係.....	74

## 第4章 土器からみる中期後葉から後期前葉の地域間関係

第1節 中期後葉から後期初頭土器群における型式学的変化の広域比較 .....	76
第1項 器形と文様構成 .....	76
第2項 文様表出方法の変化 .....	84
第3項 中期後葉から後期初頭における大木式土器群と加曾利 E 式土器群 .....	92
第2節 阿武隈川流域における「牛蛭類型」の検討 .....	96
第1項 阿武隈川流域における後期初頭土器群研究史 .....	96
第2項 「連接横位長楕円文」の変遷 .....	98
第3項 「牛蛭類型」の時間的位置づけと展開の背景 .....	100
第4項 綱取 I 式成立への動き .....	103
第3節 中部高地と関東・東北—「外縁地域」における曾利式系土器の検討— .....	108
第1項 曾利式系土器研究略史 .....	109
第2項 検討の目的と方法 .....	114
第3項 分析結果 .....	118
第4項 考察 .....	129
第4節 中期後葉から後期前葉における土器型式分布圏の変化と地域間関係 .....	141
第1項 土器からみる地域間関係 .....	141
第2項 中期後葉 .....	142
第3項 中期末葉から後期初頭 .....	145
第4項 後期前葉 .....	149
第5項 土器からみる地域間関係とその意味 .....	152

## 第5章 竪穴住居と遺跡分布からみる移行期の様相—岩手県域を中心に—

第1節 検討の目的 .....	154
第1項 竪穴住居跡数と住居内施設 .....	154
第2項 炉形態 .....	156
第3項 住居内施設と遺跡分布 .....	157
第2節 分析方法 .....	157
第1項 対象地域と地域区分 .....	157
第2項 対象時期と集成対象遺跡 .....	157
第3項 集成の方法と内容 .....	157
第3節 分析結果 .....	161
第1項 竪穴住居数の変化と遺跡の継続性 .....	161

第2項	竪穴住居の諸属性.....	169
第3項	住居内施設 .....	172
第4項	屋内炉.....	180
第4節	考察.....	195
第1項	竪穴住居数の時間的変化からみる「移行期」の様相.....	195
第2項	遺跡分布と竪穴住居構築の継続性.....	220
第3項	まとめ.....	204
<b>第6章 配石遺構と住居内敷石行為からみる地域間関係</b>		
第1節	検討の目的.....	208
第2節	岩手県域における配石遺構の様相.....	209
第1項	岩手県域における配石遺構の事例.....	209
第2項	岩手県域の配石遺構と「環状列石」 .....	215
第3節	住居出入口部と住居内敷石行為の展開 .....	220
第1項	出入口部施設について .....	220
第2項	東北地方における住居内敷石行為の一様相 .....	224
<b>第7章 土器埋設遺構からみる遺跡内空間利用の変化と地域間関係</b>		
第1節	検討の目的.....	256
第1項	屋内土器埋設遺構.....	256
第2項	屋外土器埋設遺構.....	256
第2節	分析対象資料と分析方法 .....	257
第1項	屋内土器埋設遺構.....	257
第2項	屋外土器埋設遺構.....	257
第3節	分析結果.....	257
第1項	屋内土器埋設遺構.....	257
第2項	屋外土器埋設遺構.....	258
第4節	考察.....	261
第1項	屋内土器埋設遺構.....	261
第2項	屋外土器埋設遺構.....	274
第3項	土器埋設遺構からみる中期後葉～後期前葉の一様相.....	281

## 第8章 議論：東日本における縄文時代中期／後期移行期の社会変容プロセス

第1節 本論における課題と目的 .....	285
第2節 竪穴住居数の検討からみえる課題.....	285
第1項 竪穴住居数の変化と気候変動 .....	285
第2項 動物・植物資源利用と「局地的な変化」.....	290
第3節 「人の移動」についての検討.....	292
第1項 局地的な変化と「人の移動」 .....	292
第2項 土器群と遺構からみる「人の移動」 .....	294
第4節 縄文時代中期／後期移行期における社会変容プロセス.....	302
第1項 縄文時代中期／後期移行期における情報の拡散・受容 .....	302
第2項 縄文時代中期／後期移行期における社会変容プロセスとその位置づけ.....	304
謝辞 .....	310
参考文献 .....	311
資料集成使用調査発掘調査報告書・報文 .....	341

### 図版編目次

#### 図目次

図1 中部高地・関東地方における竪穴住居数の変遷.....	375
図2 縄文時代における竪穴住居数・遺跡数の変遷.....	375・376
図3 関東地方における竪穴住居数の変遷 .....	377
図4 中部高地・関東地方における屋外土器埋設遺構数の変遷 .....	377
図5 分析対象遺跡位置図（広域） .....	378
図6 分析対象遺跡位置図（東北北部・中部） .....	379
図7 分析対象遺跡位置図（東北南部） .....	380
図8 分析対象遺跡位置図（関東北東部） .....	381
図9 岩手北部大木10式編年案 .....	382
図10 盛岡周辺大木10式編年案 .....	385
図11 北上川中流域大木10式編年案.....	386
図12 三陸沿岸大木10式編年案 .....	387
図13 北上川下流域・宮城北部大木10式編年案.....	388
図14 仙台湾北部・中部と宮城中部の大木10式編年案.....	389
図15 宮城南部・福島北部大木10式編年案.....	390
図16 福島北部大木10式編年案 .....	391
図17 阿武隈川流域大木10式編年案.....	392

図 18	浜通り・阿武隈高地東麓-西麓大木 10 式編年案	393
図 19	会津大木 10 式編年案	394
図 20	大木 9・10 式の編年案	395
図 21	大梁川遺跡・小梁川遺跡出土資料による大木 8b 式～大木 9 式編年	396
図 22	阿部昭典による大木 9 式・大木 10 式編年案	397
図 23	大木 8b 式から大木 9a 式への変化	398
図 24A	北上川流域における大木 8b 式から大木 9a 式への変化 (1)	398・399
図 24B	北上川流域における大木 8b 式から大木 9a 式への変化 (2)	400
図 24C	三陸沿岸における大木 8b 式新段階の土器	401
図 24D	三陸沿岸における大木 9a 式初頭の土器	402
図 25	口縁文様帯を有する土器群の変遷	403
図 26	北上川中流域～仙台湾周辺における大木 10 式の編年案	404
図 27	大梁川・小梁川遺跡出土資料による大木 8b 式～大木 10 式編年	405
図 28	菅原哲文による大木 10 式編年	406
図 29	胴下半縄文部から区画縄文部の分離・胴部区画線の出現	407
図 30	後期第 1 段階古相(「門前式」成立期)の土器群	408
図 31	東北北部における大木 10 式併行期の土器群	409
図 32	びわ首沢式	409
図 33	中期後葉～後期初頭における主要な器形(池谷 1988)	410
図 34	中期後葉～後期初頭における主要な器形(菅野 2007a)	410
図 35	意匠充填系土器	411
図 36	横位連携弧線文土器	411
図 37	槻沢遺跡出土資料に基づく岩坪類型の変遷	412
図 38	鈴木素行による加曽利 E 式終末土器群の隆帯作出方法と段階設定	413
図 39	千葉毅による加曽利 E 式終末土器群の属性変化の大枠	413
図 40	千葉毅による加曽利 E 式終末土器群の変遷	414
図 41	槻沢遺跡遺構出土資料 (1)	415
図 42	槻沢遺跡遺構出土資料 (2)	416
図 43	槻沢遺跡遺構出土資料 (3)	417
図 44	那珂川上流域の加曽利 E 式終末編年案	418
図 45	那珂川中流域とその周辺における加曽利 E 式終末編年案	419
図 46	那珂川下流域とその周辺における加曽利 E 式終末編年案	420
図 47	西・南関東における上野真由美による加曽利 E 式終末土器群の集成	421
図 48	西・南関東における上野真由美による加曽利 E 式終末土器群の集成	422
図 49	栃木・茨城における加曽利 E 式終末編年案	423
図 50	東北南部における加曽利 E 式終末編年案	424
図 51	東北南部における加曽利 E 系土器群	425
図 52	那珂川流域における加曽利 E 式後半編年案	426

図 53	北関東における加曾利 E 式編年.....	427
図 54	「門前式」の編年案 (1) .....	428
図 55	「門前式」の編年案 (2) .....	429
図 56	「門前式」の編年案 (3) .....	430
図 57	「門前式」の編年案 (4) .....	431
図 58	東北南部後期前葉の土器群.....	432
図 59	堀之内式 A 群土器.....	433
図 60	堀之内式 B 群土器.....	434
図 61	堀之内式 C 群土器.....	435
図 62	堀之内式 D 群土器 .....	436
図 63	堀之内式 E 群土器.....	437
図 64	堀之内式 F 群土器.....	438
図 65	堀之内 1 式の類型と変遷 .....	439
図 66	三十稲場式の編年案.....	440
図 67	朝顔形器形 (「門前式」) の胴部文様と器形の変遷 (1) .....	441
図 68	朝顔形器形 (「門前式」) の胴部文様と器形の変遷 (2) .....	442
図 69	J 字文系土器群と方形区画文系土器群 .....	443
図 70	胴部地文のみの土器群 (岩手県域) .....	444
図 71	東北南部における後期前葉の口縁部無文帯+胴部地文のみの土器群.....	445
図 72	「門前式」における器形の変遷 .....	446
図 73	加飾手法の変遷.....	447
図 74	岩手北部におけるアルファベット文タイプの変遷 .....	448
図 75	岩手北部後期前葉編年案 (1) .....	449
図 76	岩手北部後期前葉編年案 (2) .....	450
図 77	北上川上流域後期前葉編年案 (1) .....	451
図 78	北上川上流域後期前葉編年案 (2) .....	452
図 79	北上川上流域後期前葉編年案 (3) .....	453
図 80	北上川上流域後期前葉編年案 (4) .....	454
図 81	北上川中流域後期前葉編年案 (1) .....	455
図 82	北上川中流域後期前葉編年案 (2) .....	456
図 83	北上川中流域後期前葉編年案 (3) .....	457
図 84	北上川中流域後期前葉編年案 (4) .....	458
図 85	北上川中流域後期前葉編年案 (5) .....	459
図 86	北上川中流域後期前葉編年案 (6) .....	460
図 87	三陸沿岸後期前葉土器群編年案 (1) .....	461
図 88	三陸沿岸後期前葉土器群編年案 (2) .....	462
図 89	三陸沿岸後期前葉土器群編年案 (3) .....	463
図 90	三陸沿岸後期前葉土器群編年案 (4) .....	464

図 91	北上川下流域・宮城北部の後期前葉編年案	465
図 92	仙台湾北部・中部と宮城中部の後期前葉編年案	466
図 93	宮城南部・福島北部の後期前葉編年案	467
図 94	福島北部の後期前葉編年案	468
図 95	阿武隈川上流域後期前葉編年案	469
図 96	浜通り・阿武隈高地東麓・西麓の後期前葉編年案	470
図 97	会津地域の後期前半編年案	471
図 98	「大葛式」と関連土器	472
図 99	北上川上流域・中流域における後期初頭～前葉資料	473
図 100	葦窪遺跡出土土器	474
図 101	本間宏による変遷図	475
図 102	宮戸 I b 式土器	475
図 103	下ノ内遺跡遺物包含層 11～13 層遺物集中 (1)	476
図 104	下ノ内遺跡遺物包含層 11～13 層遺物集中 (2)	477
図 105	下ノ内遺跡遺物包含層 11～13 層遺物集中 (3)	478
図 106A	南三十稲場式の類型-1	479
図 106B	南三十稲場式の類型-2	480
図 107	秋田県域の後期前葉編年案	481
図 108	山形県域の後期前葉編年案	482
図 109	関東出土の東北北部系・方形区画文系・J 字文系土器群とその影響のある土器	483
図 110A	方形区画文系土器群とその類例-1	484
図 110B	方形区画文系土器群とその類例-2	485
図 111	意匠充填系土器群の成立と大木 8b 式・連弧文土器	486
図 112	横位連携弧線文の成立と連弧文土器	487
図 113	大木 8 式の変遷	487
図 114	梶山類型の変遷	488
図 115	横位連携弧線文の変遷	489
図 116	越田和遺跡土器群の変遷	490
図 117	仲田茂司による変遷案	491
図 118	「牛蛭類型」の変遷	492
図 119	加曾利 E 式後半の両耳壺	493
図 120	加曾利 E 式後半の両耳壺とその分布	494
図 121A	那須・中通りの両耳壺	495
図 121B	網取 I 式成立の流れ	496
図 122	曾利式系土器残存状況 (1)	497
図 123	曾利式系土器残存状況 (2)	498
図 124	曾利式系土器出土遺構 (1)	499
図 125	曾利式系土器出土遺構 (2)	500



図 126	曾利式系土器炉関連出土図版 .....	501
図 127	曾利式系土器炉関連・土器埋設遺構出土図版.....	502
図 128	曾利式系土器図版 (1) .....	503
図 129	曾利式系土器図版 (2) .....	504
図 130	曾利式系土器図版 (3) .....	505
図 131	曾利式系土器図版 (4) .....	506
図 132	曾利式系土器図版 (5) .....	507
図 133	曾利式系土器図版 (6) .....	508
図 134	曾利式系土器図版 (7) .....	509
図 135	地域別・属性の時間的変化：口縁部形態.....	510
図 136	地域別・属性の時間的変化：口縁部付加.....	511
図 137	地域別・属性の時間的変化：口縁部文様.....	512
図 138	地域別・属性の時間的変化：口縁部加飾.....	513
図 139	地域別・属性の時間的変化：頸部貼付.....	514
図 140	地域別・属性の時間的変化：胴部貼付.....	515
図 141	地域別・属性の時間的変化：胴部文様.....	516
図 142	東海における加曾利 E 式土器群の影響.....	517
図 143	関東西部・中部高地・東海における土器分布の変化.....	518
図 144	関沢類型とその関連土器 .....	519
図 145	恋ヶ窪遺跡 SI19 号住居址 .....	520
図 146	東日本における土器の系統関係模式図.....	521
図 147	後氷期における広域的な環境変化の一例.....	522
図 148	複式炉・柄鏡形敷石住居の展開プロセス.....	523
図 149	岩手県域における縄文時代中期後半～後期前半主要遺跡分布図 .....	524
図 150	地域ごとの竪穴住居数の変化 (1) .....	525
図 151	地域ごとの竪穴住居数の変化 (2) .....	526
図 152	地域ごとの竪穴住居数の変化 (3) .....	527
図 153	沿岸北部における中期後半～後期前半の主要住居検出遺跡分布 .....	528
図 154	沿岸中部北半における中期後半～後期前半の主要住居検出遺跡分布 .....	529
図 155	沿岸中部南半における中期後半～後期前半の主要住居検出遺跡分布 .....	530
図 156	沿岸南部における中期後半～後期前半の主要住居検出遺跡分布 .....	531
図 157	北上・遠野周辺における中期後半～後期前半の主要住居検出遺跡分布 .....	532
図 158	一関周辺における中期後半～後期前半の主要住居検出遺跡分布 .....	533
図 159	岩手県域における出入口施設の事例 (1) .....	534
図 160	岩手県域における出入口施設の事例 (2) .....	535
図 161	岩手県域における張出部を有する住居の事例.....	535
図 162	礫関連遺構 B.....	536
図 163	礫関連遺構 C.....	536

図 164	住居址覆土配石 .....	537
図 165	炉形態：A 類.....	538
図 166	炉形態：複段 A 類（1） .....	539
図 167	炉形態：複段 A 類（2） .....	540
図 168	炉形態：B1-b 類【斜位土器埋設炉】（1） .....	541
図 169	炉形態：B1-b 類【斜位土器埋設炉】（2） .....	542
図 170	複数土器を埋設する土器使用炉 .....	542
図 171	炉形態：B2 類・B3 類・C 類.....	543
図 172	炉形態：D 類・F 類・H 類.....	543
図 173	特徴的な炉形態.....	543
図 174	コ字形石囲炉.....	544
図 175	炉形態：H 類 .....	545
図 176	周辺地域における竪穴住居数の変化 .....	546
図 177A	岩手県域における小地域ごとの竪穴住居数の変化.....	547
図 177B	岩手県域と周辺地域の竪穴住居数比較.....	547
図 178	栃木県南半における竪穴住居数の変化.....	548
図 179	従来の捉え方（1）と「拡散型集落」（2） .....	549
図 180	伊勢堂岱遺跡遺構配置図 .....	549
図 181	大湯環状列石（上）・大石平遺跡（下）遺構配置図.....	550
図 182	大規模列石遺構比較図 .....	551
図 183	御所野遺跡遺構配置図 .....	552
図 184	館石野 I 遺跡遺構配置図 .....	553
図 185	下村 B 遺跡遺構配置図 .....	554
図 186	馬立 II 遺跡遺構配置図 .....	555
図 187	安俣 6 区遺跡遺構配置図 .....	556
図 188	清水屋敷 II 遺跡遺構配置図.....	557
図 189	田代 IV 遺跡遺構配置図 .....	557
図 190	西平内 I 遺跡遺構配置図（上）と列石遺構図（下） .....	558
図 191	川目 A 遺跡遺構配置図 .....	559
図 192	稲荷神社遺跡遺構配置図 .....	560
図 193	赤浜 II 遺跡遺構配置図 .....	561
図 194	大野田遺跡遺構配置図 .....	562
図 195	柴原 A 遺跡遺構配置図 .....	563
図 196	福島県域における出入口事例 .....	564
図 197	岩手県域における住居内敷石行為（1） .....	565
図 198	岩手県域における住居内敷石行為（2） .....	566
図 199	岩手県域における住居内敷石行為（3） .....	567
図 200	宮城県域における住居内敷石行為（1） .....	567

図 201	宮城県域における住居内敷石行為 (2)	568
図 202	福島県域における住居内敷石行為 (1)	568
図 203	福島県域における住居内敷石行為 (2)	569
図 204	福島県域における住居内敷石行為 (3)	570
図 205	福島県域における住居内敷石行為 (4)	571
図 206	福島県域における住居内敷石行為 (5)	572
図 207	福島県域における住居内敷石行為 (6)	573
図 208	福島県域における住居内敷石行為 (7)	574
図 209	栃木県域における住居内敷石行為 (1)	575
図 210	栃木県域における住居内敷石行為 (2)	576
図 211	栃木県域における住居内敷石行為 (3)	577
図 212	深渡遺跡 SI2001	577
図 213	立石遺跡遺構配置図	578
図 214	大湯環状列石 SX401	578
図 215	福島県域における土器埋設遺構の出土数	579
図 216	埋設姿勢の時間的変化	580
図 217	埋設部位の時間的変化	581
図 218	意図的欠損行為の時間的変化	582
図 219	出土タイプの時間的変化	583
図 220	出土位置の時間的変化	584
図 221	岩手県域における屋内土器埋設遺構 (1)	585
図 222	岩手県域における屋内土器埋設遺構 (2)	586
図 223	福島県域における屋内土器埋設遺構	586
図 224	福島県域・岩手県域における屋外土器埋設遺構	587
図 225	土坑・小竪穴埋設の事例	588
図 226	各地の土器埋設遺構事例	588
図 227	地域別埋設属性	589
図 228	埋設姿勢と他の埋設属性	590
図 229	牛蛭式土器と埋設属性	591
図 230	栃木県域の屋内土器埋設遺構事例	592
図 231	武蔵野台地東部の推定人口の変化と気候変動	593

## 表目次

表 1	分析対象遺跡リスト	387・388
表 2	大木式・加曾利 E 式対応表	594
表 3	東日本中期後葉～後期前葉土器型式対応表	594
表 4	曾利式系土器出土遺跡一覧	595
表 5	時期別の住居属性表 (沿岸北部)	596

表 6	時期別の住居属性表（沿岸中部） .....	597
表 7	時期別の住居属性表（沿岸南部） .....	598
表 8	時期別の住居属性表（北上周辺） .....	599
表 9	時期別の住居属性表（遠野・住田町） .....	600
表 10	岩手県域における出入口施設 .....	601
表 11	岩手県域における張出部を有する住居.....	601
表 12	岩手県域における住居内礫関連施設 .....	602
表 13	岩手県域における住居址覆土配石 .....	602
表 14	岩手県域における住居内剥片貯蔵.....	603
表 15	炉集成表（沿岸北部） .....	604
表 16	炉集成表（沿岸中部） .....	605
表 17	炉集成表（沿岸南部） .....	606
表 18	炉集成表（北上） .....	607
表 19	炉集成表（遠野・住田町周辺） .....	608
表 20	宮城県域における住居内敷石行為集成表.....	609
表 21A	岩手県域における住居内敷石行為集成表（1） .....	610
表 21B	宮城県域における住居内敷石行為集成表（2） .....	611
表 22A	岩手県域における屋内土器埋設遺構集成表（1） .....	612
表 22B	岩手県域における屋内土器埋設遺構集成表（2） .....	613

## 本文

5年以内に出版予定である。

## 参考文献

### 《引用・参考文献》

- 相原淳一 1988 「考察 土器」『大梁川遺跡・小梁川遺跡（石器編）』宮城県文化財調査報告書第126集：395-455
- 相原淳一 2005 「宮城県における複式炉と集落の様相」『日本考古学協会 2005 年度福島大会シンポジウム資料集』：97-116
- 相原淳一 2009 「東北地方における縄文時代中期末葉から後期後葉に関する土器編年—宮城県石巻市山居遺跡の調査成果から—」『東北歴史博物館研究紀要』10：1-10
- 相原淳一 2012 「縄文・弥生時代における超巨大地震津波と社会・文化変動に関する予察—東日本大震災津波の地平から—」『東北歴史博物館研究紀要』13：1-20
- 相原淳一 2013 「縄文時代における古津波堆積層—特に三陸地方を中心に—」『宮城考古学』15：45-52
- 相原淳一・駒木野智寛 2014 「宮城県における古津波堆積層と遺跡 特に南三陸地方を中心に」『宮城考古学』16：21-36
- 青木義脩 1965 「栃木県内の称名寺式土器の類例について」『栃木考古学研究』11：1-3
- 青森市蛭沢遺跡調査団 1979 『蛭沢遺跡』
- 秋田県埋蔵文化財センター2013 『縄文時代土器集成Ⅰ（後期）』秋田県埋蔵文化財基準資料
- 秋田県埋蔵文化財センター2014 『縄文時代土器集成Ⅱ（中期）』秋田県埋蔵文化財基準資料2
- 赤塩仁 2008 「十三菩提式土器」『総覧縄文土器』：304-311 アムプロモーション
- 秋元信夫 2000 「大湯環状列石における遺跡の変遷」『青森県考古学』12：41-46
- 秋元信夫 2005 『大湯環状列石 石にこめた縄文人の祈り』新泉社
- 安達香織 2016 『縄文土器の系統学』慶應義塾大学出版会
- 安孫子昭二 1978 『文京区動坂遺跡』動坂貝塚調査会
- 阿部昭典 1998 「縄文時代の環状列石—新潟県中魚沼郡津南町道尻手遺跡・堂平遺跡を中心として—」『新潟考古学談話会会報』18：47-67
- 阿部昭典 1999 「複式炉の研究」『新潟考古学談話会会報』20：40-60
- 阿部昭典 2000 「縄文時代中期末葉～後期前葉の変動—複式炉を有する住居の消失と柄鏡形敷石住居の波及—」『物質文化』69：1-39
- 阿部昭典 2006 「注口土器成立以前の様相」『考古学ジャーナル』550：10-15
- 阿部昭典 2008 『縄文時代の社会変動論』アムプロモーション
- 阿部昭典 2009 「新潟県における縄文時代後期前葉集落と配石遺構の隆盛—信濃川流域を中心として—」『國學院大學考古学資料館紀要』25：1-20
- 阿部昭典 2011 「東北北部における環状列石の受容と集落構造」『古代文化』93-1：24-43
- 阿部昭典 2012a 「東北地方における後期初頭の社会変動—越後からみる縄文社会」『東北地方における中期／後期変動期4・3ka イベントに関する考古学現象①』：1-16
- 阿部昭典 2012b 「縄文後期初頭における集落構造・住居形態の変容と地域間関係」『津南シンポジウムⅧ予稿集 三十稲場式土器文化の世界—4.3ka イベントに関する考古学現象②—』：79-90
- 阿部昭典 2012c 「東北からみる那須地域の縄文中・後期文化」『第20回特別展図録 那須の縄文社会が変わるころ—縄文中期から後期へ—』栃木県立なす風土記の丘資料館：付論11-付論16
- 阿部昭典 2013 「環状列石の出現期とツバタ遺跡の再評価—新潟県域の環状列石の受容時期について—」『津南学』2：235-238
- 阿部昭典 2015 『縄文の儀器と世界観』知泉書院
- 阿部勝則 1998 「岩手県における縄文時代中期中葉の底部穿孔埋甕について—住居内出土事例を中心に—」『紀要』XVIII岩

手県文化振興事業団埋蔵文化財センター：29-36

阿部勝則 2000「盛岡市上米内遺跡・向館遺跡における縄文時代中期の集落構造について」『紀要』XIX岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター：33-44

阿部勝則 2001「岩手県内出土の縄文時代中期の器台について」『紀要』XX岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター：1-10

阿部勝則 2003「岩手県における縄文時代中期の剥片集中について」『紀要』XXII岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター：1-16

阿部勝則 2008「埋甕（東北地方）」『総覧縄文土器』：1116-1121 アムプロモーション

阿部芳郎 1987「縄文時代後期前葉型式群の構造と動態 堀之内1式と東北地方の型式群の関係について」『駿台史学』71：75-105

阿部芳郎 1988「堀之内1式土器の構成と変遷」『信濃』40-4：1-23

阿部芳郎 1990「北陸北半地域における後期前葉土器型式の再検討—三十稲場式、南三十稲場式の構成と変遷—」『信濃』42-10：57-73

阿部芳郎 2000「縄文時代における土器の集中保有化と遺跡形成 千葉県下総台地中央部における後期の遺跡群と土器塚の形成」『考古学研究』47-2：85-104

阿部芳郎 2019「序章 縄文後・晩期をどう考えるか」『縄文文化の繁栄と衰退』明治大学資源利用史研究クラスター先史文化研究の新展開1：4-14

阿部芳郎 2020「加曾利 B1 式土器の成立過程と地域間関係—東北地方南部・北陸地域の型式間関係を中心に—」『考古学集刊』16：67-86

安齋正人 2007『人と社会の生態考古学』柏書房

安齋正人 2014『気候変動と縄文文化の変化』同成社

安齋正人 2015『縄文人の生活世界』敬文舎

安齋正人 2017『縄文時代史 上巻』敬文舎

安齋正人 2019『縄文時代史 中巻』敬文舎

安齋正人（監修）2012『公開シンポジウム予稿集 東北地方における中期／後期移行期変動期 4・3ka イベントに関する考古学現象①』

安齋正人（監修）2013『公開シンポジウム予稿集 関東甲信越地方における中期／後期移行期変動期 4・3ka イベントに関する考古学現象③』

井憲治 1996「真野川流域における縄文中期末葉の集落構成」『論集しのぶ考古』：181-200

池谷信之 1988「東北地方における縄文時代中期末葉の変遷と後期土器の成立」『沼津市博物館紀要』12：69-112

石井寛 1984「堀之内2式土器の研究（予察）」『研究集録』9：1-70 横浜市埋蔵文化財センター

石井寛 1992「称名寺式土器の分類と変遷」『調査研究集録』9 財団法人横浜市ふるさと歴史財団：1-70

石井寛 1993「堀之内I式期土器群に関する問題」『牛ヶ谷遺跡・華蔵台遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告第14集：271-289

石井寛 1995「原出口遺跡20号住居址出土土器群をめぐって」『川和向原遺跡・原出口遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告第19集：327-364

石井寛 1998「柄鏡形住居址・敷石住居址の成立と展開に関する一考察」『縄文時代』9：29-56

石井寛 2003「東北地方における礫石附帯施設を有する住居址とその評価—中期最終末期以降を対象として—」『縄文時代』

14 : 31-62

- 石井寛 2009 「周石型礫石施設の系譜と性格—北日本を対象として—」『縄文時代』20 : 61-90
- 石井寛 2010 「縄文時代の遺跡群と地域集団」『横浜市歴史学物館紀要』14 : 1-33
- 石井寛 2011 「縄文時代後期の住居址内土坑」『縄文時代』22 : 43-72
- 石井寛 2014 「縄文中期から後期への推移に関する一考察—横浜市港北 N.T.遺跡群を対象に—」『横浜市歴史博物館紀要』18 : 1-40
- 石井寛 2015 「稲ヶ原遺跡出土土器群が提起する諸問題」『横浜市歴史博物館紀要』19 : 1-36
- 石井寛 2016 「垂下隆帯類型と称名寺土器の変質」『縄文時代』27 : 79-98
- 石井寛 2018 「堀之内 1 式土器・2 式土器の成立を巡る若干の問題」『東海縄文研究会 第 7 回例会 東海からみた後期前葉土器群』: 1-14
- 石坂圭介 2008 「三十稲場式土器」『総覧縄文土器』: 618-625 アムプロモーション
- 石坂圭介 2012 「新潟県における縄文時代中期後葉から後期初頭の土器様相」『津南シンポジウムⅧ予稿集 三十稲場式土器文化の世界—4・3Ka イベントに関する考古学現象②—』: 21-38
- 石坂茂 2004 「関東・中部地方の環状列石—中期から後期への変容と地域的様相を探る」『群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要』22 : 51-94
- 石坂茂 2007a 「北関東地方の諸遺跡」『季刊考古学』101 : 52-59
- 石坂茂 2007b 「環状列石（関東・中部地方）」『縄文時代の考古学』11 心と信仰 : 158-170 同成社
- 石丸恵利子・申基澈・信里芳紀・富井眞 2019 「Sr-Nd-Pb 安定同位体比分析による先史土器の粘土産出地推定の試み」『日本文化財科学会第 36 回大会』
- 泉拓良・家根祥多・森本普・玉田芳英 1985 「遺物 土器」亀井節夫・宇野隆夫ほか編『京都大学埋蔵文化財調査報告』Ⅲ—北白川追分町縄文遺跡の調査— : 39-71
- 市川市立市川考古博物館 1982 『シンポジウム堀之内式土器資料集』
- 市川市立市川考古博物館 1983 『シンポジウム堀之内式土器の記録』
- 市川健夫 2012 「八戸市内における縄文時代の堅穴住居数と住居規模」『研究紀要』八戸市埋蔵文化財センター—是川縄文館 : 11-20
- 伊東信雄 1957 「古代史第一章 縄文式文化時代」『宮城県史』第 1 巻古代史・中世史 : 3-51
- 伊東信雄 1973 『古代東北発掘』学生社
- 伊東信雄 1977 「山内博士東北縄文土器編年の成立過程」『考古学研究』24-3・4 : 164-170
- 伊東信雄 1981 『宮城県史』第 34 巻（資料編 11 資料集 5 考古資料）
- 稲村晃嗣 1988 「鴻ノ巣貝塚出土の縄文時代後期初頭の土器群（補遺）」『村上徹君追悼論文集』: 39-53
- 稲村晃嗣 1989 「鴻ノ巣貝塚出土の縄文時代後期初頭土器群」『考古学の世界』慶應義塾大学民族学考古学研究室 : 279-297
- 稲村晃嗣 1990 「加曾利 E 系列の土器群」『調査研究集録』7 横浜市埋蔵文化財センター : 9-16
- 稲村晃嗣 1994 「両耳壺の研究ノート」『民族考古』2 慶應義塾大学民族学考古学研究室 : 23-42
- 稲村晃嗣 2004 「千葉県山武姥山貝塚出土の縄文時代後期初頭土器について」『時空をこえた対話—三田の考古学—』慶應義塾大学民族学考古学専攻設立 25 周年記念論集 : 85-90
- 稲村晃嗣 2008 「門前式土器」『総覧縄文土器』: 536-543 アムプロモーション
- 猪瀬美奈子 2006 「島田遺跡の研究—栃木県縄文時代中期における堅穴住居跡の諸様相—」『栃木県考古学会誌』27 : 37-66
- 今泉俊文・原口強・宮内崇裕・後藤秀昭・島崎邦彦 2007 「東北地方太平洋沿岸における地質調査」『宮城県沖地震におけ



る重点的調査観測平成 18 年度成果報告書』：74-97

今泉俊文・石山達也・原口強・宮内崇裕・後藤秀昭・島崎邦彦 2010「津波堆積物調査に基づく地震発生履歴に関する研究」

『宮城県沖地震における重点的調査観測（平成 17-21 年度）総括成果報告書』：152-268

今福利恵 1994「勝坂式土器とその社会組織」『季刊考古学』48：17-22

今福利恵 1999a「中期後半（曾利式土器）」『山梨県史』資料編 2：374-384

今福利恵 1999b「中部地方 中期（曾利式）」『縄文時代』10 第 1 分冊：47-58

今福利恵 2005a「曾利式土器編年再考—甲府盆地地域を中心に—」『山梨県考古学協会誌』15：28-42

今福利恵 2005b「曾利式土器多形甕の施文技法—甲府盆地釈迦堂遺跡出土事例を中心に—」『長澤宏昌氏退職記念考古論巧集』：7-23

今福利恵 2011『縄文土器の文様生成構造の研究』アムプロモーション

今福利恵 2012「曾利式土器における X 把手土器の成立」『山梨県考古学会誌』21：61-70

今福利恵 2017a「甲府盆地周辺の勝坂 3 式と曾利 I 式／加曾利 E1 式」『縄文研究の地平 2017 発表要旨・資料集』：91-110

今福利恵 2017b「曾利式土器における水煙把手土器の成立と展開」『研究紀要』33 山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター：1-16

今福利恵・関間俊明 2004「山梨県における縄文時代中期の時期設定 曾利式期（甲府盆地周辺）」『シンポジウム縄文集落研究の新地平 3—勝坂から曾利へ—発表要旨』：3-30

今村啓爾 1977「称名寺式土器の研究（上）（下）」『考古学雑誌』63-1・63-2：1-29,22-60

今村啓爾 1997「縄文時代の住居址数と人口の変動」『住の考古学』：45-60 同成社

今村啓爾 1999『縄文の実像を求めて』歴史文化ライブラリー76 吉川弘文館

今村啓爾 2010『土器から見る縄文人の生態』同成社

今村啓爾 2014「世界史における縄文文化の位置づけ」『縄文時代（下）』講座の本の考古学 4：652-669

岩上照朗 1995「栃木県における堀之内 1 式土器」『唐沢考古』13：1-12

岩田貴之 2004「大木 8 式土器小考」『岩手考古学』16：17-24

岩田貴之 2015「樺山遺跡の脚付石皿に関する若干の考察」『北上市博物館研究報告』20：11-30

岩田貴之 2016「樺山遺跡の「甕棺」に関する若干の考察」『北上市立埋蔵文化財センター紀要』5：1-12

岩永祐貴 2019「山梨県における埋甕集成」『山梨考古学論集』Ⅷ：33-46

岩永祐貴 2020「山梨県の埋甕の様相」『研究紀要』36 山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター：27-42

岩淵一夫 1985『上欠遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第 69 集

上野修一 1984「栃木県の縄文中期中葉土器素描」『第 7 回企画展はなひらく縄文文化』：107-120 栃木県立博物館

上野真由美 2011「加曾利 E 式土器の終焉と称名寺式土器の関係」『研究紀要』25 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団：77-10

上野佳也 1984「配石遺構についての一考察」『東京大学考古学研究室紀要』3：27-39

宇津木台地区考古学研究会 2008「シンポジウム『縄文中期集落研究の新地平』記録集」『論集宇津木台』2：1-96

江坂輝彌 1956「各地域の縄文式土器 東北」『日本考古学講座』3：91-124 河出書房

江坂輝彌 1971「縄文時代の配石遺構について」『北奥古代文化』3：9-13

榎本剛治 2008「十腰内 I 式様式」『総覧縄文土器』：530-535 アムプロモーション

江原英 1994「栃木県縄文中期中葉土器群体部文様の変異—槻沢遺跡 14HP-2 出土資料の三形態を中心に—」『唐沢考古』13：13-22

- 江原英 2005 「縄紋中期後半における住居諸形態の観察」『研究紀要』13：1-23 財団法人とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター
- 江原英 2006 「阿玉台式の伝統と「中峠0地点型」の成立（覚書）—寺野東遺跡と島田遺跡出土土器の観察から—」『栃木県考古学会誌』27：67-98
- 江原英 2007 「関東の様相」『第20回セミナー 中期終末から後期初頭の再検討』：121-211 縄文セミナーの会
- 江原英 2016 「北関東地域の様相」『称名寺貝塚と称名寺式土器』：93-114 横浜市歴史博物館
- 海老原郁雄 1964 「脇沢遺跡発掘 T3 の遺物について」『栃木考古学研究』5：1-6
- 海老原郁雄 1974 「栃木県北の縄文中期末葉の土器について」『下野古代文化』創刊号：1-6
- 海老原郁雄 1980 「加曾利 E I 式の変遷について（栃木県）」『奈和』18：1-23
- 海老原郁雄 1981a 「栃木県『加曾利 E 様式』における異系土器」『栃木県考古学会誌』6：25-31
- 海老原郁雄 1981b 「4 中期の土器 第二章 縄文時代 三 縄文土器」『栃木県史』通史編1 原始・古代一：112-121
- 海老原郁雄 1981c 「栃木県『加曾利 E 様式』における異系土器」『栃木県考古学会誌』6：25-32
- 海老原郁雄 1984 「栃木県における縄文中期後葉の土器群」『栃木県考古学会誌』8：13-20
- 海老原郁雄 1987 「北関東・縄文中期の〈合の子〉土器」『那須文化研究』創刊：13-26
- 海老原郁雄 1988 「北関東加曾利 E 式土器様式」『縄文土器大観』中期Ⅱ：279-282 小学館
- 海老原郁雄 1990 「〈亜関東圏〉としての加曾利 EIV 式土器」『那須文化研究』4：1-6
- 海老原郁雄 1993 「栃木県・勝山遺跡の敷石住居址」『那須文化研究』7：1-14
- 海老原郁雄 1994 「栃木・縄文中期の土器」『企画展 きらめく縄文土器～北関東地域性のあけぼの期～』：16-23 ミュージアム氏家
- 海老原郁雄 1997 「接圏の敷石住居」『奈和』35：85-107
- 海老原郁雄 1998 「南限の複式炉」『しのぶ考古』11：23-32
- 海老原郁雄 1999 「接圏の縄文中・後期文化」『企画展 よみがえる縄文人』：100-114 ミュージアム氏家
- 海老原郁雄 2000 「北関東・縄文中期末葉の土器群」『阿部正光君追悼集』：59-68
- 海老原郁雄 2006 『那須の縄文土器—「黒埴の里」草創の時代—』大田原市黒羽芭蕉の館
- 海老原郁雄 2008 「接圏 称名寺式土器の地域相」『那須文化研究』22：31-40
- 海老原郁雄・岩淵一夫・岩上照朗 1981 「縄文土器 10 段階区分図（栃木県）」『日本考古学協会昭和 56 年度大会シンポジウムⅠ 北関東を中心とする縄文中期の諸問題』
- 遠藤邦彦 2017 『日本の沖積層—未来と過去を結ぶ最新の地層—改訂版』富山房インターナショナル
- 遠藤邦彦・小杉正人 1990 「海水準変動と古環境」『モンスーン・アジアの環境変遷』広島大学総合地誌研究叢書 20：93-103
- 遠藤邦彦・小杉正人・菱田量 1988 「関東平野の沖積層とその基底地形」『日本大学文理学部自然科学研究所研究紀要』23：37-48
- 遠藤邦彦・小杉正人・松下まり子・宮地直道・菱田量・高野司 1989 「千葉県古流山湾周辺域における完新世の環境変遷史とその意義」『第四紀研究』28-2：61-77
- 及川昭文・宮本定明・小山修三 1979 「貝塚データベース」『国立民族学博物館研究報告』5-2：439-470
- 大内千年 2009 「第3章 中期の非在地系土器—房総半島におけるいわゆる曾利式系土器について—」『研究紀要』26 財団法人千葉県教育振興財団文化財センター：87-152
- 大内千年 2012 「房総半島における非在地系土器について 縄文時代中期後葉の曾利式系土器のあり方」『国立歴史民俗博

物館研究報告』167:113-125

大河原勉 2009「摺上川上流域における縄文時代中期末葉～後期前葉の住居跡について」『研究紀要』福島県文化財センター  
—白河館:33-50

大島直行 1999「縄文時代の火災住居の意味」『考古学ジャーナル』447:4-7

太田圭 2017「縄文時代における屋外土器埋設遺構の研究—「埋甕」のこれまでとこれから—」『アーキオ・クレイオ』14:  
1-26 東京学芸大学

太田圭 2019a「栃木県における縄文時代の屋外土器埋設遺構」『アーキオ・クレイオ』16:1-22 東京学芸大学

太田圭 2019b「縄文時代の栃木県域における堅穴住居数の動向とその背景—諸文化要素からみる北関東における縄文時代  
中期/後期移行期の一様相—」『東京大学考古学研究室研究紀要』32:1-33

大竹憲治 1991「縄文時代後期前葉における配石を伴う墓坑の成立とその展開—東北地方南部・阿武隈山地を中心として—」  
『東国史論』7:5-17

大和久震平・屋代方子 1968「矢板市上長井 D 遺跡発掘調査概報」『栃木県考古学会誌』2・3:20-29

小笠原好彦 1993「袖窪貝塚出土の縄文後期初頭土器」『宮城史学』特別号14・15・16 合併号:4-22

岡田康博 2004「北の環状列石」『月間文化財』2月:24-26

岡本勇 1975「原始社会の生業と呪術」『岩波講座日本歴史』1 原始および古代 岩波書店

岡本勇・戸沢充則 1965「II 縄文文化の発展と地域性 関東」『日本の考古学』II 縄文時代:97-132 河出書房新社

小川和博 1980「千葉県成田市宝田山ノ越貝塚研究素描」『奈和』18:24-46

小川和博 1989「南房総における加曽利 E 式土器—千葉県富浦町深名瀬島遺跡の研究 I —」『日本考古学研究所集報』XI:  
8-22

小倉重和 1998「斜位土器埋設炉についての一考察」『奈和』36:1-46

小澤政彦 2016「武蔵野・多摩地域周辺の土器系統:称名寺式」『シンポジウム縄文研究の地平 2016—新地平編年の再構築  
—発表要旨』:130-141

押山雄三 1990「福島県の複式炉」『郡山市文化財研究紀要』5:1-69

押山雄三 2002「東北地方南部における縄文後期前葉の土器」『第15回縄文セミナー 後期前半の再検討—記録集—』:18-31

小野正文 1982「底部穿孔埋甕小考」『甲斐の地域史的展開』磯貝正義先生古稀記念論文集:13-32 雄山閣

小野正文 1987「第6章 まとめ 第1節 土器の概観 第9項 曾利式土器」『釈迦堂II』山梨県埋蔵文化財センター調査報告  
書第21集:236-243

小野寺祥一郎 1980『金取遺跡』宮城県文化財調査報告書第70集

小畑弘己 2016「縄文時代の環境変動と植物利用戦略」『考古学研究』63-3:24-37

小保内裕之 2008「陸奥大木系土器(榎林式・最花式・大木10式併行土器)」『総覧縄文土器』:368-375 アムプロモーシ  
ョン

親泊宗一郎・加古川伊武紀・阿部善也・大屋道則・中井泉 2019「日本全国土砂データベースを用いた埼玉県域の遺跡出土  
縄文土器の産地推定の試み」『日本文化財科学会第36回大会』

柿沼修平 1977「加曽利 E 式土器終末の諸段階」『奈和』15:1-28

葛西励 1979「十腰内 I 式土器の編年的細分」『北奥古代文化』11:1-9

葛西励 2002『再葬土器棺墓の研究 縄文時代の洗骨葬』「再葬土器棺墓の研究」刊行会

葛西励 2006『続・再葬土器棺墓の研究 切断壺形土器と子供の再葬を考える』「再葬土器棺墓の研究」刊行会 同成社

河西学 2008「胎土分析と産地推定」『土器を読み取る 縄文土器の情報』縄文時代の考古学7:17-30 同成社

- 河西学 2011a 「伊豆諸島出土縄文土器の岩石学的手法による胎土分析」『環境史と人類』5 : 151-181
- 河西学 2011b 「第 9 章 異系統土器が共存する遺跡—土器胎土分析で製作地が区別できるか—」『異系統土器の出会い』 : 197-230 同成社
- 河西学 2011c 「阿玉台式土器胎土の岩石学的手法による予察的検討—松戸市八ヶ崎遺跡の事例から—」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』15 : 49-67
- 河西学 2012 「栃木県出土縄文早期土器の岩石学的手法による胎土分析」『国立歴史民俗博物館研究報告』172 : 209-229
- 河西学 2015 「縄文土器原料からみた土器の移動」『山梨県考古学協会誌』23 : 1-8
- 河西学 2018 「土器胎土からみた縄文土器の混和材 多摩ニュータウン No.72 遺跡、No.245 遺跡の事例」『帝京大学文化財研究所研究報告』17 : 83-99
- 河西学 2019 「胎土分析と地質」『考古学ジャーナル』724 : 6-10
- 河西学・佐藤信之 2019 「新潟県津南町道尻手遺跡出土縄文中期馬高式土器の岩石鉱物組成からみた原料産地」『日本文化財科学会第 36 回大会』
- 鹿島町 1999 『鹿島町史』第三巻 資料編 2 原始・古代・中世
- 加藤道男・阿部博志・小徳晶 1984 『東北自動車道遺跡調査報告書 9』宮城県文化財調査報告書第 99 集
- 加藤めぐみ・福沢仁之・安田喜憲・藤原治 1998 「鳥取県東郷池湖底堆積物の層序と年縞」『汽水域研究』5 : 27-37
- 神奈川考古同人会 1980 『シンポジウム 縄文時代中期後半の諸問題』土器資料集成図録
- 神奈川考古同人会 1981 「シンポジウム 縄文時代中期後半の諸問題—とくに加曾利 E 式と曾利式土器との関係について—」『神奈川考古』11
- 金内元 2009 「下越地方における縄文時代後期前葉末～中葉の土器について」『新潟県の考古学 II』 : 191-206
- 金内元 2012 「新潟県の後期前葉土器研究の展望—南三十稲場式土器について—」『第 25 回縄文セミナー 縄文後期土器研究の現状と課題』 : 35-69
- 金内元 2015 「仙台湾における「南三十稲場式系統」の土器について」『三面川流域の考古学』13 : 21-38
- 金内元 2018 「「アチャ平 3 期」を再考する—三十稲場式と南三十稲場式の併行関係を中心に—」『三面川流域の考古学』16 : 17-26
- 金子昭彦 1997 「岩手県平沢 I 遺跡における蛭沢式期の集落構造—東北地方における縄文時代後期初頭の集落—」『紀要』XVII 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター : 37-52
- 金子直行 2008 「条痕文系土器」『総覧縄文土器』 : 138-145
- 金子直世 1991 「縄文時代中期初頭の居住形態—五領ヶ台期集落の検討—」『物質文化』55 : 1-21
- 金子優子 2002a 「第 V 章 遺物 2 縄文土器 B 分類 (3) 後期前葉」『第七章 まとめ 1 土器・土製品 A 変遷と地域性 (1) 後期前葉の土器様相』『元屋敷遺跡 II (上段) 本文編』朝日村文化財調査報告書第 22 集 : 112-120・429-437
- 金子優子 2002b 「奥三面における後期前半の土器様相」『第 15 回縄文セミナー 後期前半の再検討』 : 44-49
- 加納実 1989 「千葉県における加曾利 E 式土器後半の様相」『第 3 回縄文セミナー 縄文中期の諸問題』 : 217-254
- 加納実 1994 「加曾利 EIII・EIV 式土器の系統分析—配列・編年の前提作業として—」『貝塚博物館紀要』21 千葉市立加曾利貝塚博物館 : 1-41
- 加納実 2000a 「集落的居住の崩壊と再編成—縄文中・後期集落への接近方法—」『先史考古学論集』9 : 63-104
- 加納実 2000b 「武士遺跡出土の関西系土器群の再評価」『貝塚博物館紀要』27 千葉市立加曾利貝塚博物館 : 25-46
- 加納実 2003 「縄文時代後期堀之内 1 式土器の系統分析」『貝塚博物館紀要』30 千葉市立加曾利貝塚博物館 : 22-64
- 加納実 2004 「運ばれてきた土器」『千葉県の歴史』通史編 原始・古代 1 : 357-374

- 加納実 2008a 「搬入土器・異系統土器」『縄文時代の考古学』7 土器を読み取る：217-238 同成社
- 加納実 2008b 「堀之内式土器」『総覧縄文土器』：586-593 アムプロモーション
- 加納実 2019 「堀之内 1 式土器研究の現状—千葉県域の資料を中心に—」『東海縄文研究会 第 8 回例会「東海からみた後期前葉土器群」その 2』：1-12
- 加納実 2020 「堀之内 1 式土器の個体別系統分析について」『特別研究講座 考古学研究の最前線—パラダイムシフト 縄文時代をどう捉えるか—』当日配布資料
- 神松幸弘 2018 「縄文人の資源利用と土地利用に関する生態学的研究 (1)」『環太平洋文明研究』2：59-78
- 神村透 1999 「縄文中期後半の火災住居址—伊那・松本・木曾の事例から—」『信濃』50-14：644-655
- 上守秀明 1994 「東関東中期拠点集落における異系統土器の在り方について (1)」『史館』25：117-121
- 川名広文 1985 「柄鏡形住居址の埋甕にみる象徴性」『土曜考古』10：73-95
- 菅野智則 2003 「縄文集落研究の初期的操作」『歴史』101：103-128 東北史学会
- 菅野智則 2005 「縄文時代中期集落の構造」『文化』59-1・2：65-44 (112-133) 東北大学文学会
- 菅野智則 2006 「北上川流域における中期後半集落の研究—炉構造による住居跡形態の差異—」『宮城考古学』8：93-104
- 菅野智則 2007a 「東北地方縄文時代中期後半土器の研究—器形変化に関する属性分析—」『考古学談叢』須藤隆先生退任記念論文集：265-285
- 菅野智則 2007b 「北上川流域における縄文時代中期後半集落の地域性」『博古研究』34：14-25
- 菅野智則 2007c 「北上川流域における縄文集落の構造—複式炉と構成単位—」『日中交流の考古学』：11-25 同成社
- 菅野智則 2009 「北上川流域縄文時代中期から後期における土器の器形変化と地域性に関する研究」『東北文化研究室紀要』50 東北大学文学部：17-35
- 菅野智則 2011a 「東北地方における中期後半大木式土器に関する研究基盤の成立過程」『博古研究』41：21-35
- 菅野智則 2011b 「中期後半大木式土器に関する学史的検討を通じた方法論的展開」『博古研究』42：1-16
- 菅野智則 2011c 「北上川流域の縄文集落遺跡」『季刊東北学』26：84-101 東北芸術工科大学東北文化研究センター・柏書房
- 菅野智則 2012 「宮城県における縄文中期から後期にかけての様相」『公開シンポジウム予稿集 東北地方における中期／後期変動期 4・3ka イベントに関する考古学現象①』：71-84
- 菅野智則 2015 「東北縄文集落の姿」『北の原始時代』：100-132 吉川弘文館
- 菅野智則 2017 「大木式土器の地域性に関する学史的検討 東北地方北部における中期後半土器型式編年研究を通じて」『博古研究』53：34-43
- 菅野美香子・栄一郎・三浦俊成 2006 『深渡遺跡』秋田県文化財調査報告書第 407 集
- 菊池寛子 2004 「三十稲場式類似土器の施文方法について」『岩手考古学』16：25-34
- 菊池実 1988 「群馬県内における縄文時代の配石遺構覚書」『群馬の考古学』：161-172
- 菊池祥宏 2016 「縄文時代住居内埋設土器の展開」『アーキオ・クレイオ』13：17-44 東京学芸大学
- 北日本縄文文化研究会 2014 『北日本縄文時代埋設土器・埋設遺構集成』北日本縄文文化研究会叢書 2
- 君島武史 2014 「岩手県南部の埋設土器・埋設遺構集成」『北日本縄文時代埋設土器・埋設遺構集成』北日本縄文文化研究会叢書 2：425-502
- 桐生直彦 1990 「火災住居址から見た家財道具の在り方—東京都における縄文時代の事例分析—」『東国史論』5：33-46
- 草間俊一・金子浩昌 1971 『貝鳥貝塚』花泉町教育委員会
- 榎原功一 1993 「曾利 I 式土器の再検討—山梨県大泉村姥神遺跡の資料をもとに—」『縄文時代』4：1-19

- 櫛原功一 1999 「曾利式土器の編年私案」『山梨考古学論集』IV : 143-164
- 櫛原功一 2008a 「曾利式土器」『総覧縄文土器』: 426-435 アムプロモーション
- 櫛原功一 2008b 「曾利式土器の分布圏」『山梨県考古学協会誌』18 : 5-20
- 櫛原功一 2014 「曾利式土器編年の再検討」『山梨考古学論集』VII : 63-98
- 櫛原功一 2016 「武蔵野・多摩地域周辺の土器系統: 曾利式—多摩地域の曾利式土器—」『シンポジウム縄文研究の地平 2016—新地平編年の再構築—』: 92-112
- 櫛原功一 2019 「多摩地域の曾利式(系)土器」『考古学の地平II—縄文時代中期の土器論と生業研究の新視点—』: 115-131  
六一書房
- 工藤雄一郎 2012 『旧石器・縄文時代の環境文化史』新泉社
- 工藤雄一郎・佐々木由香・坂本稔・小林謙一・松崎浩之 2007 「東京都下宅部遺跡から出土した縄文時代後半期の植物利用  
に関連する遺構・遺物の年代学的研究」『植生史研究』15-1 : 5-17
- 國木田大 2009a 『東日本における縄文時代後半期の環境変動と人間活動の編年学的研究』東京大学大学院新領域創成科学  
研究科博士論文
- 國木田大 2009b 「東日本におけるトチノキ利用の変遷年代と環境変動」『國學院大學伝統文化リサーチセンター「祭祀遺跡  
に見るモノと心」平成 21 年度フォーラム「環状列石をめぐるマツリと景観」要旨集』: 29-34
- 國木田大 2012 「縄文時代中・後期の環境変動とトチノキ利用の変遷」『公開シンポジウム予稿集 東北地方における中期/  
後期変動期 4・3ka イベントに関する考古学現象①』: 85-94
- 熊谷常正 1986 「門前式土器の検討」『岩手県立博物館研究紀要』4 : 39-61
- 黒尾和久 1995 「縄文中期集落遺跡の基礎的検討 (I) —時間軸の設定とその考え方について—」『論集宇津木台』1 : 11-76
- 黒尾和久 2016 「基調報告 3: 加曾利 E 式」『シンポジウム縄文研究の地平 2016—新地平編年の再構築—発表要旨』: 47-65
- 黒尾和久・小林謙一・中山真治 1995 「多摩丘陵・武蔵野台地を中心とした縄文時代中期の時期設定」『シンポジウム縄文  
中期集落研究の新地平』: 1-21
- 黒尾和久・小澤政彦 2014 「IV. 出土遺物 1. 縄文土器」『緑川東遺跡—第 27 地点—』国立市文化財調査報告第 55 集 : 38-45
- 額瀨茂 2006 「縄文時代中期後半土器の施文順序」『名古屋市見晴台考古資料館研究紀要』8 : 31-36
- 額瀨茂 2017 「咲畑式から神明・取組式へ」『第 2 回東海縄文研究会シンポジウム予稿集「咲畑式とその周辺」』: 37-44
- 額瀨茂・高橋健太郎 2008 「中富式・神明式土器」『総覧縄文土器』: 494-501 アムプロモーション
- 合田恵美子 2004 「加曾利 E4 式土器における文様施文方法の変化に関する試論」『時空をこえた対話—三田の考古学—』  
慶應義塾大学民族学考古学専攻設立 25 周年記念論集 : 79-84
- 合田恵美子 2007 「第 4 節 縄文時代 第 2 節 土器研究 5. 中期末葉～後期前葉」『研究紀要』15 財団法人栃木県文化振興事  
業団 : 136-146
- 小暮伸之 2003a 「外縁地域の大木式土器—馬場前遺跡における縄文時代中期後半の土器群の変遷—」『研究紀要』2002 檜  
葉町馬場前遺跡の調査成果 福島県文化財センター白河館 : 129-152
- 小暮伸之 2003b 「縄文中期集落における火災住居の性格—馬場前遺跡・上ノ台 A 遺跡の事例分析から—」『研究論考』福  
島県文化財センター白河館 : 131-146
- 小暮伸之 2004 「福島県出土の曾利系土器」『福島考古』45 : 17-26
- 小暮伸之 2005 「富岡町前山 A 遺跡出土の大木 8b・9 式土器—キャリパー形深鉢の変遷と異系統土器について—」『福島考  
古』46 : 15-24
- 越川敏夫・藤原均 1987 『深名瀬島遺跡調査報告書』富浦町教育委員会

- 小杉康 1984 「物質的事象としての搬出・搬入、模倣 製作」『駿台史学』60 : 160-172
- 小杉康 1985 「鳥浜貝塚における搬入土器、模倣土 器の研究 (1) —分析細目とカタログ作成—」『鳥浜貝塚 1984 年度調査概報・研究の成果』: 20-36 福井県立若狭歴史民俗資料館
- 小杉康 1995 「土器型式と土器様式」『駿台史学』94 : 58-131
- 小杉康 2013 「大規模記念物と北海道縄文後期の地域社会について (予察)」『北海道考古学』49 : 35-49
- 小杉康 2014 「文化制度としての縄文モニュメント」『日本考古学協会 2014 年度伊達大会研究発表資料集 貝塚研究の新視点 墓とモニュメント』: 805-818
- 後藤勝彦 1956 「宮城県宮戸島里浜台囲貝塚の研究」『地域社会研究』7・8 輯 : 191-202
- 後藤勝彦 1957 (1990 再録) 「陸前宮戸島里浜貝塚出土の土器編年について」『塩竈市教育委員会教育論文』2 (『仙台湾貝塚の基礎的研究』: 75-84)
- 後藤勝彦 1962 「陸前宮戸島里浜台囲貝塚出土の土器について—陸前地方後期縄文式文化の編年の研究—」『考古学雑誌』48-1 : 37-48
- 後藤勝彦 1967 『新産業都市指定地区埋蔵文化財緊急発掘調査等報告書』宮城県文化財調査報告書第 13 集
- 後藤勝彦 1974 「縄文後期宮戸 I b 式周辺の吟味」『東北の考古・歴史論集』: 79-110 平重道先生還暦記念会
- 後藤勝彦 1981 「縄文後期の土器 東北地方」『縄文土器大成』3 後期 : 139-143 講談社
- 後藤勝彦 2004 「南境貝塚調査の層位的成果 (1) 7 トレンチの場合陸前地方縄文時代中期から後期の編年学的研究」『宮城考古学』6 : 63-110
- 後藤勝彦 2005 「南境貝塚調査の層位的成果 II 8 トレンチの場合 陸前地方縄文時代中期から後期の編年学的研究」『宮城史学』24 : 1-29
- 後藤勝彦 2008a 『西の浜貝塚』松島町文化財調査報告書第 1 集
- 後藤勝彦 2008b 『西の浜貝塚 R・S トレンチの調査 (昭和 34 年・昭和 35 年)』松島町文化財調査報告書第 3 集
- 後藤勝彦 2009 『西の浜貝塚 N トレンチの調査 (昭和 34 年)』松島町文化財調査報告書第 4 集
- 後藤信祐 2005a 「堂ヶ原遺跡の複式炉の再検討—栃木県における複式炉の終焉—」『研究紀要』13 財団法人とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター : 25-40
- 後藤信祐 2005b 「栃木県における複式炉の諸相」『日本考古学協会 2005 年度福島大会 シンポジウム資料集』: 167-180
- 後藤信祐 2007 「那須町向山神社跡遺跡の石組複式炉の再評価」『栃木県考古学会誌』28 : 13-28
- 後藤信祐 2009 「栃木県における縄文中期後半～後期前半の「埋甕」の様相」『野洲考古学論巧—中村紀男先生追悼論集—』: 171-192
- 後藤信祐 2010 「加曽利 E 式の複式炉・大木の複式炉—掘り方・埋設土器の相違からみた槻沢遺跡の複式炉の検討—」『研究紀要』18 財団法人とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター : 3-18
- 後藤信祐 2017a 「栃木県における曾利式系土器の様相」『研究紀要』25 公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター : 13-34
- 後藤信祐 2017b 「栃木県における「倒置深鉢」の様相—那須塩原市槻沢遺跡の発掘調査事例を中心に—」『二十一世紀考古学の現在』: 169-179 六一書房
- 後藤信祐 2020 「栃木県北東部における敷石住居の出現と柄鏡形住居の受容—那須塩原市槻沢遺跡の発掘調査成果を中心に—」『研究紀要』28 公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター : 29-44
- 小林圭一 2012 「富並川流域の縄文時代の遺跡動態—西海淵・川口・宮の前遺跡の検討を通して—」『東北地方における環境・生業・技術に関する歴史動態的総合研究 研究成果報告書 I』: 125-198

- 小林圭一 2017「縄文時代中期「小梁川・大梁川編年」に関する覚書」『研究紀要』16 東北芸術工科大学東北文化研究センター：3-24
- 小林圭一 2019「第5章 山形県の縄文時代後期について」『第27回企画展 縄文時代後期の山形』：45-58 山形県うきたむ風土記の丘考古資料館
- 小林圭一 2020「馬見ヶ崎川扇状地における縄文時代の遺跡動態」『研究紀要』12 公益財団法人山形県埋蔵文化財センター：3-42
- 小林謙一 2007「大木9・10式土器の年代測定事例集—批判に対する上での覚書—」『セツルメント研究』6：117-150
- 小林謙一 2008「縄文時代の暦年代」『縄文時代の考古学』2 歴史のものさし：257-269 同成社
- 小林謙一 2017『縄紋時代の実年代—土器型式編年と炭素14年代—』同成社
- 小林謙一 2019「縄紋土器編年研究の方向性—南西関東地方縄紋中期を題材に—」『考古学の地平Ⅱ—縄文時代中期の土器論と生業研究の新視点—』：1-36 六一書房
- 小林謙一 2020「第七章 南西関東縄紋中期後葉から後期前葉における推定人口と気候変動」『先史・古代の気候と社会変化』気候変動から読みなおす日本史3：191-214 臨川書店
- 小林謙一・中山真治・黒尾和久 2004「多摩丘陵・武蔵野台地を中心とした縄文時代中期の時期設定（補）」『シンポジウム 縄文集落研究の新地平 3—勝坂から曾利へ—発表要旨』：3-30
- 小林達雄 1985「縄文文化の終焉」『日本史の黎明—八幡一郎先生頌寿記念考古学論文集』：231-253 六興出版
- 小林達雄編 2008『総覧縄文土器』アムプロモーション
- 小林弘卓 2018「Ⅶ総括 1 遺構 (2) 配石遺構」『赤浜Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第690集：268-269
- 小原眞一 1993「柳上遺跡の炉—縄文時代中期末のいわゆる複式炉を中心に—」『紀要』XⅢ岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター：107-116
- 駒井和愛 1973『日本の巨石文化』学生社
- 駒形敏明 1981『岩野原遺跡』長岡市教育委員会
- 駒木野智寛 2004「複式炉の研究—岩手県内における複式炉の地域別分布傾向とその分析—」『紀要』XⅩⅢ 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター：41-60
- 駒木野智寛 2009「北東北の縄文集落の研究」『紀要』XⅩⅧ岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター：25-52
- 駒木野智寛 2015『東北地方における縄文集落の立地と堅穴住居形態に関する地理学的研究』
- 駒木野智寛・相原淳一 2014「岩手県における古津波堆積層と遺跡」『岩手考古学』25：7-20
- 小宮山隆 1994「縄文時代中期後半の遺跡分布と集落変遷—中部地方の集落遺跡を主眼として—」『筑波大学先史学・考古学研究』5：1-31
- 小山修三 1983「人口変動と稲作の成立」『日本農耕文化の源流』：347-373
- 斎藤忠 1971「大湯環状列石と日本の縄文時代の類似遺跡について」『北奥古代文化』3：2-7
- 酒井宗孝 1987「岩手県北部における縄文中期後葉から後期前葉の住居跡」『紀要』Ⅶ岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター：45-70
- 酒井宗孝 1998「岩手県北部における縄文時代中期の土器様相」『紀要』XⅧ岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター：37-52
- 阪口豊 1989『尾瀬ヶ原の自然史 景観の秘密をさぐる』中公新書
- 坂本匠 2017「季節性からみる縄文時代後期の水産資源利用—八木原貝塚における貝殻成長線分析—」『駿台史学』160：



- 坂本真弓 2002 「沢部型複式炉の現在—青森県内の複式炉集成から—」『海と考古学とロマン』: 83-99
- 佐々木彰 1989 「縄文中期末—後期初頭の配石遺構“遺跡”について」『東京大学文学部考古学研究室紀要』7: 61-91
- 佐々木藤雄 2001 「環状列石と地域共同体」『異貌』19: 54-69
- 佐々木藤雄 2002 「環状列石と環状周堤墓—二つの階層墓論のためのノート—」『異貌』20: 95-128
- 佐々木藤雄 2003 「柄鏡形敷石住居址と環状列石」『異貌』21: 112-129
- 佐々木藤雄 2005 「環状列石初現考（上）—環状集落中央墓地の形成と環状列石—」『長野県考古学会誌』109: 1-17
- 佐々木藤雄 2007 「環状列石初現考（下）—環状集落中央墓地の形成と環状列石—」『長野県考古学会誌』120: 1-28
- 佐々木藤雄 2008 「東北の環状列石 その謎に迫る」『季刊東北学』15: 46-57 東北芸術工科大学東北文化研究センター・柏書房
- 佐々木藤雄 2010 「環状列外縁の掘立柱建物群」『異貌』27: 75-91
- 佐々木藤雄 2016 「中間地帯の環状列石」『異貌』33: 56-91
- 佐々木由香 2013 「縄文時代のマメ類利用の研究—三内丸山遺跡を中心として—」『特別史跡三内丸山遺跡年報』16: 61-69
- 佐々木由香 2020 「植物資源利用からみた縄文文化の多様性」『縄文文化と学際研究のいま』季刊考古学別冊 31: 69-84 雄山閣
- 佐々木由香・能城修一 2019 「植物資源利用から見た関東地方の縄文時代後・晩期の生業」『縄文文化の繁栄と衰退』: 27-50 雄山閣
- 佐藤啓 1998 「集落研究における複数住居遺跡群の検討～「特性」と「居住回数」～を用いて」『しのぶ考古』11: 1-22
- 佐藤洋・結城慎一・篠原信彦・吉岡恭平・藤原妃敏・安田喜慶 1981 『山口遺跡』仙台市文化財調査報告書第 33 集
- 佐藤洋・渡部紀 1987 『六反田遺跡Ⅲ』仙台市文化財調査報告書第 102 集
- 佐藤宏之編 2015 『季刊考古学』132 雄山閣
- 佐藤雅一・佐藤信之・今井哲哉編 2012 『三十稻場式土器文化の世界—4・3Ka イベントに関する考古学現象②—予稿集』津南学叢書第 18 輯
- ジェラード・グロード・篠遠喜彦 1952 『姥山貝塚』日本考古学研究所
- 志賀敏行 1990 「綱取 I 式土器編年序説」『史峰』15: 26-35 新進考古学同人会
- 設楽博己 1993 「縄文時代の再葬」『国立歴史民俗博物館研究報告』49: 7-46
- 設楽博己 2004 「再葬の背景 縄文・弥生時代における環境変動との対応関係」『国立歴史民俗博物館研究報告』112: 357-379
- 設楽博己 2009 「縄文・弥生時代の祖先祭祀と親族組織」『考古学研究』56-2: 28-43
- 設楽博己 2017 『弥生文化形成論』塙書房
- 品田高志 2002 「新潟県における縄文後期前葉の土器群—柏崎市十三本塚北遺跡を中心にして—」『第 15 回縄文セミナー 後期前半の再検討—記録集—』: 32-43
- 品田高志・平吹清 2001 『十三本塚北』柏崎市埋蔵文化財調査報告書第 37 集
- 柴正敏 2014 「津軽の地質と縄文土器原料」『第四紀研究』53-5: 249-257
- 柴正敏・関根達人 2015 「胎土分析からみた亀ヶ岡式土器の製作地 土器胎土に含まれる火山ガラスの帰属について」『考古学と自然科学』67: 39-46
- 清水潤三 1958 「千葉県栗山川溪谷における貝塚の地域的研究（豫報）」『史學』31-1・2・3・4: 193-230 三田史學會
- 主濱光明 1987 『山田上ノ台遺跡』仙台市文化財調査報告書第 100 集
- 主濱光明 1995 「大野田遺跡」『仙台市史』特別編 2 考古資料: 134-137

- 縄文研究の地平グループ・セツルメント研究会 2016『シンポジウム縄文研究の地平 2016—新地平編年の再構築—発表要旨』
- 縄文研究の地平グループ・セツルメント研究会 2017『研究集会縄文研究の地平 2017 —土器から探る勝坂式と加曾利 E 式の間—発表要旨・資料集』
- 縄文時代研究プロジェクトチーム 2002「神奈川県における縄文時代文化の変遷VI—中期後葉期 加曾利 E 式土器文化期の様相 その 2」『研究紀要』7 かながわ考古学財団：17-34
- 縄文時代文化研究会 2001『列島における縄文時代集落の諸様相』
- 縄文セミナーの会 1989『第 3 回縄文セミナー 縄文中期の諸問題』
- 縄文セミナーの会 1990『第 4 回縄文セミナー 縄文後期の諸問題』
- 縄文セミナーの会 1998『第 11 回縄文セミナー 中期中葉から後葉の諸様相』
- 縄文セミナーの会 2002『第 15 回縄文セミナー 後期前半の再検討』（資料集）
- 縄文セミナーの会 2003『第 16 回縄文セミナー 中期後半の再検討』
- 縄文セミナーの会 2007『第 20 回セミナー 中期終末から後期初頭の再検討』
- 新藤健 2007「曾利式土器の外縁地域—縄文時代中期後半における柳瀬川上・中流域の土器様相—」『埼玉考古』42：27-50
- 末木健 1981「曾利式土器」『縄文文化の研究』4 縄文土器Ⅱ：84-92 雄山閣
- 末木健 1984「曾利式土器圏縁辺部の様相」『山梨考古』14：4-13
- 末木健 1988「曾利式土器様式」『縄文土器大観』3 中期Ⅱ：271-275 小学館
- 須賀博子 2014「居住形態と食料資源の選択と構成」『縄文時代の資源利用と社会』季刊考古学別冊 21：66-73 雄山閣
- 菅原祥夫 2003「複式炉の成立過程とその意義」『福島考古』44：27-46
- 菅原哲文 1999「山形県における縄文時代中期の土器様相—中期後半の編年を中心として—」『山形考古』6：37-55
- 菅原哲文 2012「最上川流域の縄文時代中期末から後期にかけての様相」『公開シンポジウム予稿集 東北地方における中期／後期変動期 4・3ka イベントに関する考古学現象①』：59-70
- 菅原哲文 2014「最上川中流域における縄文時代中期から後期の遺跡分布」『研究紀要』6：27-48 山形県埋蔵文化財センター
- 菅原哲文 2016「最上川上流域における縄文時代中期から後期の遺跡分布」『研究紀要』8：51-70 山形県埋蔵文化財センター
- 菅原哲文 2017「最上川中・下流域における縄文時代中期から後期の遺跡分布」『研究紀要』9：45-74 山形県埋蔵文化財センター
- 菅原哲文 2019「第 7 章 山形県内の縄文時代中期後半の炉と土器の変遷～置賜地方の資料を中心として～」『2019 年度特熱テーマ展 花沢 A 遺跡と置賜の縄文時代中期後半の世界』山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館：47-60
- 鈴鹿良一 1982「遺物について 縄文土器」『馬見塚遺跡』相馬市文化財調査報告書：123-126
- 鈴鹿良一 1984『上ノ台 A 遺跡（第一次）』真野ダム関連遺跡発掘調査報告Ⅴ福島県文化財調査報告書第 128 集
- 鈴鹿良一 1986「複式炉と敷石住居」『福島の研究』1 地質考古編：144-174 清文堂
- 鈴鹿良一・押山雄三 1989「福島県における縄文時代中期末葉から後期前葉の住居址」『シンポジウム縄文の配石と集落—三春町西方前遺跡と柴原 A 遺跡の問題点』資料集・討議集 三春町教育委員会
- 鈴木克彦 1996「東北地方北部における十腰内式土器様式の編年学的研究 十腰内 2 式の研究」『考古学雑誌』81-4：1-57
- 鈴木克彦 1998「東北地方北部における十腰内式土器様式の編年学的研究・4—十腰内 1 式とその直前型式の研究—」『縄文時代』9：81-117

- 鈴木克彦 2000 「東北地方北半部の中期・後期区分に関する編年学的研究（上）—大曲 1 式などの中期末葉の土器群—」『縄文時代』11：41-68
- 鈴木克彦 2001a 「東北地方北半部の中期・後期区分に関する編年学的研究（下）—門前式などの後期初葉の土器群—」『縄文時代』12：63-88
- 鈴木克彦 2001b 『北日本の縄文後期土器編年の研究』雄山閣
- 鈴木克彦 2004 「門前式土器様式の編年学的研究—門前様式の再構築と細分指標—」『考古学雑誌』88-4：28-59
- 鈴木克彦 2011a 「縄文階層・階級論の履歴 1」『榎檀林の考古学』：175-190 大竹憲治先生還暦記念論文集刊行会
- 鈴木克彦 2011b 「縄文階層・階級論の履歴 2」『史峰』39：54-76 新進考古学同人会
- 鈴木克彦編 2007 『季刊考古学』101 雄山閣
- 鈴木源 1997 「網取Ⅱ式土器覚書—深鉢形土器を中心として—」『史峰』23：1-14 新進考古学同人会
- 鈴木康二 2008 「北白川下層式土器」『総覧縄文土器』：312-319 アムプロモーション
- 鈴木徳雄 1990a 「称名寺・堀之内 1 式土器の諸問題」『第 4 回縄文セミナー 縄文後期の諸問題』：1-48
- 鈴木徳雄 1990b 「称名寺式土器」『調査研究集録』7：17-92 横浜市埋蔵文化財センター
- 鈴木徳雄 1991 「称名寺式の変化と文様帯の系統」『土曜考古』16：25-68
- 鈴木徳雄 1993 「称名寺式の変化と中津式」『縄文時代』4：21-51
- 鈴木徳雄 1995 「称名寺式の文様施文過程と伝統一文様描線の対応と結合方式—」『縄文時代』6：37-62
- 鈴木徳雄 1999a 「関東地方 後期（堀之内式）」『縄文時代』10 第 1 分冊：324-331
- 鈴木徳雄 1999b 「称名寺式関沢類型の後裔—堀之内 1 式期における小仙塚類型群の形成—」『縄文土器論集』：337-370 縄文セミナーの会
- 鈴木徳雄 2007a 「称名寺式土器研究の諸問題」『第 20 回縄文セミナー中期終末から後期初頭の再検討』：1-58
- 鈴木徳雄 2007b 「称名寺式と異系統土器の共存の問題—諸類型の形成過程と土器群の編成（覚書）—」『縄紋社会をめぐるシンポジウム 5 縄紋社会の変動を読み解く予稿集』：51-70
- 鈴木徳雄 2011 「称名寺式における異系統土器の共存—異系統土器の移入と変容の過程—」『異系統土器の出会い』：49-72 同成社
- 鈴木徳雄 2012 「堀之内式土器研究の諸問題—堀之内式の概観と周辺諸型式」『第 25 回縄文セミナー 縄文後期土器研究の現状と課題』：71-131
- 鈴木徳雄 2013a 「称名寺式前後の土器の存在形態と変化—土器系統の存在形態と器種の推移—」『公開シンポジウム予稿集 関東甲信越地方における中期／後期変動期 4・3ka イベントに関する考古学現象③』：51-70
- 鈴木徳雄 2013b 「第三章 地域の様相 三関東」『縄文時代 上』講座日本の考古学 3：275-324
- 鈴木徳雄 2018 「縄紋後期前半における土器型式の存立構造—関東信越地域の「型式」と諸“類型”—」『地域考古学』3：1-51
- 鈴木宏和 2019 「縄文時代前期初頭における撚糸側面圧痕紋土器の再検討—花積下層式と上川名式の属性比較からみる遺跡間関係—」『潮航』37：49-78
- 鈴木宏和 2020 「縄紋回転技法からみた上川名式土器」『古代』146：27-63
- 鈴木裕芳 1980 「第 7 章 成果と課題 第 2 節 諏訪遺跡出土の第 6 群土器について」『諏訪遺跡発掘調査報告書』：185-187 日上市教育委員会
- 鈴木めぐみ 2012 「気仙地方における縄文遺跡の分布傾向と特徴について」『岩手考古学』23：27-51
- 鈴木素行 2007 「X 向野 E 遺跡における縄文時代中期後葉の集落跡について—君ヶ台貝塚の再検討を添えて—」『向野遺

- 跡群』財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告第36集：235-254
- 鈴木素行 2019「Ⅲ 調査の成果と課題」『君ヶ台遺跡（第7次） 松原遺跡（第4次） 相対古墳群（第2次） 東原遺跡（第3・4次）』ひたちなか市遺跡調査会：34-42
- 鈴木保彦 1985「縄文集落の衰退と配石遺構の出現」『日本史の黎明』：75-97 六興出版
- 鈴木保彦 1986「中部・南関東地域における縄文集落の変遷」『考古学雑誌』71-4：30-53
- 鈴木保彦 2014「晩氷期から後氷期における気候変動と縄文集落の盛衰」『縄文時代』25：1-28
- 鈴木保彦 2020「縄文時代の気候変動及び海流と縄文文化」『縄文時代』31：1-26
- 鈴木保彦・山本暉久 1988「加曾利 E 式土器様式」『縄文土器大観』2 中期 I：325-330 小学館
- 鈴木保彦・山本暉久・戸田哲也 1984「神奈川県における縄文集落の変遷」『日本考古学協会昭和 59 年度大会シンポジウム 縄文集落の変遷』日本考古学協会
- 関根慎二 2008「諸磯式土器」『総覧縄文土器』：282-289
- 関根達人 2014「青森県における縄文時代の遺跡数の変遷」『第四紀研究』53：193-203
- 瀬口眞司 2009『縄文集落の考古学 西日本における定住集落の成立と展開』昭和堂
- 千田政博 2020『西平内 I 遺跡発掘調査報告書』洋野町埋蔵文化財調査報告書第9集
- 大工原豊 2017「関東地方北部における配石墓（石棺墓）の出現と展開」『考古学ジャーナル』702：12-16
- 高木晃 1994「土器の移動と交流Ⅱ—東北地方出土の三十稲場式土器について」『第13回岩手県考古学会研究大会発表要旨』
- 高木晃 1995「岩手県の縄文後期初頭土器群の一様相」『紀要』XV 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター：63-71
- 高田和徳 1999「縄文時代の火災住居」『考古学ジャーナル』447：2-3
- 高田和徳「第3章第3節 御所野遺跡の時期と変遷」『御所野遺跡V 総括報告書』一戸町文化財調査報告書第70集：197-206
- 高田博ほか 1985『千原台ニュータウンⅢ 草刈遺跡（B区）』千葉県文化財センター調査報告第117集
- 高橋岳 2017『泉沢屋敷遺跡発掘調査報告』釜石市埋蔵文化財調査報告書第30集
- 高橋龍三郎 2007「縄文中期の社会構造」『縄文時代の社会考古学』：59-81 同成社
- 高橋龍三郎 2014「縄文社会の複雑化」『縄文時代（下）』講座日本の考古学4：616-651 青木書店
- 田川良・小川和博 1982「千葉県における縄文時代中期土器の変遷（I）」『日本考古学研究所集報』IV：33-42
- 滝沢規朗 2012「新潟県村上市長割遺跡の南三十稲場式土器について」『第25回縄文セミナー 縄文後期土器研究の現状と課題』：1-34
- 滝沢規朗・坂上有紀・藤根久・山崎健ほか 2011『長割遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第224集
- 田代寛 1968『鉢木遺跡の袋状土壌—栃木県那須郡黒羽町鉢木遺跡の袋状土壌とその諸性質—』塩谷郷土史館研究報告第2集 塩谷郷土史館
- 建石徹 2020「土器胎土分析の動向」『文化財化学』80：45-59
- 建石徹・降幡順子・千葉毅 2016「神奈川県立歴史博物館所蔵横浜市称名寺貝塚採集土器の胎土分析および赤色顔料分析」『神奈川県立博物館研究報告 人文科学』43：113-120
- 田中耕作 1985「所謂三十稲場式土器の成立について」『信濃』37-4：130-151
- 田中耕作 1989「三十稲場土器様式」『縄文土器大観』4 後期・晩期・続縄文：266-269 小学館
- 田中耕作 1990「三十稲場式土器研究の現状と課題」『新潟考古学談話会会報』5：1-6
- 田中耕作 1999a「中部地方 後期（三十稲場式・南三十稲場式）」『縄文時代』10 第2分冊：67-76
- 田中耕作 1999b「第2章 縄文時代 第2項 後期」『新潟県の考古学』：105-113
- 田中耕作 2002「新潟県における縄文時代後期前葉の土器群」『第15回縄文セミナー 後期前半の再検討—記録集—』：50-63

- 田中耕作 2019 「第2章 縄文時代 第2節 土器 第5項 後期 2編年と地域性 1) ～6)」『新潟県の考古学Ⅲ』: 106-109
- 田中則和 1981 『六反田遺跡発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第34集
- 田中浩江 2016 「第5章 総括 第1節 出土土器の傾向 滝ノ上遺跡に見る『磨消縄文』手法」『滝ノ上遺跡Ⅳ』常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第50集: 332
- 谷井彪 1977 「称名寺式土器の推移について」『埼玉県立博物館紀要』3: 55-67
- 谷井彪 1979 「加曾利 EⅡ式土器の覚書」『埼玉県立博物館紀要』5: 22-41
- 谷井彪 1987 「塚原遺跡出土の曾利式土器について—中部高地における文様の系譜—」『研究紀要』9 埼玉県立歴史資料館: 89-123
- 谷井彪 1993 「埼玉における縄文中期後半の地域性の一様相—嵐山町行司免遺跡の加曾利 E 式後半の土器を通じて—」『研究紀要』15 埼玉県立歴史資料館: 1-30
- 谷井彪・細田勝 1995 「関東の大木式・東北の加曾利 E 式」『日本考古学』2: 37-67
- 谷井彪・細田勝 1997 「水窪遺跡の研究—加曾利 E 式土器の編年と曾利式の関係からみた地域性—」『研究紀要』13 埼玉県埋蔵文化財調査事業団: 13-66
- 谷井彪・宮崎朝雄・大塚孝司・鈴木秀雄・青木美代子・金子直行・細田勝 1982 「縄文中期土器群の再編」『研究紀要』1 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団: 1-137
- 谷口康浩 2002 「縄文土器型式情報の伝達と変形—関東地方に分布する曾利式土器を例に—」『土器から探る縄文社会 2002 年度研究集会資料集』: 39-55
- 谷口康浩 2005 『環状集落と縄文社会構造』学生社
- 谷口康浩 2007 「縄文時代の社会—分節的部族社会から階層化社会へ—」『季刊考古学』98: 27-32
- 谷口康浩 2008 「縄文時代の環状集落と集団関係」『考古学研究』55-3: 44-59
- 谷口康浩 2017a 「土器型式の実態—白川論文へのコメント—」『第2回 東海縄文研究会シンポジウム 予稿集「咲畑式とその周辺」』: 55-58
- 谷口康浩 2017b 『縄文時代の社会複雑化と儀礼祭祀』同成社
- 谷口康浩 2019 『入門 縄文時代の考古学』同成社
- 谷口康浩・永瀬史人 2008 「土器型式情報の伝達と変容—属性分析からみた加曾利 E 式土器の多様性—」『縄文時代の考古学』7 土器を読み取る: 157-176 同成社
- 谷藤保彦 2007 「加曾利 E 式の系統を引く土器群—北関東における後期初頭の様相—」『第20回縄文セミナー 中期終末から後期初頭の再検討 資料集』: 59-119
- 玉田芳英・庄田慎矢 2013 「縄文文化の停滞と遍逸」『縄文時代 (上)』講座日本の考古学 3: 174-204 青木書店
- 千葉毅 2012 「三十稲場式期における「関東系」土器群の様相」『津南シンポジウムⅧ予稿集 三十稲場式土器文化の世界—4.3ka イベントに関する考古学現象②—』: 101-110
- 千葉毅 2013 「関東甲信越地方における称名寺式土器と加曾利 EV 式土器の混在の様相」『公開シンポジウム予稿集 関東甲信越地方における中期/後期変動期 4.3ka イベントに関する考古学現象③』: 23-34
- 千葉直樹 2005 「東北地方における斜位土器埋設複式炉」『宮城考古学』7: 115-136
- 中部高地縄文土器集成グループ 1979 『中部高地縄文土器集成』1—縄文中期後半の部 その1—
- 塚原孝一 2007 「第4章 縄文時代 第2節 土器研究 4.中期初頭～後葉」『研究紀要』15 財団法人とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター: 113-135
- 塚本師也 1990 「北関東・南東北における中期前半の土器様相—縄文地に有節沈線を施文する土器群について—」『古代』89:

- 塚本師也 2003「茨城県北部域に於ける縄文時代中期中葉の土器の一樣相—宮後遺跡の調査成果から—」『領域の研究』阿久津久先生還暦記念論集：71-80
- 塚本師也 2004「栃木県南部域の土器と焼町土器 分布圏外出土の焼町土器」『国立歴史民俗博物館研究報告』120：109-146
- 塚本師也 2008「阿玉台式土器」『総覧縄文土器』：384-391 アムプロモーション
- 塚本師也 2009「茨城県北部における大木 7b 式期の土器—特に七郎内Ⅱ群土器と所謂スワタイプについて—」『常総台地』16：283-290
- 塚本師也 2010「鬼怒川・小貝川流域の加曾利 E I 式期の土器—旧関城町西原遺跡第 61 号住居出土土器の位置づけ—」『茨城県考古学協会誌』22：39-68
- 塚本師也 2014a「近接する遺跡間における同一年代の縄文土器の比較—栃木県益子町御霊前遺跡と茂木町絵の木遺跡の中期縄文土器を対象として—」『研究紀要』22 公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター：55-68
- 塚本師也 2014b「阿玉台式土器—東関東に花開いた特異な中期縄文土器—」第 14 回隣接する土器群との関係 (2) —勝坂式土器—『アルカ通信』128：1
- 塚本師也 2014c「阿玉台式土器—東関東に花開いた特異な中期縄文土器—」第 14 回隣接する土器群との関係 (2) —大木式土器—『アルカ通信』130：1
- 塚本師也 2015「近接する遺跡間における同一年代の縄文土器の比較 (2) —八溝山地西麓と東麓の中期縄文土器を対象として—」『研究紀要』23：1-20 公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター
- 塚本師也 2016「那珂川流域の加曾利 E I 式初源期の地域差」『研究紀要』26 公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター：9-30
- 塚本師也 2017a「関東地方北東部における中期中葉大木式土器の体部上端区画の変遷」『研究紀要』25 公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター：1-12
- 塚本師也 2017b「栃木県における柄鏡形 (敷石) 住居の受容とその背景」『国史学』223：149-170 国史学会
- 塚本師也 2018a「関東地方北部からみた会津・越後の火炎系土器」『馬高式土器の成立・展開・終焉—予稿集—』：237-254
- 塚本師也 2018b「関東地方北東部の火炎系土器」『馬高式土器の成立・展開・終焉—予稿集—』：255-264
- 辻誠一郎 1988「自然環境」『季刊考古学』23：35-38
- 辻誠一郎 1989「開析谷の遺跡とそれをとりまく古環境復元 関東平野中央部の川口市赤山陣屋遺跡における完新世の古環境」『第四紀研究』27-4：331-356
- 辻誠一郎 1992「沖積平野における木本泥炭の性質と堆積環境」『植生史研究』9：22-31
- 辻誠一郎 2002a「日本列島の環境史」『日本の時代史』1 倭国誕生：244-278 吉川弘文館
- 辻誠一郎 2002b「列島の環境史」『いくつもの日本』Ⅱ新たな歴史へ：233-248 岩波書店
- 辻誠一郎 2009「縄文時代の植生史」『縄文時代の考古学』3 大地と森の中で—縄文時代の古生態系：67-77 同成社
- 辻誠一郎・中村俊夫 2001「縄文時代の高精度編年 三内丸山遺跡の年代測定」『第四紀研究』40-6：471-478
- 蕨川貴祥 2014「岩手県北部の埋設土器・埋設遺構集成」『北日本縄文時代埋設土器・埋設遺構集成』北日本縄文文化研究会叢書 2：315-424
- 坪井清足 1962「縄文文化論」『岩波講座日本歴史』1 原始および古代[1]：109-138 岩波書店
- 勅使河原彰 1992「縄文時代の社会構成 (下) 八ヶ岳西南麓の縄文時代中期遺跡群の分析から」『考古学雑誌』78-2：1-27
- 勅使河原彰 2013「縄文文化の高揚 (前・中期)」『縄文時代 (上)』講座日本の考古学 3：148-173 青木書店
- 勅使河原彰 2016『縄文時代史』新泉社

- 樋泉岳二 1999「東京湾地域における完新世の海洋環境変遷と縄文貝塚形成史」『国立歴史民俗博物館研究報告』81:289-310
- 樋泉岳二 2012「貝類の流通からみた縄文時代の社会関係—オキアサリの成長線分析の試み—」『人類史と時間情報—「過去」の形成過程と先史考古学—』:99-116
- 樋泉岳二 2013「動物資源利用からみた縄文後期における東京湾東岸の地域社会」『動物考古学』30:3-18
- 樋泉岳二 2014「海洋資源の利用と縄文文化—縄文後期東京湾岸・印旛沼周辺貝塚の魚貝類利用にみる資源認識の多様性—」『縄文時代の資源利用と社会』季刊考古学別冊21:133-140 雄山閣
- 樋泉岳二 2019「貝塚形成と狩猟活動」『縄文文化の繁栄と衰退』:15-26 雄山閣
- 富樫秀之・阿部友晴・金内元・長田友也・高橋優 2002『アチャ平遺跡上段』朝日村文化財報告書第21集  
「土偶とその情報」研究会 1998『土偶研究の地平 「土偶とその情報」研究論集(2)』
- 戸田哲也 1981「シンポジウム 縄文時代中期後半の諸問題 加曾利 E 式土器編年の現状と課題」『神奈川考古』11:3-10
- 戸田哲也 1986「縄文土器の型式学的研究と編年(前編)」『神奈川考古同人会 10 周年記念論文集』:159-186
- 戸田哲也 1999「関東地方 中期(加曾利 E 式)」『縄文時代』10 第1分冊:298-307
- 戸田哲也 1991「東京湾を渡った縄文人」『東邦考古』15:14-24
- 戸田哲也 1998a「南西関東における加曾利 E 式終末期の土器様相」『列島の考古学』:317-334 渡辺誠先生還暦記念論文集  
刊行会
- 戸田哲也 1998b 神奈川県における曾利IV式期の土器様相『考古論叢神奈河』7:1-14
- 戸田哲也 2006「曾利III式土器の伝播と変容」『ムラと地域の考古学』:83-96 同成社
- 栃木県考古学会 2016『とちぎを掘る 栃木の考古学の到達点』随想舎
- 栃木県史編さん委員会 1981『栃木県史』通史編1 原始 古代一 栃木県
- 栃木県立なす風土記の丘資料館 1995『第3回企画展図録 豊かな恵みの中で—なすの縄文人—』栃木県教育委員会
- 豊郷台遺跡発掘調査会 1976『豊郷台遺跡群 I ミシマ遺跡』
- 長尾正義 2012『猫又(2)遺跡III』三沢市埋蔵文化財調査報告書26
- 中川真人・山本華ほか 2019「勝模遺跡の縄文土器種実圧痕にみる植物利用」『相模原市立博物館研究報告』27:7-16
- 長崎元広・宮下健司 1984「長野県における縄文集落の変遷」『シンポジウム「縄文集落の変遷」発表資料』日本考古学協会
- 長澤良太 1979「房総半島夷隅川沖積平野の地形発達史」『立命館史学』412・413・414:124-146
- 長島元重・塙静夫 1968「矢板地方の考古学的調査」『栃木県考古学会誌』2・3:10-19
- 永瀬史人 2008「連弧文土器」『総覧縄文土器』:418-425 アムプロモーション
- 仲田茂司 1992「考察 土器」『西方前遺跡IV 本文編』三春町文化財調査報告書第16集:83-140
- 中野幸大 2008「大木 7a~8b 式土器」『総覧縄文土器』:352-359 アムプロモーション
- 中野幸大 2018「福島県の火炎系土器」『馬高式土器の成立・展開・終焉—予稿集—』:225-236
- 中村大 2018「縄紋時代の人口を推定する新たな方法—東北地方北部を対象とした試み—」『環太平洋文明研究』2:39-58
- 中村耕作 2017「縄文時代中期末葉から後期初頭柄籠形住居床面の石棒・土器・屋内土坑—国立市緑川東遺跡 SV1 をめぐって—」『史峰』45:1-18 新進考古学同人会
- 中村孝三郎 1975『根立遺跡』長岡市立科学博物館
- 中村五郎・先崎忠衛 1984『観音山遺跡』滝根町文化財調査報告第1集
- 中村良幸 1982「複式炉について」『考古風土記』7:77-89
- 中村良幸 1986『岩手県稗貫郡大迫町観音堂遺跡—第1次~6次発掘調査報告書—』大迫町埋蔵文化財報告第11集

- 長山明弘 2014『加曾利 E(新)式土器研究の歩みと針路—土器論を基礎とした先史文化の研究に向けて』千葉大学考古学研  
究叢書 6 那珂川書房
- 中山誠二 2010『植物考古学と日本の農耕の起源』同成社
- 中山誠二 2015a「縄文時代のダイズの栽培化と種子の形態分化」『植生史研究』23-2 : 33-42
- 中山誠二 2015b「中部高地における縄文時代の栽培植物と二次植生の利用」『第四紀研究』54-5 : 285-298
- 中山誠二 2019「中部高地における縄文と弥生の栽培植物」『農耕文化複合形成の考古学 上』: 127-140 雄山閣
- 中山誠二編 2014『日韓における穀物栽培の起源』山梨県立博物館
- 中山俊雄・遠藤毅 2008「奥東京湾」『日本地方地質誌』3 関東地方 : 380-385 朝倉書店
- 那須浩郎・会田進 2016「滝ノ上遺跡における縄文中期の住居埋土から出土した炭化植物種実」『滝ノ上遺跡IV』常陸大宮  
市埋蔵文化財調査報告書 50 : 380-383
- 成田滋彦 1981「後期の土器—青森県の土器—」『縄文文化の研究』4 縄文土器Ⅱ : 123-132 雄山閣
- 成田滋彦 1989「入江・十腰内式土器様式」『縄文土器大観』4 後期・晩期・続縄文 : 277-280 小学館
- 新津健 1985「中部地方の配石遺構」『考古学ジャーナル』254 : 15-18
- 西野雅人 2004「(1) 貝塚」『千葉県歴史資料編』考古 4 遺跡・遺構・遺物 : 190-209
- 西野雅人 2009「大型貝塚形成の背景をさぐる」『東京湾巨大貝塚の時代と社会』: 143-161 雄山閣
- 日本考古学協会 2005『日本考古学協会 2005 年度福島大会シンポジウム資料集』
- 丹羽茂 1971「東北地方南部における中期縄文時代中・後葉土器群研究の現段階」『福島考古』12 : 1-21
- 丹羽茂 1981「大木式土器」『縄文文化の研究』4 縄文土器Ⅱ : 43-60 雄山閣
- 丹羽茂 1989「中期大木式土器様式」『縄文土器大観』1 草創期 早期 前期 : 346-352 小学館
- 丹羽茂 2009「楠本コレクションの調査 縄文土器編」『東北歴史博物館研究紀要』10 : 19-116
- 能城修一・佐々木由香 2014「遺跡出土植物遺体からみた縄文時代の森林資源利用」『国立歴史民俗博物館研究報告』187 :  
15-48
- 能登健・石坂茂 1980「重弧文土器の系譜」『信濃』32-4 : 362-378
- 能登谷宣康 1996「縄文時代中期末葉の堅穴住居址にみられる特殊施設—相馬郡飯館村大倉上ノ台地区の屋内祭祀—」『論  
集しのぶ考古』: 165-180
- 橋本勉 1994『原山坊ノ在家遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 144 集
- 橋本勉 2004「加曾利 E 式土器の拡散とフィードバック(前)」『研究紀要』19 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 : 87-108
- 塙静夫 1960『北関東に於ける縄文土器の編年学的研究』
- 塙静夫 1961「北関東縄文後・晩期土器の編年」『下野史学』12 : 17-20
- 塙静夫 1973「付録 一 考古学に関する学会発表と雑感 2.北関東縄文後・晩期土器の東北的影響について」『下野の歴史と  
文化』: 110-112
- 塙静夫・大和久震平 1972『栃木県の考古学』吉川弘文館
- 羽生淳子 2015「歴史生態学から見た長期的な文化変化と人為的生態システム 縄文時代前・中期の事例から」『第四紀研究』  
54-5 : 235-256
- 羽生淳子 2016「食の多様性と気候変動—縄文時代前期・中期の事例から—」『考古学研究』63-2 : 38-50
- 羽生淳子 2019「考古学と歴史生態学からみた景観の変遷—東日本の資料を中心に—」『日本考古学協会第 85 回総会研究会  
発表要旨』: 180-181
- 早坂広人 2010「海況変遷と遺跡群 ②奥東京湾」『縄文時代の考古学』4 人と動物の関わりあい : 48-65 同成社



- 林謙作 1965 「縄文文化の発展と地域性 東北」『日本の考古学』Ⅱ：64-96 河出書房新社
- 早瀬亮介 2008 「前期大木式土器」『総覧縄文土器』：226-233 アムプロモーション
- 早瀬亮介・菅野智則・須藤隆 2006 「東北大学文学研究科 考古学陳列館所蔵大木困貝塚出土基準資料 山内清男編年基準資料」『Bulletin of the Tohoku University Museum』5：1-40
- 原信之・馬目順一 1968 「宮城県大木困貝塚発見の遺物について」『古代』51：31-42
- 原口強・呉屋健一・今泉俊文 2007 「講演要旨 岩手県大船渡市碁石浜の津波堆積物」『歴史地震』22：214 歴史地震研究会
- 原口強・鳥居和樹・藤原治・島崎邦彦・今泉俊文 2006 「東北地方三陸海岸、大槌湾の津波堆積物」『月刊 地球』28-8：539-576 海洋出版
- 春成秀爾 1979 「縄文時代の終焉」『歴史公論』5-2：105-115 雄山閣
- 樋口昇一・鈴木保彦・能登健 1981 「縄文中期の土器 関東・中部・北陸地方」『縄文土器大成』2 中期：144-163 講談社
- 平林彰 1999 「中部高地の火災住居」『考古学ジャーナル』447：12-15
- 一木絵理 2012 『日本における縄文海進の海域環境と人間活動』（東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学研究系社会文化環境学専攻 博士論文）東京大学学術機関リポジトリ
- 一木絵理・村田泰輔・國木田大・辻誠一郎 2008 「九十九里平野北部における縄文時代後半期の海退プロセス」『環境文化史研究』1：91-99
- 平川一臣・吉岡祥一・中村衛・西川由香 2011 「過去 6000 年間の三陸超巨大古津波堆積層履歴を示す二つの露頭」『特別シンポジウム 地震学の今を問う—東北地方太平洋沖地震の発生を受けて—』日本地震学会
- 平川一臣 2012 「千島海溝・日本海溝の超巨大津波履歴とその意味 仮説的検討」『科学』82-2：172-181 岩波書店
- 福沢仁之 1995 「天然の「時計」・「環境変動検出計」としての湖沼堆積物」『第四紀研究』34-3：135-149
- 福沢仁之 1998a 「氷河期以降の気候の年々変動を読む」『科学』68-4：353-360 岩波書店
- 福沢仁之 1998b 「湖沼・内湾・レス堆積物を用いた東アジアにおける気候変動の高精度復元と人類史の関係」『気象研究ノート』191：59-72 公益財団法人日本気象学会
- 福沢仁之・山田和芳 1998 「堆積物による佳子 75,000 年間のアジアモンスーン変動の高精度復元」『地学雑誌』107-4：566-571 公益社団法人東京地学協会
- 福沢仁之・山田和芳・加藤めぐみ 1999 「湖沼年縞およびレス—古土壌堆積物による地球環境変動の高精度復元」『国立歴史民俗博物館研究報告』81：463-484
- 福沢仁之・加藤めぐみ・山田和芳・藤原治・安田喜憲 1998 「湖沼年更堆積物に記録された最終氷期以降の急激な気候・海水準変動」『名古屋大学加速器質量分析計業績報告書』9：5-17
- 福沢仁之・山田和芳・加藤めぐみ 1999 「湖沼年縞およびレス—古土壌堆積物による地球環境変動の高精度復元」『国立歴史民俗博物館研究報告』81：463-484
- 福島県教育委員会 1996 『三春ダム関連発掘調査報告 8』福島県文化財調査報告書第 322 集
- 福島県立博物館 1991 『企画展 縄文絵巻』
- 福島雅儀 1987 「阿武隈川上流域における縄文時代中期後半の土器」『考古学と地域文化』同志社大学考古学シリーズⅢ：75-88
- 福島雅儀 1989 「柴原 A 遺跡（第 1 次）調査の成果と課題」『三春ダム関連遺跡発掘調査報告』2 福島県文化財調査報告書第 217 集：213-239
- 福島雅儀 2012 「阿武隈川上流域における縄文中期から後期への集落変化 福島県三春町柴原 A 遺跡と越田和遺跡の発掘調

- 査から』『国立歴史民俗博物館研究報告』172 : 357-414
- 福田正宏 2015 「東北アジアのなかの東北先史文化」『北の原始時代』: 204-231 吉川弘文館
- 藤根久・佐々木由香 2005 「複式炉の年代」『日本考古学協会 2005 年度福島大会シンポジウム資料集』: 23-33
- 藤森栄一 1965 『井戸尻』中央公論美術出版
- 藤森栄一・武藤雄六 1964 「信濃境曾利遺跡調査報告」『長野県考古学会誌』創刊号 : 1-35
- 星雅之・須原拓 2012 「岩手県内における縄文時代中期後葉から後期初頭にかけての変化について—北上川流域の堅穴住居跡の分析を通じて—」『公開シンポジウム予稿集 東北地方における中期／後期変動期 4・3ka イベントに関する考古学現象①』: 43-58
- 細田勝 2003 「南関東加曾利 E 式について」『第 16 回縄文セミナー 中期後半の再検討』: 239-276
- 細田勝 2008 「加曾利 E 式土器」『総覧縄文土器』: 410-417 アムプロモーション
- 細田勝 2010 「勝坂式の変容と大木式の関係(素描)」『比較考古学の新天地』: 192-201 同成社
- 堀越正行 1972 「加曾利 E 式土器研究史(2)」『信濃』24-3 : 65-79
- 堀越正行 1984 「加曾利 EⅢ式土器断想」『史館』17 : 1-2
- 本間宏 1985 「東北地方北部における縄文後期前葉土器群の実態」『よねしろ考古』1 : 9-30
- 本間宏 1987 「縄文時代後期初頭土器群の研究(1)」『よねしろ考古』3 : 31-50
- 本間宏 1988 「縄文時代後期初頭土器群の研究(2)」『よねしろ考古』4 : 71-84
- 本間宏 1990 「東北地方南部における縄文後期前葉土器群の変遷過程」『第 4 回縄文セミナー縄文後期の諸問題』: 215-266
- 本間宏 1991 「土器型式設定上の基本原則」『福島考古』32 : 1-8
- 本間宏 1994 「大木 10 式土器の考え方」『しのぶ考古』10 : 3-24
- 本間宏 2008 「南境式・網取式土器」『総覧縄文土器』: 544-551 アムプロモーション
- 松島義章 1979 「南関東における縄文海進に伴う貝類群集の変遷」『第四紀研究』17-4 : 243-265
- 松島義章 1984 「日本列島における後氷期の浅海性貝類群集—特に環境変遷に伴うその時間・空間的変遷—」『神奈川県立博物館研究報告(自然科学)』15 : 37-109
- 松島義章 2011 「東京湾西岸、平潟湾における縄文海進と遺跡の立地」『環境史と人類』4 : 227-263
- 松田光太郎 2011 「光学顕微鏡による土器製作地推定の論理と根拠—砂礫資料取り扱い上の問題点を中心として—」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』15 : 1-15
- 松本茂 1982 「第 1 篇 七郎内 C 遺跡 第 5 章 考察 第 1 節 縄文時代の遺物と遺構」『国営総合農地開発事業 母畑地区遺跡発掘調査報告』X 福島県文化財調査報告書第 108 集 : 211-225
- 松本茂 1985 『堂平 B 遺跡 縄文時代中期遺跡の調査』玉川村文化財調査報告書第 2 集
- 松本彦七郎 1919a 「日本先史人類論」『歴史と地理』3-2 : 19-31
- 松本彦七郎 1919b 「宮戸嶋里浜及気仙郡瀬澤介塚の土器附特に土器紋様論(一)」『現代之科学』7-5 : 10-42
- 松本彦七郎 1919c 「宮戸嶋里浜及気仙郡瀬澤介塚の土器附特に土器紋様論(二)」『現代之科学』7-6 : 20-48
- 松本彦七郎 1919d 「日本石器時代土器」『理学界』17-3 : 1-4
- 松本彦七郎 1919e 「日本の石器時代土器(二)」『理学界』17-4 : 5-8
- 馬目順一 1968 「網取貝塚第四地点発券の堀之内 I 式土器の考察」『小名浜』: 127-156 いわき市教育委員会
- 馬目順一 1970 「いわき市片寄貝塚発見の後期縄文土器について」『考古』16 : 43-48
- 馬目順一 1977 「いわゆる『網取貝塚 C 地区』の土器について」『考古』19 : 35-46
- 馬目順一 1982 「南東北—いわき市愛谷遺跡出土品—」『シンポジウム堀之内式土器』市立市川考古博物館

- 三浦謙一・佐々木勝 1985 「縄文時代前・中期住居址群の変遷—松尾村長者屋敷遺跡の分析—」『紀要』V 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター：1-48
- 水沢教子 2003 「中期後葉の渦巻文を有する土器とその周辺」『水沢教子補足資料』『第16回縄文セミナー 中期後半の再検討—記録集—』：55-74・ページ番号なし巻末
- 水沢教子 2013a 「信越地方における縄文中期中葉から後葉の東北系土器」『公開シンポジウム予稿集 関東甲信越地方における中期／後期変動期 4・3ka イベントに関する考古学現象③』：41-50
- 水沢教子 2013b 「仙台湾周辺における大木 8b 式土器の様相」『第26回縄文セミナー 縄文中期中葉土器研究の現状と課題』：1-53
- 水戸部秀樹 2004 「山形県の縄文時代後期前半の土器について—かっぱ遺跡を中心に—」『研究紀要』2 財団法人山形県埋蔵文化財センター：1-28
- 村木敬・河本純一 2019 『鹿糠浜Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第702集
- 目黒吉明 1982 「住居の炉」『縄文文化の研究』8 社会・文化：147-166 雄山閣
- 本橋恵美子 2006 「柄鏡形敷石住居の出現と環状集落の終焉—縄文時代中期集落形態の変化を追う—」『縄文「ムラ」の考古学』：131-166 雄山閣
- 本橋恵美子 2009 「柄鏡形（敷石）住居の発生と変遷」『季刊考古学』107：47-51
- 本橋恵美子 2017a 「縄文時代における柄鏡形住居址の再検討」『二十一世紀考古学の現在』：223-234 六一書房
- 本橋恵美子 2017b 「縄文時代の柄鏡形住居址の再検討」『国史学』223：103-124
- 森貢喜 1974 「縄文時代における敷石遺構について」『福島考古』15：14-23
- 森幸彦 1985 『‘84 塩沢上原 A 遺跡発掘調査概報』福島県立博物館調査報告 10
- 森幸彦 1996 「複式炉小考」『論集しのぶ考古』目黒吉明先生頌寿記念：149-180
- 森幸彦 2008 「大木 9・10 式土器」『総覧縄文土器』：360-367 アムプロモーション
- 盛岡市教育委員会 1995 『大葛遺跡 第1次発掘調査報告書』
- 盛岡市教育委員会 2008 『柿ノ木平遺跡 堰根遺跡』第1分冊柿ノ木平遺跡 本文編
- 盛岡市教育委員会 2013 『繫V遺跡』
- 森脇広 1979 「九十九里浜平野の発達史」『第四紀研究』18-1：1-16
- 八重樫純樹ほか 1992 『国立歴史民俗博物館研究報告』37 土偶とその情報
- 矢嶋良多 2020 「関東地方西南部における縄文時代中期後葉曾利式前半期の編年研究」『中央大学考古学論集』1 小林謙一還暦記念：87-108
- 安田喜憲 1981 「花粉分析による気候環境の復元」『考古学ジャーナル』192：8-13
- 安田喜憲 1982 「気候変動」『縄文文化の研究』1 縄文人とその環境：163-200 雄山閣
- 柳澤清一 1980 「大木 10 式土器論」『古代探叢—滝口宏先生古稀記念考古学論集』：55-77
- 柳澤清一 1988 「東北縄文中・後期編年の諸問題 その1」『古代』84：33-80
- 柳澤清一 1989 「東北縄文中・後期編年の諸問題 その2」『古代』88：84-107
- 柳澤清一 2006 『縄文時代中期・後期の編年学的研究 広域詳細別編年体系の達成を目指して』千葉大学考古学研究叢書 3
- 矢野健一 2004 「西日本における縄文時代住居址数の増減」『文化の多様性と比較考古学』考古学研究会 50 周年記念論文集：159-168
- 矢野健一 2017 「縄文時代における人口問題の重要性」『環太平洋文明研究』1：11-22
- 矢野健一 2020 「縄文遺跡から人口動態を探る—シンポジウム「超長期的視点から見た人口・環境・社会の発表に関連して

- 一)『環太平洋文明研究』4:5-11
- 矢作健二 2019「総論 胎土分析の多様性」『考古学ジャーナル』724:3-5
- 山形真理子 1989「曾利式土器における施文順序の意義」『甲斐の成立と地方的展開』磯貝正義先生喜寿記念論文集:52-65  
角川書店
- 山形真理子 1996「曾利式土器の研究(上) —内的展開と外的交渉の歴史—」『東京大学文学部考古学研究室研究紀要』14:  
75-129
- 山形真理子 1997「曾利式土器の研究(下) —内的展開と外的交渉の歴史—」『東京大学文学部考古学研究室研究紀要』15:  
81-135
- 八巻一夫 1974「縄文中期文化の一試論—複式炉埋設土器の面から—」『遮光器』8:72-79
- 山崎充浩 1990「春田遺跡 第四節 縄文時代中期の遺物」『三春ダム関連遺跡発掘調査報告』3 福島県文化財調査報告書第  
235集:184-196
- 山田和仁 1990「出口遺跡 称名寺 I (古) 期Ⅲ類土器について」『栃木県考古学会誌』12:88-98
- 山田康弘 1995「多数合葬例の意義」『考古学研究』42-2:52-67
- 山田康弘 2010「縄文時代における『階層性』と社会構造 研究史的理解と現状」『考古学研究』57-2:6-21
- 山田康弘 2015「土器棺墓(土器埋設遺構)」『季刊考古学』130:56-60
- 山田康弘 2018「「モニュメント」としての多数合葬・複葬例再考 下太田貝塚における多数遺骸集積土坑の検討を中心に」  
『国立歴史民俗博物館研究報告』208:143-164
- 山田康弘・国立歴史民俗博物館編 2017『縄文時代 その枠組・文化・社会をどう捉えるか?』吉川弘文館
- 山内清男 1929a「関東北に於ける繊維土器」『史前学雑誌』1-2:1-30
- 山内清男 1929b「繊維土器について追加第一」『史前学雑誌』1-3:85-86
- 山内清男 1930「斜行縄紋に関する二三の観察」『史前学雑誌』2-3:187-199
- 山内清男 1936「日本考古学の秩序」『ミネルヴァ』1-4:1-10
- 山内清男 1937「縄紋土器型式の細別と大別」『先史考古学』1-1:29-32
- 山内清男 1939・1940・1941『日本先史土器図譜 (I~XII 集)』先史考古学会
- 山内清男 1961『日本先史土器の縄紋』(1979年刊行)
- 山内清男編 1964『日本原始美術』1 縄文式土器 講談社
- 山本孝司 1992「加曾利 E3-4 式と曾利 V 式について—神奈川県新戸遺跡出土資料を検討して—」『古代』94:59-82
- 山本暉久 1976a「敷石住居出現のもつ意味(上)」『古代文化』28-2:1-37
- 山本暉久 1976b「敷石住居出現のもつ意味(下)」『古代文化』28-3:1-29
- 山本暉久 1977a「縄文中期末・後期初頭期の屋外埋甕について(1)」『信濃』29-11:33-47
- 山本暉久 1977b「縄文中期末・後期初頭期の屋外埋甕について(2)」『信濃』29-12:48-64
- 山本暉久 1979a「石棒祭祀の変遷(上)」『古代文化』31-11:1-41
- 山本暉久 1979b「石棒祭祀の変遷(下)」『古代文化』31-12:1-24
- 山本暉久 1980「縄文時代中期終末期の集落」『神奈川考古』9:63-97
- 山本暉久 1981「縄文時代中期後半期における屋外祭祀の展開—関東・中部地方の配石遺構の分析を通じて—」『信濃』33-4:  
134-169
- 山本暉久 1985「縄文時代の廃屋葬」『古代』80:39-71
- 山本暉久 1987a「敷石住居終焉のもつ意味(1)」『古代文化』39-1:1-23

- 山本暉久 1987b 「敷石住居終焉のもつ意味 (2)」『古代文化』 39-2 : 1-20
- 山本暉久 1987c 「敷石住居終焉のもつ意味 (3)」『古代文化』 39-3 : 1-13
- 山本暉久 1987d 「敷石住居終焉のもつ意味 (4)」『古代文化』 39-4 : 1-20
- 山本暉久 1991 「縄文時代文化研究とエスノアーケオロジ—最近の研究動向をめぐって—」『縄文時代』 2 : 119-142
- 山本暉久 1994 「石柱・石壇をもつ住居址の性格」『日本考古学』 1 : 1-26
- 山本暉久 1996 「柄鏡形 (敷石) 住居と埋甕祭祀 (上) —事例の集成—」『神奈川考古』 32 : 133-152
- 山本暉久 1997 「柄鏡形 (敷石) 住居と埋甕祭祀 (下)」『神奈川考古』 33 : 49-83
- 山本暉久 1998 「柄鏡形 (敷石) 住居と廃屋儀礼—環礫方形配石遺構と周堤礫—」『列島の考古学』 : 335-352 渡辺誠先生還  
暦記念論文集刊行会
- 山本暉久 2000 「外縁部の柄鏡形 (敷石) 住居」『縄文時代』 11 : 1-40
- 山本暉久 2001 「環状集落の形成」『縄文時代集落址研究の現段階』 : 51-59 縄文時代文化研究会
- 山本暉久 2002 『敷石住居址の研究』 六一書房
- 山本暉久 2005 「縄文時代階層化社会論の行方」『縄文時代』 16 : 111-142
- 山本暉久 2006 「配石と敷石をもつ縄文集落に階層化社会は読み取れるのか」『新尖石縄文考古館開館 5 周年記念考古論文  
集』 : 59-76
- 山本暉久 2008 「倒置深鉢」『総覧縄文土器』 : 1128-1133 アムプロモーション
- 山本暉久 2010 『柄鏡形 (敷石) 住居と縄文社会』 六一書房
- 山本暉久 2012 「縄文時代社会の変質—関東・中部地方からみた縄文時代中期から後期へ—」『那須の縄文社会は変わるこ  
ろ』 : 1-10 栃木県立なす風土記の丘資料館
- 山本暉久 2013 「東日本における縄文中期大規模環状集落の崩壊要因をめぐって」『縄文時代』 24 : 117-132
- 山本暉久 2016 「縄文後・晩期社会論—住居・集落・社会の複雑化—」『神奈川考古』 52 : 83-94
- 山本暉久 2019a 『住居の廃絶と儀礼行為』 六一書房
- 山本暉久 2019b 「縄文時代の葬墓制研究をめぐって」『縄文時代葬墓制研究の現段階』 : 1-4 縄文時代文化研究会
- 山本暉久 2020 「転換点としての縄文時代中期終末期の歴史的評価—近年の「階層化社会論」「社会複雑化論」との対比を  
通じて—」『神奈川考古』 56 : 55-94
- 山本暉久・戸田哲也 1980 「シンポジウム縄文時代・中期後半の諸問題—とくに加曾利 E 式と曾利式土器の関係について  
—土器集成図」『神奈川考古』 10
- 山本暉久・戸田哲也 1981 「シンポジウム縄文時代・中期後半の諸問題—とくに加曾利 E 式と曾利式土器の関係について  
—記録集」『神奈川考古』 11
- 山本典幸 2008 「五領ヶ台式土器」『総覧縄文土器』 : 376-383 アムプロモーション
- 山本華・佐藤亮太・岩浪 陸・佐々木由香・森山高・中野達也 2018 「埼玉県犬塚遺跡の種実圧痕からみた縄文時代前期の  
利用植物」『古代』 142 : 1-22
- 八幡一郎・岡崎文喜 1972 『海老ヶ作貝塚』 千葉県教育委員会
- 横山祐典 2002 「最終表記のグローバルな氷床量変動と人類の移動」『地学雑誌』 111 : 883-899 公益社団法人東京地学協  
会
- 横山祐典 2009 「海水準変動と気候、海進・海退」『縄文時代の考古学』 3 大地と森の中で 縄文時代の古生態系 : 13-23 同  
成社
- 吉岡恭平・佐藤淳・渡部紀・工藤信一郎・篠原信彦 1996 『下ノ内浦・山口遺跡』 仙台市文化財調査報告書第 5 集

- 吉川昌伸 1999 「武蔵野台地東部の溜池遺跡における過去 6000 年間の植生変遷」『植生史研究』7-2 : 47-58
- 吉澤宏 2007 「縄文時代における底部穿孔埋甕の発生と展開」『山麓考古』20 : 31-84
- 吉澤宏 2017 「相模川流域における屋内儀礼施設の様相—立石（石柱）と共伴する埋甕の事例を中心として—」『二十一世紀考古学の現在』: 191-200 六一書房
- 吉田格 1950 「関東」『日本考古学講座』3 : 137-140 河出書房
- 吉田格 1960 『横浜市称名寺貝塚発掘調査報告書』武蔵野文化協会
- 吉田義昭 1960 『門前貝塚』郷土史料館報告 盛岡市公民館
- 米田明訓 1978 「曾利式土器編年の基礎的把握」『長野県考古学会誌』30 : 1-17
- 米田明訓 1980 「曾利式土器編年の現状と課題」『神奈川考古』10 別冊 : 5-7
- 米田明訓 1986 「第 4 章 各説 第 1 節 縄文時代の遺物と遺構 2. 中期後半の土器の諸問題」『柳坪遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 13 集 : 147-152
- 米田穰 2014 「炭素・窒素同位体でみた縄文時代の食資源利用」『縄文時代の資源利用と社会』季刊考古学別冊 21 : 162-169 雄山閣
- 米田穰 2016 「称名寺貝塚から出土した縄文人骨の化学分析」『称名寺貝塚 土器とイルカと縄文人』: 60-61 横浜市歴史博物館
- 米田穰 2018 「千葉県茂原市下太田貝塚の多数遺骸集積土坑人骨群における同時代性の検証」『国立歴史民俗博物館研究報告』208 : 269-280
- 米田穰 2019 「関東平野における縄文時代中期・後期の食生活と社会に変化」『縄文文化の繁栄と衰退』: 91-110 雄山閣
- 米田穰 2020 「人骨の分析から先史時代の個人と社会にせまる」『縄文文化と学際研究のいま』季刊考古学別冊 31 : 44-68 雄山閣
- 米田穰・小山莊太郎 2012 「骨の化学分析からみた縄文時代の生業と社会—千葉県下太田貝塚の多数合葬」『考古学ジャーナル』630 : 12-16
- 陸前高田市教育委員会 1972 『堂の前貝塚発掘調査概要』
- 陸前高田市教育委員会 1974 『門前貝塚』
- 領塚正浩 1992 「堀之内式貝塚出土の堀之内式土器」『堀之内貝塚資料図譜』: 63-85 市川市立市川考古博物館
- 和島誠一 1948 「原始集落の構成」『日本歴史学講座』: 1-32 学生書房
- 綿田弘実 1999 「千曲川水系における縄文中期末葉土器—仮称「圧痕隆帯文土器」の再検討」『縄文土器論集』: 309-336 縄文セミナーの会
- 綿田弘実 2007 「中部高地における縄文中期末から後期初頭の在り系土器について」『第 20 回縄文セミナー—中期終末から後期初頭の再検討—資料集』: 367-424
- 綿田弘実 2013 「長野県北東部における縄文中期末葉土器群—千曲川上・下流域の地域差、唐草文系土器との交流」『第 26 回縄文セミナー—縄文中期中葉土器研究の現状と課題』: 55-101
- 綿田弘実ほか 2013 『中野市内その 1—中野市千田遺跡』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告第 98 集
- 渡辺新 1991 『縄文時代集落の人口構造—千葉県権現原貝塚の研究 I』
- 渡辺新 1994 『多数人骨集積の類例追加と雑感』ひつじ書房
- 渡辺新 2001 「権現原貝塚の人骨集積から集落の人口構造を考える」『シンポジウム—縄文人と貝塚』: 65-80
- 渡辺仁 1990 『縄文式階層化社会』六興出版
- 渡辺龍瑞 1953 「那須郡の先史文化」『下野史学』2 : 23-36 宇大史学研究室

渡部紀 1995『伊古山遺跡』 仙台市文化財調査報告書第 193 集

渡部紀・篠原信彦・吉岡恭平 1995『六反田遺跡』 仙台市文化財調査報告書第 199 集

,E.R Crema.,Habu J.,Kobayashi K., M. Madella. 2016.Summed probability distribution of <sup>14</sup>C dates suggests regional divergences in the population dynamics of the Jomon period in Eastern Japan.PLoS ONE,11-4,e0154809

G. Bond, W. Showers, M. Cheseby, R. Lotti, P. Almasi, P. deMenocal, P. Priore, H. Cullen, I. Hajdas, G. Bonani1997.A Pervasive Millennial-Scale Cycle in North Atlantic Holocene and Glacial Climates. Science,278-5341:1257-1266

Kawahata H.,Yamamoto H.,Ohkushi K.,Yokoyama Y.,Kimoto K.,Ohshima H., Matsuzaki H.2009.Changes of environments and human activity at the Sannai-Maruyama ruins in Japan during the mid-Holocene Hypsithremak climatic interval.Quaternary Science Review,28:964-974

KOYAMA S.1978.Jomon Subsistence and Population. Senri Ethnological Studies, 2:1-65

Sakaguchi Y.1982.Climatic Variability during the Holocene Epoc in Japan and its Causes.Bulletin of the Department of Geography,University of Tokyo,14:1-28

Sasaki Y.,Noshiro S.2018.Did a cooling event in the middle to late Jomon periods induced change in the use of plant resources in Japan?Quaternary International, 471:369-384

Y. Wang,H. Cheng,R. L. Edwards,Y. He,X. Kong,Z. An,J. Wu,M. J. Kelly,C. A. Dykoski,X. Li 2005.The Holocene Asian monsoon: links to solar changes and North Atlantic climate. Science,308-5723:854-857

Yokoyama Y., K. Lambeck, P.D. Deckker, P. Johnston,L. K. Fifield 2000. Timing of the Last Glacial Maximum from observed sea-level minima.Nature, 406:713-716

## 《資料集成使用発掘調査報告書・報文》

### <栃木県>

青木健二 1981『上の原遺跡』 日本窯業史研究所報告第 13 冊

青木健二 2004『明神前遺跡』 日本窯業史研究所報告第 63 冊

赤石澤亮・神野安伸 1988『竹下遺跡Ⅱ』宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第 27 集  
阿部初枝・出居博 2004『四ツ道北遺跡Ⅲ』佐野市埋蔵文化財調査報告書第 31 集  
池田敏宏 2010『下陰遺跡Ⅱ』栃木県埋蔵文化財調査報告第 330 集  
石川均 1985『免の内台遺跡調査概報Ⅰ』芳賀町の文化財第 10 冊  
岩上照朗 1979『北の内遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第 31 集  
岩上照朗・上野修一 1986『古宿遺跡』上河内村文化財調査報告書第 5 集  
岩淵一夫・初山孝行・岩上照朗 1985『上欠遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第 69 集  
植木茂雄 1993『免の内台遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第 134 集  
上野修一・今平昌子 1998『山崎北・金沢・台耕上・関口遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第 216 集  
内山敏行・亀田幸久・岩上照朗 1997『横倉戸館遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第 190 集  
宇都宮市教育委員会 1994『御城跡遺跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第 36 集  
宇都宮大学歴史研究会 1960『栃木県那須郡烏山町下境鳴井上遺跡調査報告』  
江原英 1997『寺野東遺跡Ⅴ 縄文時代環状盛り土遺構・水場の遺構編-1』栃木県埋蔵文化財調査報告第 200 集 栃木県教  
育委員会  
江原英 1999『寺野東遺跡Ⅱ（縄文時代 土坑編）』栃木県埋蔵文化財調査報告第 224 集  
江原英 2001『寺野東遺跡Ⅲ（縄文時代 住居址編）』栃木県埋蔵文化財調査報告第 250 集  
江原英・安藤美保 2005『上り戸遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第 286 集  
海老原郁雄 1964『ハットヤ遺跡調査報告』塩谷郷土史館  
海老原郁雄・川原由典 1979『湯坂遺跡』大田原市教育委員会  
海老原郁雄 1980『槻沢遺跡』栃木県教育委員会  
海老原郁雄 1986『梨水平遺跡第 1 次～第 4 次発掘調査の総括』上河内村文化財調査報告書第 6 集  
海老原郁雄 1997『「南いわき幹線」矢板管内地点発掘調査報告書』Ⅰ 矢板市埋蔵文化財調査報告第 3 集  
海老原郁雄 1999『「南いわき幹線」矢板管内地点発掘調査報告書』Ⅱ 矢板市埋蔵文化財調査報告第 4 集  
海老原郁雄・八巻一夫ほか 1977『石関（彦左エ門山）遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第 25 集  
大川清・新井潔 1997『栃木県小川町三輪仲町遺跡』小川町文化財調査報告書第 11 冊  
大田原市教育委員会 2015『岩舟台遺跡 第 3 次発掘調査』大田原市埋蔵文化財調査報告第 2 集  
片根義幸 2006『仲内遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第 296 集  
片根義幸 2012『仲内遺跡 2』栃木県埋蔵文化財調査報告第 349 集  
片根義幸・田代隆 2011『川戸釜八幡遺跡・石仏遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第 338 集  
亀田幸久・山越茂 1994『石神遺跡第 2 次調査』栃木県埋蔵文化財調査報告第 151 集  
川原由典 1972『門場遺跡発掘調査報告書』栃木県埋蔵文化財発掘報告第 7 集  
川原由典・菊池正治・後藤信祐 1995『塙平遺跡Ⅱ』栃木県埋蔵文化財調査報告第 163 集  
川原由典・初山孝行 1982『石神遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第 49 集  
木下実 1991『南那須町の遺跡—南那須町遺跡詳細分布調査報告書』南那須町文化財調査報告書第 6 集  
木下実 1993『室ノ木 A 遺跡』南那須町文化財調査報告書第 10 集  
木下実 1997『後久保 B 遺跡』南那須町文化財調査報告書第 12 集  
木下実 1998『日信工業株式会社 栃木技術研究所造成事業地内遺跡確認調査報告書』南那須町文化財調査報告書第 13 集  
木村喜一・鈴木実 1989『後久保遺跡』南那須町文化財調査報告書第 4 集



後藤信祐 1994『埤平遺跡Ⅰ』栃木県埋蔵文化財調査報告第 144 集  
後藤信祐 1995『槻沢遺跡Ⅱ』栃木県埋蔵文化財調査報告第 164 集  
後藤信祐 1996『槻沢遺跡Ⅲ』栃木県埋蔵文化財調査報告第 171 集  
後藤信祐 2001『御霊前遺跡Ⅱ』栃木県埋蔵文化財調査報告第 248 集  
後藤信祐 2007『ハッケトンヤ遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第 302 集  
今平利幸 2010『竹下遺跡—第Ⅷ次調査—』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第 74 集  
今平利幸 2014『竹下遺跡—第Ⅸ次調査—』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第 85 集  
齋藤達也・江原英 2016『横倉遺跡・横倉戸館古墳群』栃木県埋蔵文化財調査報告第 383 集  
篠原浩恵 1998『雨ヶ谷宮遺跡・雨ヶ谷西坪遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第 212 集  
篠原浩恵 2003『藤岡神社遺跡Ⅱ』栃木県埋蔵文化財調査報告第 277 集  
篠原浩恵 2016『岩舟台遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第 378 集  
進藤敏雄・合田恵美子 2000『御霊前遺跡Ⅰ』栃木県埋蔵文化財調査報告第 236 集  
芹澤清八・阿部茂 2012『神畑遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第 352 集  
芹澤清八・大橋泰夫 2003『鳴井上遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第 269 集  
芹澤清八・高橋美砂子 1987『御城田』栃木県埋蔵文化財調査報告第 68 集  
芹澤清八・安永真一・大越昌子 1994『古宿遺跡発掘調査報告書』栃木県埋蔵文化財調査報告第 142 集  
芹沢長介(編) 1966『栃木市星野遺跡 第 1 次発掘調査報告』栃木市教育委員会  
田代寛 1968『鉢木遺跡の袋状土壌』塩谷郷土史館研究報告第 2 集  
辰巳四郎・渡辺龍瑞 1964『栃木県那須郡脇沢遺跡・迹室遺跡調査報告書』那須町教育委員  
塚原孝一 2004『赤坂道上北遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第 281 集  
塚原孝一 2008『小鍋前遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第 313 集  
塚原孝一・後藤信祐 1994『三輪仲町遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第 143 集  
塚本師也 1992『品川台遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第 128 集  
塚本師也 1997『浄法寺遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第 196 集  
津野仁・塚田浩久 2003『荻ノ平遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第 270 集  
出居博・太田嘉彦・山口明良 2000『四ッ道北遺跡Ⅰ・下林遺跡Ⅰ』佐野市埋蔵文化財調査報告書第 19 集  
手塚達弥 2001『藤岡神社遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第 197 集  
手塚達弥 2004『神畑遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第 284 集  
栃木県立博物館 1987『那須の遺跡 渡辺龍瑞先生寄贈資料目録第 1 集 栃木県立博物館人文部門収蔵資料目録第 1 集(考  
古 1)』  
栃木県立矢板高等学校 1959『栃木県矢板市上長井遺跡調査報告』  
永岡弘章 2002『明神前遺跡』鹿沼市埋蔵文化財報告書第 14 冊  
永岡弘章・福山俊彰 2006『明神前遺跡』鹿沼市埋蔵文化財報告書第 19 冊  
長島元重・埤静夫 1959『上長井遺跡調査報告』県立矢板高等学校  
中木太・津野田陽介・水野順敏 2012『片府田富士山遺跡』大田原市埋蔵文化財調査報告第 1 集  
中村信博 2002『登谷遺跡調査報告書』茂木町埋蔵文化財調査報告書第 3 集  
中村紀男・中村信博 2006『桧の木遺跡Ⅰ・Ⅱ』茂木町埋蔵文化財調査報告書第 4・5 集  
仲山英樹 1995『馬門南遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第 165 集

なす風土記の丘資料館 2012『那須の縄文社会が変わるころ 縄文時代中期から後期へ』第

20 回特別展

橋本澄朗・上野修一・鈴木元ほか 2001『八剣遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第 254 集

深谷昇・江原美奈子 2004『島田遺跡Ⅲ』上三川町埋蔵文化財調査報告第 28 集

深谷昇・江原美奈子 2006『島田遺跡Ⅴ』上三川町埋蔵文化財調査報告第 33 集

細谷正策・尾花源司 1987『御新田遺跡 富士前遺跡 ヤッチャラ遺跡 下り遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第 85 集

町屋遺跡調査団 1998『町屋遺跡調査概報Ⅰ』日本窯業史研究所

松浦真由美・出居博 2003『四ツ道北遺跡Ⅱ・下林遺跡Ⅱ』佐野市埋蔵文化財調査報告書第 27 集

茂木町教育委員会 1994『河原台』茂木町埋蔵文化財調査報告書第 1 集

梁木誠 1988『聖山口縁遺跡Ⅴ—根古谷台遺跡発掘調査概要—』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第 24 集

山ノ井清人 1974『長者ヶ平西遺跡発掘調査報告』大田原市教育委員会

## <茨城県>

青池紀子・中林香澄 2016『滝ノ上遺跡Ⅲ』常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第 29 集

青池紀子・宇井義典・原みちる・中林香澄 2015『三美仲道遺跡Ⅱ 滝ノ上遺跡Ⅱ』常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第 22 集

青木幸一・柿沼修平 1991『鹿島神宮駅北部埋蔵文化財調査報告Ⅶ』鹿島町の文化財第 71 集

青木幸一・柿沼修平 1992『鹿島神宮駅北部埋蔵文化財調査報告Ⅸ』鹿島町の文化財第 76 集

阿久津久・渡辺平次郎・鶴見貞雄・山野井哲夫 1980『鹿窪坂の上遺跡発掘調査概報』結城市文化財調査報告書第 1 集

阿見町教育委員会 1998a『島津遺跡（島津 1・2・3・4 地区）発掘調査報告書』

阿見町教育委員会 1998b『島津遺跡（貝塚 1・2 地区）発掘調査報告書』

荒井保雄・成島一也 2003『御園生遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 200 集

荒蒔克一郎 2004『堂東遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 213 集

荒蒔克一郎 2013『中根中谷津遺跡 2』茨城県教育財団文化財調査報告第 367 集

安藤敏孝・箕輪健一・岩松和光・桜井二郎・佐々木義則 1989『宮平遺跡発掘調査概報』石岡市教育委員会

猪狩俊哉・谷旬・大賀健・清水克彦・篠原正・高橋歩美 2015『茨城県日立市 大近平遺跡発掘調査報告書』日立市文化財調査報告第 101 集

石井篤・稲田健一・菊池順子・栗田昌幸・斉藤新・鈴木素行 2019『君ヶ台遺跡（第 7 次）松原遺跡（第 4 次） 相对古墳群（第 2 次） 東原遺跡（第 3・4 次）』ひたちなか市遺跡調査会

石岡市教育委員会 1980『石岡市東大橋原遺跡—第 3 次調査報告—』

石川義信・小室弘毅 2007『大戸富士山遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 279 集

石橋美和子 2018『栗林遺跡発掘調査報告書』鹿嶋市の文化財第 164 集

石橋美和子・小田代昭丸・岩松和光・宇佐美義春・風間和秀 2002『鹿島神宮駅北部埋蔵文化財調査報告 18』鹿嶋市の文化財第 112 集

伊藤玄三・田部秀男・鈴木啓介・石川太郎・堤仙匡 1998『村岡遺跡群発掘調査報告書』千代川村埋蔵文化財発掘調査報告書第 4 集

伊藤重敏・川崎純徳 1966『津田・天神山遺跡調査報告』勝田市教育委員会

伊藤廉倫 1992『上台・大近平遺跡発掘調査報告書』日立市文化財調査報告第 28 集

糸川崇 1994 『鹿島神宮駅北部埋蔵文化財調査報告 13』 鹿島町の文化財第 86 集

糸川崇・小田代昭丸・岩松和光 1996 『鹿島神宮北部埋蔵文化財調査報告 X』 鹿島町の文化財第 104 集

井上義安 1978 『茨城県おんだし遺跡』 日本核燃料開発株式会社・大洗町教育委員会

井上義安 1985a 『水戸市下畑遺跡』 水戸市下畑遺跡発掘調査会

井上義安 1985b 『那珂川の先史遺跡』 第 5 集

井上義安 2000 『大貫落神南貝塚』 大貫台地埋蔵文化財発掘調査報告書第 2 冊

井上義安ほか 1987 『平原』 東海村平原遺跡調査会

茨城県史編集委員会 1979 『茨城県史料』 考古資料編 先土器・縄文時代

岩松和光 1988 『北台遺跡発掘調査報告書』 鹿島町の文化財第 60 集

牛久市教育委員会 2017 『牛久市内遺跡発掘調査報告書平成 27 年度』 牛久市文化財調査報告第 14 集

江原美奈子・大関武 2009 『本田遺跡』 茨城県教育財団文化財調査報告第 313 集

江原美奈子・近江屋成陽・矢ノ倉正男 2018 『築地遺跡 宮原前遺跡 2』 茨城県教育財団文化財調査報告第 427 集

海老澤稔 2018 『清水原山遺跡』 茨城県教育財団文化財調査報告第 426 集

近江屋成陽・石橋充 2008 『酒丸遺跡』 つくば市教育委員会

大賀健・長谷川秀久・大越直樹・黒澤春彦・関口満 2011 『赤弥堂遺跡（西地区）』 土浦市教育委員会

大久保芳紀 2017 『釈迦新田遺跡 2』 茨城県教育財団文化財調査報告第 418 集

大島孝博・齋藤和浩 2015 『西泉伏木遺跡 山崎遺跡群』 茨城県教育財団文化財調査報告第 392 集

大関武 1997 『宮前遺跡』 茨城県教育財団文化財調査報告第 118 集

大野村 1991 『前野遺跡（1 次） 前野 3 号墳（2 次） 発掘調査報告書』 前野遺跡調査会

小川和博 2002a 『上の内遺跡発掘調査報告書』 日立市文化財調査報告第 61 集

小川和博 2002b 『上の台遺跡発掘調査報告書』 日立市文化財調査報告第 62 集

小川和博・大淵淳志 1989 『木田余台』 土浦市教育委員会

小川和博・大淵淳志 1991 『木田余台 I』 土浦市教育委員会

小川和博・大淵淳志 2005 『高ノ倉遺跡発掘調査報告書』 常陸大宮市教育委員会

小川和博・大淵淳志・窪田恵一・関口満 2006 『龍善寺遺跡』 土浦市教育委員会

小川和博・大淵淳志・黒澤春彦・西本豊弘・小林園子 2009 『神立平遺跡』 土浦市教育委員会

小川貴行 2009 『石川西遺跡』 茨城県教育財団文化財調査報告第 321 集

小川貴行 2010 『北田遺跡 2』 茨城県教育財団文化財調査報告第 331 集

小川貴行・松林秀和 2012 『児松遺跡 2』 茨城県教育財団文化財調査報告第 351 集

小川貴行・田村雅樹・佐藤一也 2013 『然山西遺跡』 茨城県教育財団文化財調査報告第 379 集

風間和秀 1990 『鹿島神宮駅北部埋蔵文化財調査報告 V』 鹿島町の文化財第 69 集

風間和秀・石橋美和子 2003 『鹿島市内遺跡発掘調査報告書 24』 鹿嶋市の文化財第 115 集

風間和秀・田川良・柿沼修平・橋本久雄 1993 『鹿島神宮駅北部埋蔵文化財調査報告 12』 鹿島町の文化財第 77 集

風間和秀・宮崎美和子・小田代昭丸・岩松和光 1996 『鹿島神宮駅北部埋蔵文化財調査報告』 鹿嶋市の文化財第 93 集

鍛冶文博・藤原均・石川功 2002 『木田余台 II』 土浦市教育委員会

樫村宣行 1993 『白石遺跡』 茨城県教育財団文化財調査報告第 82 集

勝田市 1979 『勝田市史』 別編 II 考古資料編

加藤晋平・茂木雅博 1992 『於下貝塚発掘調査報告書』 麻生町教育委員会

加藤雅美・小河邦男 1981『常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ』茨城県教育財団文化財調査報告第 10 集

亀井翼 2018『神立遺跡』土浦市教育委員会

瓦吹堅・桜井二郎・高村勇 1982『廻り地 A 遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 15 集

鴨志田篤二・鈴木素行・川崎純徳 1982『三反田蜆塚貝塚発掘調査報告書』勝田市教育委員会

鴨志田篤二・鈴木素行・川崎純徳 1983『昭和 57 年度 三反田蜆塚貝塚発掘調査報告書』勝田市教育委員会

鴨志田篤二ほか 1985『勝田市外野遺跡発掘調査報告書』勝田市教育委員会

鴨志田篤二ほか 1995『平成 6 年度市内遺跡発掘調査報告書』ひたちなか市教育委員会

鴨志田篤二ほか 1999『平成 10 年度市内遺跡発掘調査報告書』ひたちなか市教育委員会

鴨志田篤二ほか 2000『平成 11 年度市内遺跡発掘調査報告書』ひたちなか市教育委員会

鴨志田篤二ほか 2001『平成 12 年度市内遺跡発掘調査報告書』ひたちなか市教育委員会

鴨志田篤二ほか 2002『平成 13 年度市内遺跡発掘調査報告書』ひたちなか市教育委員会

鴨志田篤二ほか 2004『平成 15 年度市内遺跡発掘調査報告書』ひたちなか市埋蔵文化財調査センター

鴨志田篤二・窪田憲一 2000『三反田蜆塚貝塚』ひたちなか市教育委員会

川口武彦・関口慶久・新垣清貴・渥美賢吾・色川順子・木本拳周 2007『平成 17 年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』

川口武彦・色川順子・関口慶久・渥美賢吾・金子千秋・平井孝憲・藤根久・竹原弘展 2011『平成 20 年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』

川崎純徳・鴨志田篤二 1980『君ヶ台貝塚の研究』勝田文化財研究会

川崎純徳・海老澤稔・黒沢彰哉・松本裕治 1978『石岡市東大橋原遺跡』

川崎純徳・黒沢彰哉・海老澤稔 1979『石岡市東大橋原遺跡』

川崎純徳・鴨志田篤二・沢畑俊明・磯野優 1980『君ヶ台遺跡調査報告書』勝田市教育委員会

川津法伸 1998『主要地方道つくば古河線緊急地方道路事業地内埋蔵文化財調査報告書 大橋 B 遺跡 釈迦才仏遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 131 集

川又清明・野田良直・吹野富美夫・浅野和久 2002『宮後遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 188 集

川村満博 1998『中谷津遺跡 I』茨城県教育財団文化財調査報告第 139 集

木村光輝 2015『大谷貝塚 3』茨城県教育財団文化財調査報告第 401 集

木村光輝・海老澤稔 2016『東田中遺跡・中津川遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 407 集

久野俊度 1987『境松遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 41 集

栗田功 2007『新井南山遺跡 手代木田向西遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 267 集

黒澤秀雄 1992『裏山遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 73 集

黒澤秀雄 2003『北田遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 206 集

慶応義塾大学考古学研究会 1982『研究報告 2—茨城県新治郡新治村村内遺跡群の調査—』

小泉光正 1991『神谷森遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 66 集

小林孝・飯島一生 1999『前田村遺跡 J・K 区』茨城県教育財団文化財調査報告第 147 集

駒澤悦郎・成島一也・作山智彦 2009『大谷貝塚』茨城県教育財団文化財調査報告第 317 集

小松崎和治 2007『島名境松遺跡 島名前野東遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 281 集

小山映一 1989『南三島遺跡 3・4 区 (Ⅱ)』茨城県教育財団文化財調査報告第 49 集

財団法人茨城県教育財団 1980『赤松遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 4 集

斎藤弘道 1987『南三島遺跡 3・4 区』茨城県教育財団文化財調査報告第 44 集

齊藤弘道・和田雄次 1985『南三島遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 30 集

齋藤洋・新垣清貴 2005『大鋸町遺跡』水戸市埋蔵文化財調査報告第 3 集

坂本勝彦 2012『釈迦新田遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 352 集

櫻井完介 2010『大谷貝塚 2』茨城県教育財団文化財調査報告第 330 集

桜井二郎・佐藤正好 1984『筒戸 A 遺跡 筒戸 B 遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 24 集

作山智彦・見越広幸 2019『東田中遺跡 2』茨城県教育財団文化財調査報告第 434 集

佐々木義則・色川順子 2004『向野 VI』財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告第 31 集

佐藤政則・小川和博 2014『茨城県日立市 上の台遺跡発掘調査報告書』日立市文化財調査報告第 100 集

佐藤正好 1988『屋代 B 遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 45 集

佐藤正好・渡辺俊夫 1982『宮部遺跡 鹿の子 A 遺跡 砂川遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 16 集

塩谷修・小松美子・黒澤春彦・吉澤悟・吉田匠・関口満 2009『八幡脇遺跡』土浦市教育委員会

清水哲・齋藤貴史 2010『十王堂遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 332 集

清水哲・内田勇樹・海老澤稔・仙波亨 2017『吉十北遺跡 勘十郎堀跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 419 集

白石真理・色川順子・窪田憲一・佐々木義則・鈴木素行 2007『向野遺跡群』財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告第 36 集

鈴木素行・佐々木義則 1991『向野 I』財団法人勝田市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告第 4 集

鈴木素行・藤本武 1994『久慈川・那珂川流域の貝塚―藤本弥城先史資料整理調査報告書Ⅷ―』財団法人勝田市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告第 10 集

鈴木素行・稲田健一・佐々木義則 2018『平成 29 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書』

鈴木素行・稲田健一・佐々木義則 2019『平成 30 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書』

鈴木素行・稲田健一・栗田昌幸・佐々木義則 2015『平成 26 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書』

鈴木素行・稲田健一・栗田昌幸・佐々木義則 2016『平成 27 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書』

鈴木素行・稲田健一・栗田昌幸・矢野徳也・佐々木義則 2012『平成 23 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書』

鈴木素行・稲田健一・栗田昌幸・矢野徳也・佐々木義則 2013『平成 24 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書』

鈴木素行・稲田健一・栗田昌幸・矢野徳也・佐々木義則 2014『平成 25 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書』

鈴木素行・稲田健一・矢野徳也・佐々木義則 2017『平成 28 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書』

鈴木美治・佐藤正好 1985『大谷津 A 遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 28 集

住谷光男ほか 1983『昭和 57 年度市内遺跡発掘調査報告書』勝田市教育委員会

住谷光男ほか 1987『昭和 61 年度市内遺跡発掘調査報告書』勝田市教育委員会

住谷光男ほか 1989『昭和 63 年度市内遺跡発掘調査報告書』勝田市教育委員会

大子町史編さん委員会 1981『大子町史料』別冊[2]大子町の遺跡と遺物―遺跡地名表・分布図―

高野浩之・関口慶久・川口武彦 2008『渡里町 (第 6 地点)』水戸市埋蔵文化財調査報告第 17 集

高村勇 1987『埴貝塚』茨城県教育財団文化財調査報告第 42 集

高村勇・根本康弘 1981『冬木地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団文化財調査報告第 9 集

高橋清文・浅間陽・土井道明・後藤俊一 2014『滝ノ上遺跡 I』常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第 18 集

田口崇・岩松和光 1995『鹿島神宮駅北部埋蔵文化財調査報告』XIV 鹿島町の文化財第 92 集

田口崇・島田則夫 1984『倉持遺跡』明野町埋蔵文化財発掘調査報告書第 2 集

田口崇・橋本久雄 1993『鹿島町内遺跡発掘調査報告』14 鹿島町の文化財第 80 集

田中浩江・中林香澄 2016『滝ノ上遺跡Ⅳ』常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第 30 集

田原康司 2008『羽黒山遺跡 2 大戸富士山遺跡 2』茨城県教育財団文化財調査報告第 293 集

田村雅樹・大武宣隆・見越広幸 2019『瑞龍遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 436 集

竹端勇 1996『片岡遺跡発掘調査報告書』2 鹿嶋市の文化財第 94 集

千種重樹 1992『北山不動遺跡』北山不動遺跡発掘調査会

千種重樹 1999『坪井上遺跡』坪井上遺跡発掘調査会

千代川村史編さん委員会 2001『千代川村の遺跡—千代川村遺跡分布調査報告書—』千代川村史資料第 1 集

つくば市教育委員会 2001『つくば市遺跡分布調査報告書 谷田部地区・桜地区』

つくば市教育委員会 2017『つくば市市内遺跡 平成 28 年度発掘調査報告』

取手市教育委員会 1997『取手市内遺跡発掘調査報告書』3

豊郷台遺跡発掘調査会 1976『ミシマ遺跡』豊郷台遺跡群 I

長洲正博 2014『古屋敷遺跡・恩名新三郎遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 388 集

長津盛男 2012『根岸西遺跡 2』茨城県教育財団文化財調査報告第 357 集

中村幸雄 1983『大谷津 B 遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 13 集

中根節男 1986『南三島遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 32 集

西野元・加藤博文・石井淳 1996『笠間市西田遺跡の研究—縄文時代における石鏃の製作と流通に関する研究—』筑波大学  
先史学・考古学研究調査報告第 7 集

沼田文夫 1986『小場遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 35 集

沼田文夫・人見暁朗 1984『南三島遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 27 集

根本康弘 2017『宮後遺跡 2』茨城県教育財団文化財調査報告第 422 集

橋場君男 1998『神明遺跡 (第 1 次・第 2 次調査)』土浦市教育委員会

橋邊優尚 2019『長丁遺跡』坂東市教育委員会

橋本久雄 1989『鹿島神宮駅北部埋蔵文化財調査報告』Ⅲ鹿島町の文化財第 61 集

橋本久雄 1992『鹿島町内遺跡発掘調査報告』XⅢ 鹿島町の文化財第 75 集

橋本久雄・青木幸一・柿沼修平 1992『鹿島神宮駅北部埋蔵文化財調査報告』Ⅸ 鹿島町の文化財第 76 集

早川麗司・山口憲一 2019『瑞龍遺跡』常陸太田市埋蔵文化財調査報告書第 13 集

肥田順一 1996『六十原 A 遺跡』土浦市教育委員会

日立市教育委員会 1972『田尻町上の代遺跡 発掘調査の概要』

平岡和夫・松田政基・荒井英樹 1993『寄居 B 遺跡』山武考古学研究所

吹野富美夫・宮崎修士・柴田博行 1999『前田村遺跡 G・H・I 区』茨城県教育財団文化財調査報告第 361 集

藤本弥城 1977『那珂川下流の石器時代研究』I

藤本弥城 1980『那珂川下流の石器時代研究』II

福井流星 2012『前田村遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 226 集

福山俊彰 1992『岩折遺跡発掘調査報告書』日立市文化財報告第 29 集

福山俊彰・安藤敏孝・平岡和夫 1992『宮平遺跡』山武考古学研究所

松田政基 1989『宮平遺跡発掘調査報告書』石岡市教育委員会

松田政基 1997『下の内遺跡発掘調査報告書』日立市文化財調査報告第 42 集

間宮正光・長谷川里美 2006『鹿島神社遺跡 (小張城跡)』伊奈町教育委員会

美浦村教育委員会 2006『陸平貝塚 調査研究報告書 2 学史関連資料調査の成果』陸平研究所叢書 3  
皆川修 2001『十万原遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 179 集  
宮崎美和子 1995『鹿島町内遺跡発掘調査報告』16 鹿島町の文化財第 90 集  
宮崎美和子・岩松和光 1997『鹿島神宮駅北部埋蔵文化財調査報告』16 鹿嶋市の文化財第 102 集  
宮田和男 2002『十万原遺跡 2』茨城県教育財団文化財調査報告第 193 集  
茂木雅博 1982『常陸部原遺跡』東海村教育委員会  
茂木雅博ほか 1994『常陸下ノ諏訪南遺跡』東海村遺跡調査会・東海村教育委員会  
森下松寿・橋本久雄・本田勉・橋本勉 1977『鹿島神宮駅北部埋蔵文化財調査報告』I 鹿島町の文化財第 2 集  
森下松寿・橋本久雄・本田勉・田口崇 1979『鹿島神宮駅北部埋蔵文化財調査報告』II 鹿島町の文化財第 10 集  
本橋弘巳 2008『中峰遺跡 児松遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 286 集  
山野井哲夫・斉藤弘道・鶴見貞雄・田口崇 1983『倉持遺跡』明野町埋蔵文化財発掘調査報告書第 1 集  
山本静男 1984『仲根台 B 遺跡 町田遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 25 集  
湯原勝美・松田政基 1998『上の内遺跡発掘調査報告書』日立市文化財調査報告書第 46 集  
横倉要次 2004『松田古墳群』茨城県教育財団文化財調査報告第 226 集  
横堀孝徳 1997『前田村遺跡 C・D・F 区』茨城県教育財団文化財調査報告第 116 集  
吉原作平 1994『西ノ脇遺跡 前田村遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 87 集  
吉原作平・宮崎修士 1997『高野台遺跡 前田村遺跡 D・F 区』茨城県教育財団文化財調査報告第 127 集  
和田清典・吹野富美夫・浅野和久・荒蒔克一郎・駒澤悦郎 2005『宮後遺跡 2』茨城県教育財団文化財調査報告第 240 集  
和田雄次・中沢時宗・桜井一美 1989『本田遺跡 善長寺遺跡 小田林遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 51 集  
渡邊浩実 2006『根岸西遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 261 集

## <福島県>

会津若松市教育委員会 2002『下川原遺跡』会津若松市文化財調査報告第 74 号  
会津若松市教育委員会 2004『下川原遺跡 2』会津若松市文化財調査報告第 96 号  
阿部力・鈴鹿良一・山内幹夫ほか 1996『摺上川ダム遺跡発掘調査報告 I』福島県文化財調査報告書第 319 集  
阿部知己・高林真人・坂田由紀子・松本茂 2006『常盤自動車道遺跡調査報告 45』福島県文化財調査報告書第 435 集  
阿部健太郎・梶原圭介・梶原文子・猪狩俊哉 2007『油田遺跡』会津美里町文化財調査報告書第 2 集  
新井達哉 2004『和台遺跡 2』飯野町埋蔵文化財発掘調査報告書第 6 集  
猪狩忠雄・廣岡敏・本田善人・末永成清ほか 2001『横山 B 遺跡』いわき市埋蔵文化財調査報告第 77 冊  
猪狩英究・原光広 1994『宮畑遺跡発掘調査報告』福島市埋蔵文化財調査報告書第 60 集  
逸見克己 2000『後田遺跡』船引町文化財調査報告書第 26 冊  
逸見克己 2006a『福島県指定史跡 前田遺跡』田村市文化財調査報告書第 1 集  
逸見克己 2006b『大平遺跡』田村市文化財調査報告書第 2 集  
稲村圭一・坂田由紀子・林紘太郎 2007『常磐自動車道遺跡調査報告 49』福島県文化財調査報告書第 444 集  
いわき市教育委員会 1975『大畑貝塚調査報告』  
上村泰徳・堀江格・菅野崇之 1998『飯坂南部土地区画整理事業関連遺跡調査報告 VI』福島市埋蔵文化財調査報告書第 122 集  
梅宮薫・菅野寿一・今野賀章 1996『宮畑遺跡』福島市埋蔵文化財調査報告書第 91 集

江川逸夫・木幡成雄・末永成清・吉田生哉・川田強 2010『野間土手（原町区西町地区） 原町西町遺跡』南相馬市埋蔵文化財調査報告書第 16 集

大竹憲治 1991『大越・馬場平 B 遺跡』大越町埋蔵文化財調査報告第 7 冊

大竹憲治・鈴木源 1998『大越・岡平遺跡』大越町埋蔵文化財調査報告第 17 冊

大竹憲治・鈴木源・角田学 1997『矢大臣遺跡Ⅳ』小野町埋蔵文化財調査報告書第 8 冊

大竹憲治・坂本和也・鯨岡勝成・角田学・鈴木源 1993『矢大臣遺跡Ⅱ』小野町埋蔵文化財調査報告書第 5 冊

大竹憲治ほか 1990『船引・堂平遺跡』船引町文化財調査報告第 8 冊

大竹憲治ほか 1994『矢大臣遺跡Ⅲ』小野町埋蔵文化財調査報告書第 6 冊

大玉村教育委員会 1999『台田遺跡発掘調査報告書 第 2 次』大玉村文化財調査報告書第 9 集

押山雄三・日塔とも子 1994『鴨打 A 遺跡（遺構編）』郡山市教育委員会

押山雄三・高松俊雄 2005『町 B 遺跡』財団法人郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団

押山雄三・角田克人・中島雄一・佐藤重幸・高橋博志 1994『郡山東部』14 郡山市教育委員会

角田克人・日塔とも子・垣内和孝・青山和人 1993『郡山東部 13』郡山市教育委員会

樫村友延・本田善人 1999『小茶円遺跡（馬場地区）・上ノ内遺跡（第 2 次調査）』いわき市埋蔵文化財調査報告第 59 冊

樫村友延・中山雅弘・鈴木隆康・佐藤典邦 2000『郡遺跡 広畑 B 遺跡』いわき市埋蔵文化財調査報告第 71 冊

金崎佳生 1987『中山太田遺跡発掘調査概報』郡山市教育委員会

金崎佳生・齋藤誠・佐藤満夫・鈴木雄三ほか 1980『びわ首沢遺跡』郡山市教育委員会

川田強 2005『浦尻貝塚 1』南相馬市埋蔵文化財調査報告書第 1 集

川田強・佐川久・玉川一郎・樋泉岳二・植月学 2005『浦尻貝塚 1』小高町文化財調査報告第 6 集

川田強・佐川久・樋泉岳二・江田真毅・黒住耐二ほか『浦尻貝塚 3』南相馬市埋蔵文化財調査報告書第 11 集

日下部善己 1981『高稲場遺跡』岩代町文化財調査報告書第 5 集

黒澤俊廣・青山和人 2000『宮ノ脇遺跡 第 4 次発掘調査報告』郡山市教育委員会

香内修・五十嵐敏裕・本間宏・佐藤啓 1993『東北横断自動車道遺跡調査報告 20』福島県文化財調査報告書第 291 集

小柴吉男・渡辺満・五十嵐稔 1990『十五壇遺跡発掘調査報告』会津高田町埋蔵文化財調査報告書第 11 集

後藤幸男・福島雅儀 1989『三春ダム関連遺跡発掘調査報告Ⅱ』福島県文化財調査報告書第 217 集

木幡成雄・矢島敬之 2002『根室遺跡』いわき市埋蔵文化財調査報告第 83 冊

木幡成雄・矢島敬之・猪狩みち子・松嶋直美 2002『連郷遺跡』いわき市埋蔵文化財調査報告第 88 冊

木幡成雄・矢島敬之・佐藤勝比古・樫村友延・中山雅弘 2005『根室遺跡』いわき市埋蔵文化財調査報告第 109 冊

小平良男・大越道正・阿部俊夫・松本茂『国営総合農地開発事業 母畑地区遺跡発掘調査報告Ⅹ』福島県文化財報告書第 108 集

小林謙一 2013『井出上ノ原遺跡—2006・2007 年度発掘調査—』中央大学文学部考古学研究室調査報告書 1

齋藤義弘・梅宮薫・高橋一征 2002『宮畑遺跡』福島市埋蔵文化財報告書第 161 集

齋藤義弘・堀江格 2005『史跡 宮畑遺跡』福島市埋蔵文化財報告書第 180 集

齋藤義弘・堀江格 2008『宮畑遺跡』福島市埋蔵文化財報告書第 196 集

齋藤義弘・堀江格 2010『史跡 宮畑遺跡』福島市埋蔵文化財報告書第 206 集

佐川久・川田強 2007『大田和広畑遺跡』南相馬市埋蔵文化財調査報告書第 7 集

佐川久・高橋満 2010『浦尻貝塚 4』南相馬市埋蔵文化財調査報告書第 15 集

佐々木慎一・鹿又喜隆・吉田功・笠井崇吉 2006『常磐自動車道遺跡調査報告 43』福島県文化財調査報告書第 433 集



佐藤典邦・中山雅弘 2002 『上ノ台遺跡』いわき市埋蔵文化財調査報告第 89 冊

佐藤典邦・山崎京美 1996 『綱取貝塚』いわき市埋蔵文化財調査報告第 45 冊

佐藤健夫・石本弘・大平好一・小田川哲彦・香川慎一 1990 『矢吹地区遺跡発掘調査報告VI』福島県文化財調査報告書第 226 集

佐藤健夫・藤田誠・石本弘・小熊博治・丹野隆明 1989 『矢吹地区遺跡発掘調査報告IV』福島県文化財調査報告書第 206 集

佐藤常雄・高橋博志 2003 『柳橋遺跡』郡山市教育委員会

佐藤常雄・高松俊雄・佐藤重幸ほか 2003 『石畑遺跡（第 1 次・第 2 次） 馬場中道遺跡（第 2 次） 馬場小路遺跡（第 2 次）』財団法人郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団

佐藤光義・長尾修・馬場秀之・藤原妃敏・山崎京美 1991 『石生前遺跡発掘調査報告書』柳津町埋蔵文化財調査報告書第 1 集

柴田俊彰・上村泰徳・安中浩・秦文夫 1993 『第三期山村振興の雨林漁業対策事業水原小谷地区農道改良工事関連遺跡発掘調査報告』福島市埋蔵文化財調査報告書第 58 集

庄司孝雄・鈴鹿良一・松本茂・原充広 1987 『真野ダム関連遺跡発掘調査報告X』福島県文化財調査報告書第 183 集

末永成清・佐藤勝比古 2003 『綱取貝塚』いわき市埋蔵文化財調査報告第 93 冊

末永成清・木幡成雄・吉田生哉 2007 『上の町 B 遺跡発掘調査報告書』富岡町教育委員会

菅原祥夫・丹治篤嘉・轡田克史・富田修 2003 『常磐自動車道遺跡発掘調査報告 35』福島県文化財調査報告書第 399 集

菅原祥夫・小暮伸之・菊田順幸・佐藤悦夫 2016 『一般国道 115 号相馬福島道路遺跡発掘調査報告IV』福島県文化財調査報告書第 511 集

鈴鹿良一 1982 『馬見塚遺跡』相馬市文化財調査報告書

鈴鹿良一 1984 『真野ダム関連遺跡発掘調査報告V』福島県文化財調査報告書第 128 集

鈴鹿良一・三品勝幸・山内幹夫 1989 『真野ダム関連遺跡発掘調査報告XIII』福島県文化財調査報告書第 210 集

鈴鹿良一・山岸英夫・木村直之・阿部知己 2000 『摺上川ダム遺跡発掘調査報告IX』福島県文化財調査報告書第 366 集

鈴鹿良一・大平好一・佐々木修・丹治秀樹・井憲治 1991 『三春ダム関連遺跡分布調査報告 I』福島県文化財調査報告書第 253 集

鈴鹿良一・高橋信一・浜名新一・山内幹夫・村木亨・佐藤耕三 1984 『真野ダム関連遺跡発掘調査報告V』福島県文化財調査報告書第 128 集

鈴鹿良一・山内幹夫・三品勝幸・佐々木修・能登谷宣康・井憲治 1990 『真野ダム関連遺跡発掘調査報告XIV』福島県文化財調査報告書第 230 集

鈴鹿良一・岡田光生・児山昭一・水谷勝雄・松本雅史ほか 1998 『摺上川ダム遺跡発掘調査報告VI』福島県文化財調査報告書第 346 集

鈴鹿良一・山内幹夫・三品勝幸・佐々木修ほか 1990 『真野ダム関連遺跡発掘調査報告XV』福島県文化財調査報告書第 231 集

鈴鹿良一・山岸英夫・大河原勉・青山博樹 1997 『摺上川ダム遺跡発掘調査報告IV』福島県文化財調査報告書第 338 集

鈴木雅文 1992 『上原遺跡 2』本宮町文化財調査報告書第 17 集

鈴木康隆・末永成清 2008 『沢東 B 遺跡』浪江町埋蔵文化財調査報告第 18 集

鈴木雄三・相原秀郎・高松俊雄・金崎佳生 1982 『河内下郷遺跡群II』郡山市教育委員会

高木政光・松崎真・山岸英夫・香内修・福山和人・三辻利一 1990 『東北横断自動車道遺跡調査報告VIII』福島県文化財調査

報告書第 240 集

高木政光・光家孝一・松崎真・松本茂ほか、1991『東北横断自動車道遺跡調査報告 X I』福島県文化財調査報告書第 243 集

高木政光・光家孝一・松本茂・丹治秀樹ほか、1990『東北横断自動車道遺跡調査報告 VII』福島県文化財調査報告書第 232 集

高島好一 2016『上野遺跡 2』いわき市埋蔵文化財調査報告第 174 冊

高島好一・矢島敬之 2004『作 B 遺跡』いわき市埋蔵文化財調査報告第 105 冊

高田勝・福森久晃・田母神恵 1997『郡山東部』21・22 郡山市教育委員会

武田正俊・青山和人 1999『宮ノ脇遺跡 第 3 次発掘調査報告』郡山市教育委員会

武田正俊・押山雄三・熊田京子・宇佐美栄子 1997『一ツ松遺跡』郡山市教育委員会

富田真衛・菅野崇之 2002『二ツ石遺跡』福島市埋蔵文化財調査報告書第 153 集

富田真衛・齋藤善治 2002『羽根通 A 遺跡』福島市埋蔵文化財調査報告書第 152 集

長尾修・佐藤光義・辻秀人・辺見理香・古川利恵・和田聡 1989『十五壇遺跡発掘調査報告書』会津高田町埋蔵文化財調査報告書第 10 集

仲田茂司 1989『西方前遺跡 III 図版篇』三春町文化財調査報告書第 12 集

仲田茂司 1992『西方前遺跡 IV 本文篇』三春町文化財調査報告書第 16 集

仲田茂司・山口晋・藤谷誠 1985『三春ダム関連遺跡発掘調査報告書 II』三春町文化財調査報告書第 5 集

中野康雄・山岸英夫 1989『三春ダム関連遺跡発掘調査報告 I』福島県文化財調査報告書第 216 集

中村五郎・先崎忠衛 1984『観音山遺跡』滝根町文化財調査報告第 1 集

中村嘉雄・柴田俊彰・原充広ほか、1991『飯坂南部土地地区画整理事業関連遺跡調査報告 I』福島市埋蔵文化財報告書第 43 集

中山雅弘・鈴木隆康・樫村友延・高島好一 2001『松ノ下遺跡』いわき市埋蔵文化財調査報告第 73 冊

西戸純一・大槻巖・新井達哉ほか、2003『和台遺跡—第 1 次～第 4 次調査報告—』飯野町埋蔵文化財調査報告書第 5 集

西村博幸・秦文夫 2000『宮畑遺跡 3』福島市埋蔵文化財調査報告書第 133 集

西村博幸・秦文夫・関亘・菅野寿一 1997『宮畑遺跡 2』福島市埋蔵文化財報告書第 109 集

西村博幸・秦文夫・富田真衛・齋藤善浩・高橋英雄・黒澤基次 2001『地藏原遺跡』福島市埋蔵文化財調査報告書第 143 集

西山真理子 1991『松ヶ倉遺跡発掘調査報告』霊山町文化財調査報告書第 9 集

根本豊徳・中村真由美 1996『塩沢上原 A 遺跡発掘調査報告書』二本松市文化財調査報告書第 12 集

根本信孝 1984『南堀切 IV』白河市埋蔵文化財調査報告書第 10 集

芳賀英一 1983『上林遺跡』山都町文化財調査報告書第 2 集

芳賀栄一・石井宏幸・小沢弘道 1983『長者屋敷遺跡』山都町文化財調査報告第 1 集

芳賀英一・丹野隆明 1989『国営会津農業水利事業関連遺跡調査報告 VII』福島県文化財調査報告書第 207 集

芳賀英一・大槻誠・阿部智彦・佐藤啓ほか、2002『福島空港・あぶくま南道路遺跡発掘調査報告 13』福島県文化財調査報告書第 395 集

芳賀英一・金谷光男・細山郁夫・宮田安志ほか、2000『福島空港公園遺跡調査報告 3』福島県文化財調査報告書第 373 集

芳賀英一・吉田秀亨・阿部知己・中川光衛ほか、1999『福島空港公園遺跡発掘調査報告 1』福島県文化財調査報告書第 358 集

芳賀輝夫・星幸則 2004『岡野田遺跡発掘調査報告』矢祭町教育委員会

原充広 1994『飯坂南部土地区画整理事業関連遺跡調査報告Ⅳ』福島市埋蔵文化財調査報告書第 66 集

原充広・安中満 1997『飯坂南部土地区画整理事業関連遺跡調査報告Ⅴ』福島市埋蔵文化財調査報告書第 95 集

原充広・斎藤聡司 1992『飯坂南部土地区画整理事業関連遺跡調査報告Ⅱ』福島市埋蔵文化財調査報告書第 51 集

原充広・二瓶健一 1994『飯坂南部土地区画整理事業関連遺跡調査報告Ⅲ』福島市埋蔵文化財調査報告書第 65 集

日塔とも子 2000『鴨打 A 遺跡 遺構外編』郡山市教育委員会

廣岡敏・柳良幸広 2000『上ノ台遺跡』いわき市埋蔵文化財調査報告第 67 冊

廣岡敏・中山雅弘・本田善人 1989『下平石遺跡』いわき市埋蔵文化財調査報告第 22 冊

福島大学考古学研究会 1978『三斗蒔遺跡』平田村埋蔵文化財発掘調査報告書第 1 集

福島雅儀・山崎充浩 1990『三春ダム関連遺跡発掘調査報告Ⅲ』福島県文化財調査報告書第 235 集

福島雅儀・光家孝一・伊藤勝彦 1993『三春ダム関連遺跡発掘調査報告Ⅶ』福島県文化財調査報告書第 289 集

福島雅儀・吉野滋夫・山元出・福田秀生・三浦武司 2003『一般国道 289 号南倉沢バイパス遺跡発掘調査報告Ⅰ』福島県文化財調査報告書第 409 集

福島雅儀・石本弘・高橋信一・伊藤勝彦・香川慎一ほか 1996『三春ダム関連遺跡発掘調査報告 8』福島県文化財調査報告書第 322 集

古川利意 2000『下屋敷遺跡 縄文時代中期及び古代集落跡の調査』山都町文化財調査報告第 14 集

古川利意・木本元治 2002『芝草・小屋田遺跡』西会津町埋蔵文化財調査報告書第 6 集

古川利意・木本元治 2003『上小島 A 遺跡』西会津町埋蔵文化財調査報告書第 7 集

古川利意・小柴吉男・佐藤光義・吉田博行 1985『博毛遺跡』高郷村教育委員会

堀江格 2006『史跡 宮畑遺跡』福島市埋蔵文化財調査報告書第 184 集

堀江格 2007『史跡 宮畑遺跡』福島市埋蔵文化財調査報告書第 191 集

堀江格 2009『宮畑遺跡』福島市埋蔵文化財調査報告書第 199 集

堀江格 2012『史跡 宮畑遺跡』福島市埋蔵文化財調査報告書第 215 集

堀江格・浅野淳 2002『小峯遺跡』福島市埋蔵文化財調査報告書第 155 集

堀江格・浅野淳 2003『邸下遺跡』福島市埋蔵文化財調査報告第 162 集

堀江格・鎗城潔 1998『西 B・C 遺跡』福島市埋蔵文化財調査報告書第 115 集

堀江格・富田真衛 2000『戸上向遺跡 八方塚 B 遺跡』福島市埋蔵文化財調査報告書第 137 集

堀江格・富田真衛 2001『大枝館跡 入トンキヤラ遺跡』福島市埋蔵文化財調査報告書第 142 集

堀江格・丸山泰徳 1995『下ノ平 D 遺跡 弓手原 A 遺跡 (第一次)』福島市埋蔵文化財調査報告書第 77 集

堀江格・富田真衛・秦文夫 2004『西ノ向 D 遺跡 戸上向遺跡』福島市埋蔵文化財調査報告書第 171 集

堀江格・秦文夫・引地光太・高橋一征 1997『獅子内遺跡 西ノ前遺跡 西ノ向 B 遺跡 西ノ向 C 遺跡 入トンキヤラ遺跡 上川向遺跡』福島市埋蔵文化財調査報告書第 97 集

堀江格・梅宮薫・今野浩・高橋賢也・佐々木和紀 1998『下ノ平 E 遺跡 西ノ前遺跡』福島市埋蔵文化財調査報告書第 110 集

本間宏・磯上義明・大槻巖 1989『東北横断自動車道遺跡調査報告Ⅴ』福島県文化財調査報告書第 219 集

松本茂 1985『堂平 B 遺跡 縄文時代中期遺跡の調査』玉川村文化財調査報告第 2 集

松本茂・阿部知己・坂田由紀子・奥山誠義 2005『常磐自動車道遺跡調査報告書 41』福島県文化財調査報告書第 428 集

松本茂・吹越富美夫・鈴鹿良一・三品勝幸 1988『真野ダム関連遺跡発掘調査報告 X I』福島県文化財調査報告書第 193 集

集

- 松本茂・吉野滋夫・阿部知己・坂田由紀子・高林真人 2006『常磐自動車道遺跡調査報告 45』福島県文化財調査報告書第 435 集
- 光家孝一・福島雅儀 1991『三春ダム関連遺跡発掘調査報告Ⅳ』福島県文化財調査報告書第 254 集
- 三春町教育委員会 1985『西方前遺跡第一次調査』三春町文化財調査報告書第 5 集
- 目黒吉明・丹羽茂 1970『本宮町上原遺跡概報』本宮町教育委員会
- 目黒吉明・佐藤勝夫・遠藤彌三郎・福島雅儀・佐藤洋一・西戸純一 1985『母畑地区遺跡発掘調査報告書Ⅷ』福島県文化財調査報告書第 147 集
- 目黒吉明・佐藤勝夫・鈴鹿良一・松本茂 1986『真野ダム関連遺跡発掘調査報告Ⅷ』福島県文化財調査報告書第 165 集
- 目黒吉明・佐藤勝夫・庄司孝雄・鈴鹿良一・松本茂・原充広 1987『真野ダム関連遺跡発掘調査報告Ⅸ』福島県文化財調査報告書第 182 集
- 目黒吉明・佐藤勝夫・西間木薫・大越道正ほか 1985『母畑地区遺跡発掘調査報告ⅩⅨ』福島県文化財調査報告書第 148 集
- 目黒吉明・鈴鹿良一・芳賀英一・高橋信一・西戸純一 1985『国営会津農業水利事業関連遺跡調査報告書Ⅲ』福島県文化財調査報告書第 149 集
- 目黒吉明・高木和夫・大越忠士・鈴鹿良一ほか 1981『石橋遺跡発掘調査報告』都路村文化財調査報告書第 1 集
- 目黒吉明・西戸純一・吉田功・能登谷宣康・吉田亨子 1991『請戸川地区遺跡発掘調査報告Ⅰ』福島県文化財調査報告書第 252 集
- 目黒吉明・山内幹夫・高橋信一・八巻善兵衛・谷口悟 1983『町谷川遺跡』梁川町文化財調査報告書第 8 集
- 森幸彦 1985『'84 塩沢上原 A 遺跡発掘調査概報』福島県立博物館調査報告 10
- 矢島敬之・末永成清 1999『連郷遺跡』いわき市埋蔵文化財調査報告第 56 冊
- 安田稔・高村亮一郎・渡辺悦子・大竹正浩ほか 1996『常磐自動車道遺跡調査報告Ⅸ』福島県文化財調査報告書第 331 集
- 安田稔・大竹正浩・佐藤あかり・菅原祥夫・成田有策・大河原勉ほか 2003『阿武隈川右岸築堤遺跡発掘調査報告Ⅲ』福島県文化財調査報告書第 402 集
- 柳田和久・高松俊雄・福山和人 1991『郡山東部』11 郡山市教育委員会
- 柳田和久・高松俊雄・福山和人・佐藤重幸・角田克人 1992『郡山東部』12 郡山市教育委員会
- 山都町教育委員会 1999『上林遺跡 縄文時代中期集落の調査』山都町文化財調査報告第 13 集
- 山内幹夫・山崎充浩 1989『国営請戸川農業水利事業遺跡調査報告』福島県文化財調査報告書第 208 集
- 山内幹夫・土井昭二・佐藤啓 1998『摺上川ダム遺跡発掘調査報告Ⅴ』福島県文化財調査報告書第 345 集
- 山内幹夫・福島雅儀・阿部知己・坂田由紀子 2005『常磐自動車道遺跡調査報告 39』福島県文化財調査報告書第 421 集
- 山内幹夫・阿部力・佐藤悦夫・鎌水実・国井秀紀 1996『摺上川ダム遺跡発掘調査報告Ⅰ』福島県文化財調査報告書第 319 集
- 山内幹夫・金谷光男・岡田光生・宮田安志・佐藤啓 1999『摺上川ダム遺跡発掘調査報告Ⅶ』福島県文化財調査報告書第 350 集
- 山内幹夫・宮田安志・国井秀紀・門脇秀典・坂田由紀子 2003『常磐自動車道遺跡調査報告 37』福島県文化財調査報告書第 414 集
- 山内幹夫・鹿目昭次・土井昭二・佐藤悦夫・桑折壮一・佐藤啓 1997『摺上川ダム遺跡発掘調査報告Ⅲ』福島県文化財調査報告書第 337 集

- 山内幹夫・荒川裕・佐々木透・高橋幸司ほか 2002 『常磐自動車道遺跡調査報告 31』福島県文化財調査報告書第 390 集
- 山内幹夫・荒川裕・能登谷宣康・大和田孝子ほか 2001 『常磐自動車道遺跡調査報告 24』福島県文化財調査報告書第 377 集
- 山内幹夫・荒川裕・能登谷宣康・大和田孝子・小野忠大ほか 2001 『常磐自動車道遺跡調査報告 25』福島県文化財調査報告書第 378 集
- 山内幹夫・荒川裕・能登谷宣康・小野忠大ほか 2001 『常磐自動車道遺跡調査報告 26』福島県文化財調査報告書第 379 集
- 山内幹夫・大竹義信・松本茂・荒川裕ほか 2000 『常磐自動車道遺跡調査報告 21』福島県文化財調査報告書第 365 集
- 山内幹夫・福島雅儀・高橋三男・佐藤美穂ほか 2002 『常磐自動車道遺跡調査報告 28』福島県文化財調査報告書第 387 集
- 山内幹夫・福島雅儀・吉野滋夫・井憲治ほか 2002 『常磐自動車道遺跡調査報告 29』福島県文化財調査報告書第 388 集
- 山内幹夫・吉田秀亨・宮田安志・能登谷宣康ほか 2003 『常磐自動車道遺跡調査報告 34』福島県文化財調査報告書第 398 集
- 山岸英夫・吉田秀亨・吉野滋夫・今野徹ほか 2010 『常磐自動車道遺跡調査報告 58』福島県文化財調査報告書第 461 集
- 山岸英夫・吉野滋夫・佐藤啓・三浦武司ほか 2009 『常磐自動車道遺跡調査報告 59』福島県文化財調査報告書第 460 集
- 山内幹夫・渡辺富夫・菅野昌宏・本間宏ほか 2000 『常磐自動車道遺跡調査報告 19』福島県文化財調査報告書第 363 集
- 山口晋・玉川一郎 1989 『堂平遺跡調査報告書』船引町文化財調査報告書第 6 冊
- 吉田幸一・相原秀郎・皆川隆男・宇佐美雅夫ほか 1983 『郡山東部Ⅲ』郡山市教育委員会
- 吉田生哉 2009 『綱取貝塚』いわき市埋蔵文化財調査報告第 133 冊
- 吉田秀亨・岡村勝行・中野幸大 2015 『一般国道 115 号相馬福島道路遺跡発掘調査報告書Ⅰ』福島県文化財調査報告書第 500 集
- 吉田秀亨・香川慎一・吉野滋夫・国井秀紀ほか 2009 『常磐自動車道遺跡調査報告 55』福島県文化財調査報告書第 458 集
- 吉田秀亨・佐々木慎一・笠井崇吉・三浦武司ほか 2011 『常磐自動車道遺跡調査報告 63』福島県文化財調査報告書第 472 集
- 吉田秀亨・宮田安志・佐藤悦夫・佐藤啓ほか 2014 『常磐自動車道遺跡調査報告 68』福島県文化財調査報告書第 491 集
- 吉田博行 1997 『大村新田遺跡』会津坂下町文化財調査報告書第 47 集
- 吉田博行・阿部司・渡部智子 2014 『花畑遺跡』会津坂下町文化財調査報告書第 71 集
- 吉田博行・阿部司・五十嵐るり子・渡辺智子 2010 『北川前遺跡』会津坂下町文化財調査報告書第 64 集
- 渡辺一雄・荒木隆 1984 「台田遺跡発掘報告」『福島考古』25 : 9-44
- 渡辺一雄・大竹憲治 1983 『道平遺跡の研究—福島県道平における縄文時代後・晩期埋設土器群の調査—』福島県大熊町教育委員会
- 渡辺一雄・馬目順一 1968 『小名浜 小名浜湾周辺の遺跡調査報告集』いわき市教育委員会磐城出張所
- 渡部展好 2013 『下屋敷遺跡発掘調査報告書（第 4 次調査）』喜多方市文化財調査報告書第 12 集
- 渡辺誠・大竹憲治・草野和二・鯨岡勝成・坂本和也 1992 『矢大臣（新田）遺跡』小野町教育委員会

## <宮城県>

- 会田容弘 1997 『里浜貝塚平成 8 年度発掘調査概報』鳴瀬町文化財調査報告書第 2 集
- 会田容弘 1998 『里浜貝塚平成 9 年度発掘調査概報』鳴瀬町文化財調査報告書第 3 集
- 会田容弘 1999 『里浜貝塚平成 10 年度発掘調査概報』鳴瀬町文化財調査報告書第 5 集
- 会田容弘 2000 『里浜貝塚平成 11 年度発掘調査概報』鳴瀬町文化財調査報告書第 6 集

相原淳一・柳澤和明 2007『山居遺跡（縄文時代編）ほか』宮城県文化財調査報告書第 214 集

生田和宏・伊藤啓之 2011『北小松遺跡』宮城県文化財調査報告書第 226 集

石巻市教育委員会 1976『沼津貝塚保存管理計画策定事業報告書』

一條孝夫 1978『湯坪遺跡発掘調査概報』宮城県文化財調査報告書第 54 集

小井川和夫 2004「里浜貝塚風越地点出土土器の検討」『東北歴史博物館研究紀要』5：17-51

小井川和夫・山田晃弘 2002「里浜貝塚西畑地点出土遺物」『東北歴史博物館研究紀要』3：45-136

太田昭夫・加藤道男・阿部恵・小川淳一・斎藤吉弘 1979『宮城県ほ場整備関連遺跡詳細分布調査報告書』宮城県文化財調査報告書第 58 集

小川淳一 1987『北前遺跡』仙台市文化財調査報告書第 105 集

小野寺智也・西村力 2002『坂戸遺跡』迫町文化財調査報告書第 4 集

小野寺祥一郎 1980『金取遺跡』宮城県文化財調査報告書第 70 集

小野章太郎 2014『北小松遺跡』宮城県文化財調査報告書第 234 集

加藤孝・後藤勝彦 1975『宮城県登米郡南方町青島貝塚発掘調査報告』南方町史編纂委員会

加藤道男 1982『青木畑遺跡』宮城県文化財調査報告書第 85 集

加藤道男・阿部博志・小徳晶 1984『東北自動車道遺跡調査報告書IX』宮城県文化財調査報告書第 99 集

工藤信一郎 1992『沼遺跡』仙台市文化財調査報告書第 166 集

後藤勝彦 1981「宮城県青島貝塚調査報告 内陸淡水産貝塚の研究」『日本考古学年報』21・22・23：39-41

後藤勝彦 2004「南境貝塚調査の層位的成果（1）7 トレンチの場合 陸前地方縄文時代中期から後期の編年学的研究」『宮城考古学』6：63-110

後藤勝彦 2005「南境貝塚調査の層位的成果Ⅱ 8 トレンチの場合 陸前地方縄文時代中期から後期の編年学的研究」『宮城史学』24：1-29

後藤勝彦 2008『西の浜貝塚』松島町文化財調査報告書第 1 集

佐久間光平・古川一明・高橋栄一・遠藤武ほか 2014『平成 24 年度東日本大震災復興事業関連遺跡調査報告Ⅰ』宮城県文化財調査報告書第 233 集

佐藤甲二・渡部弘美・工藤哲司・木村浩二 1980『仙台市開発関係遺跡調査報告Ⅰ』仙台市文化財調査報告書第 21 集

佐藤甲二・篠原信彦・斎野裕彦・加藤正範 1981『仙台市開発関係遺跡調査報告Ⅱ』仙台市文化財調査報告書第 31 集

佐藤甲二・斎野裕彦・柳沢みどり・田中則和ほか 1983『茂庭』仙台市文化財調査報告書第 45 集

佐藤信之 1984『宝領遺跡』一迫町文化財調査報告書第 4 集

佐藤洋・結城慎一・篠原信彦・吉岡恭平・藤原妃敏・安田喜慶 1981『山口遺跡』仙台市文化財調査報告書第 33 集

佐藤洋・渡部紀 1987『六反田遺跡Ⅲ』仙台市文化財調査報告書第 102 集

佐藤洋・斎野裕彦・吉岡恭平・荒井格 1982『北前遺跡』仙台市文化財調査報告書第 36 集

主濱光明 1987『山田上ノ台遺跡』仙台市文化財調査報告書第 100 集

主濱光明 1995「大野田遺跡」『仙台市史』特別編 2 考古資料：134-137

新庄屋元晴・手塚均・相原淳一・佐藤広史 1988『大梁川遺跡・小梁川遺跡（石器編）』宮城県文化財調査報告書第 126 集

新庄屋元晴・真山悟・菊地純一・笠原信男 1985『七ヶ宿ダム関連遺跡発掘調査報告書』宮城県文化財調査報告書第 107 集

進藤秋輝・鈴木真一郎・庄子敦・菅原弘樹 1990『利府町郷楽遺跡』宮城県文化財調査報告書第 134 集

菅原弘樹・墓田裕二 2003『里浜貝塚平成 13・14 年度発掘調査概報』鳴瀬町文化財調査報告書第 8 集

鈴木雅・渡邊香織・中沢祐一・杉原重夫ほか 2011『西浦 B 遺跡』蔵王町文化財調査報告書第 10 集  
高橋理 1986『沼津貝塚』新人物往来社  
高橋多吉・平沢英二郎・小井川和夫・遊佐五郎ほか 1986『田柄貝塚』宮城県文化財発掘調査報告書第 111 集  
田中則和 1981『六反田遺跡発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第 34 集  
千葉長彦・三浦実・千葉直樹 2005『鰻沢遺跡』築館町文化財調査報告書第 18 集  
千葉宗久 1980『玉造遺跡』宮城県文化財調査報告書第 68 集  
東北歴史資料館 1982-1987『宮城県鳴瀬町宮戸島里浜貝塚西畑地点の調査・研究 1-6』東北歴史資料館資料集 5・7・9・  
13・15・19  
東北歴史資料館 1988『宮城県鳴瀬町宮戸島里浜貝塚西畑北地点の調査・研究 7』東北歴史資料館資料集 22  
東北歴史資料館 1991『宮城県鳴瀬町里浜貝塚台囲頂部地点の調査 8』東北歴史資料館資料集 32  
東北歴史資料館 1994『宮城県鳴瀬町宮戸島里浜貝塚梨木東地点の調査』東北歴史資料館資料集 36  
東北歴史資料館 1997『宮城県鳴瀬町宮戸島里浜貝塚風越地点の調査』東北歴史資料館資料集 43  
丹羽茂 2009「楠本コレクションの調査 縄文土器編」『東北歴史博物館研究紀要』10：19-116  
丹羽茂・阿部博志・小野寺祥一郎 1982『東北自動車道遺跡調査報告書Ⅶ』宮城県文化財調査報告書第 92 集  
野崎進・堤英明・竹原弘展 2016『嚮館跡』気仙沼市文化財調査報告書第 8 集  
初鹿野信之・古田和誠・西村力 2011『青島貝塚』登米市文化財調査報告書 1 集  
初鹿野信之・山口淳・千葉直樹・大阪拓 2012『西石山原遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書第 230 集  
早瀬亮介・菅野智則・須藤隆 2006「東北大学文学研究科考古学陳列館所蔵大木囲貝塚出土基準資料 山内清男編年基準資  
料」『東北大学総合学術博物館紀要』5：1-40  
平沢英二郎・加藤道男・阿部恵・真山悟ほか 1986『宮城町観音堂遺跡 新宮前遺跡』宮城県文化財調査報告書第 118 集  
藤沼邦彦・加藤道男・真山悟・阿部博志ほか『若柳町柴の脇遺跡 成瀬町里浜貝塚 等』宮城県文化財調査報告書第 119 集  
古川一明・茂木好光・後藤彰信 1984『宮城県警備場整備等関連遺跡詳細分布調査報告書（昭和 58 年度）』宮城県文化財調  
査報告書第 100 集  
古田和誠・西村力 2018『台の下遺跡』気仙沼市文化財発掘調査報告書第 11 集  
宮城県教育委員会 1968『埋蔵文化財第三次緊急調査概報』宮城県文化財調査報告書第 15 集  
宮城県教育委員会 1969『埋蔵文化財第四次緊急調査概報』宮城県文化財調査報告書第 20 集  
宮城県教育庁文化財保護課・安田喜憲 1976『梁瀬浦遺跡』角田市文化財調査報告第 1 集  
宮城県文化財保護協会 1978『東北自動車道遺跡調査報告書 I』宮城県文化財調査報告書第 52 集  
吉岡恭平・佐藤淳・渡部紀・工藤信一郎・篠原信彦 1996『下ノ内浦・山口遺跡』仙台市文化財調査報告書第 5 集  
森貢喜・小川淳一・土岐山武・渋谷正三ほか 1980『東北自動車道遺跡調査報告書Ⅳ』宮城県文化財調査報告書第 71 集  
渡部紀 1989『北前遺跡』仙台市文化財調査報告書第 129 集  
渡部紀・篠原信彦・吉岡恭平 1995『六反田遺跡』仙台市文化財調査報告書第 199 集

## <岩手県>

相原康二・八重樫良宏・鈴木明美 1979『東北自動車道関係埋蔵文化財調査報告書 I』岩手県文化財調査報告書第 31 集  
阿部勝則 2004『長谷堂貝塚発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 434 集  
阿部勝則・平めぐみ 2001『長谷堂貝塚遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 367 集  
阿部勝則・八重畑ちか子 2008『八木沢Ⅱ遺跡・八木沢ラントノ沢Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化

財調査報告書第 528 集

- 阿部豊 1992『早稲枋Ⅱ遺跡』宮古市埋蔵文化財調査報告書 39
- 阿部豊 1999『千鶏Ⅳ遺跡』宮古市埋蔵文化財調査報告書 54
- 猪狩忠雄・樫村友延・國府田良樹・高島好一ほか 1985『愛谷遺跡』いわき市埋蔵文化財調査報告書第 12 冊
- 稲野裕介・稲村晃嗣 1997『横欠遺跡』北上市埋蔵文化財調査報告第 30 集
- 稲野裕介・菊池寛子 2006『横町遺跡（縄文時代遺物図版編）』北上市埋蔵文化財調査報告書第 72 集
- 井上雅孝 1991『湯舟Ⅱ遺跡』滝沢村文化財発掘調査報告書第 16 集
- 岩田貴之 2004『鳩岡崎上の台遺跡』北上市埋蔵文化財調査報告第 62 集
- 岩田貴之 2007『本宿遺跡Ⅲ』北上市埋蔵文化財調査報告第 88 集
- 岩田貴之 2010『八天遺跡』北上市埋蔵文化財調査報告第 99 集
- 岩田貴之 2012『館Ⅳ遺跡』北上市埋蔵文化財調査報告第 105 集
- 岩田貴之 2017『館Ⅳ遺跡』北上市埋蔵文化財調査報告第 125 集
- 岩手県教育委員会 1980『東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書Ⅴ』岩手県文化財調査報告書第 49 集
- 岩淵計・大道篤史・下田隆衛・小田野哲憲・工藤利行 2000『下村遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 323 集
- 江口邦泰 2019『白石遺跡』宮古市埋蔵文化財調査報告書 103
- 遠藤勝博・高橋義介・村上達夫 1983『君成田Ⅳ遺跡発掘調査報告書』岩手県埋文センター文化財調査報告書第 62 集
- 及川洵・遠藤勝博・金子浩昌・柳澤清一 1974『門前貝塚』
- 大渡賢一 2004『横町遺跡（縄文時代遺構図版編）』北上市埋蔵文化財調査報告第 60 集
- 大渡賢一 2006『横町遺跡（縄文時代遺物図版編）』北上市埋蔵文化財調査報告第 72 集
- 小田野哲憲・高橋義介 1991『上村貝塚発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 158 集
- 小野寺哉志子・小野寺悦朗 1997『中野台埋蔵文化財調査報告書』大東町文化財調査報告書第 17 集
- 角田克人・日塔とも子・垣内和孝・青山和人 1993『郡山東部』13 郡山市教育委員会
- 金子昭彦 1997『平沢Ⅰ遺跡発掘調査報告書Ⅲ』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 264 集
- 金子昭彦・高橋与右衛門 1996『寺久保遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 239 集
- 金子昭彦・阿部勝則・工藤利幸 1999『長谷堂貝塚発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 296 集
- 鎌田勉 1996『横町遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 236 集
- 鎌田祐二・高橋憲太郎・阿部豊 1992『高根遺跡』宮古市埋蔵文化財調査報告書 33
- 鎌田祐二・盛合義信・高橋憲太郎 1990『鉾ヶ崎館山貝塚』宮古市埋蔵文化財調査報告書 25
- 川又晋・小林弘卓 2012『大平野Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 593 集
- 神原雄一郎・佐々木紀子 2010『繫Ⅴ遺跡』盛岡市遺跡の学び館
- 神原雄一郎・佐々木紀子 2013『繫Ⅴ遺跡』盛岡市遺跡の学び館
- 神原雄一郎・佐々木亮二・佐々木紀子 2009『昭和 29 年度陸前高田市門前貝塚発掘調査出土土器の集成』盛岡市遺跡の学び館考古資料図録 1
- 神原雄一郎・佐々木紀子・佐々木亮二・鈴木賢治 2008『柿ノ木平遺跡・堰根遺跡』盛岡市遺跡の学び館
- 菅野紀子・窪田滋子『御所野遺跡Ⅳ』一戸町文化財調査報告書第 68 集
- 菊地榮壽 1999『山王山遺跡第 9 次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 316 集



- 菊池賢 2006『立石遺跡発掘調査報告書』大迫町埋蔵文化財報告書第 24 集
- 菊池賢 2009『稲荷神社遺跡発掘調査報告書 平成 19 年度調査』花巻市埋蔵文化財報告書第 11 集
- 菊池貴広 2002『大向Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 387 集
- 菊池徹夫・岡内三眞・高橋龍三郎・山本暉久 1997『館石野Ⅰ遺跡発掘調査報告書 縄文時代列石遺構の調査』早稲田大学  
文学部考古学研究室調査報告
- 菊池利和・酒井宗孝・高橋義介 1988『馬立Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 122 集
- 北上市 1968『北上市史』第 1 巻 原始・古代 (1)
- 北上市教育委員会 1977『樺山遺跡調査概報』文化財調査報告第 19 集
- 北上市教育委員会 1990『樺山遺跡 (1989 年度)』文化財調査報告第 59 集
- 北田勲・大泰司統 2020『上代川遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 713 集
- 北田勲・伊藤武・近藤行仁・大坪華子 2017『袈帯遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 662 集
- 北田勲・村田淳・中村絵美・坂部恵造 2007『里古屋遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 499 集
- 北村忠昭・佐々木隆英・白戸このみ 2018『浜川目沢田Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 679 集
- 木戸口俊子 2001『中野台遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 354 集
- 君島武史 2001『本宿遺跡Ⅱ』北上市埋蔵文化財調査報告第 44 集
- 桐生正一ほか 1986『湯舟沢遺跡』滝沢村文化財調査報告書第 2 集
- 桐生正一ほか 1995『けや木の平田地遺跡 第三次・四次緊急発掘調査』滝沢村文化財調査報告書第 60 集
- 草間俊一・金子浩昌 1971『貝鳥貝塚』花泉町教育委員会
- 草間俊一・玉川一郎・鈴鹿良一・吉田稔ほか 1974『岩手県大槌町吉里崎山弁天遺跡』大槌町教育委員会
- 工藤利幸・瀬川司男・高橋与右ヱ門・松野恒夫 1981『盛岡市 繫Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ遺跡 雫石町 熊野橋・広瀬Ⅰ・兎野・天沼・戸沢館遺跡』岩手県埋文センター文化財調査報告書第 27 集
- 国生尚・佐々木清文 1983『江刺家Ⅳ・Ⅴ遺跡発掘調査報告書』岩手県埋文センター文化財調査報告書第 59 集
- 小原眞一 1995『柳上遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 213 集
- 小原眞一 2000『尿前Ⅱ遺跡 B 地区発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 343 集
- 小原眞一 2003『清田台遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 412 集
- 小平忠孝・三浦謙一 1983『吠屋敷Ⅰa 遺跡発掘調査報告書』岩手県埋文センター文化財調査報告書第 61 集
- 小平忠孝・種市進・四井謙吉 1981『安代町 荒屋Ⅰ遺跡・荒屋Ⅱ遺跡・越戸Ⅱ遺跡』岩手県埋文センター文化財調査報告書第 21 集
- 小林弘卓・星雅之・立花健太郎 2016『浜岩泉Ⅲ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 655 集
- 小林弘卓・米田寛・宇部めぐみ『赤浜Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 690 集
- 昆野靖・高橋与右衛門・酒井宗孝 1989『夏本遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 134 集
- 斎藤邦彦 1992『本宿遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 172 集

斎藤實 1995『田代Ⅳ・田代Ⅵ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 223 集

酒井宗孝・阿部勝則 2000『上野平遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 333 集

佐々木清文 1983『滝谷Ⅲ遺跡発掘調査報告書』岩手県埋文センター文化財調査報告書第 49 集

佐々木清文・阿部勝則 1995『上米内遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 220 集

佐々木清文・高橋佐知子・高橋英樹 1996『山ノ内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 249 集

佐々木清文・千葉正彦・星雅之 2000『沢田Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 318 集

佐々木弘 1993『館Ⅳ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 187 集

佐々木亮二・今野公顕・鈴木賢治・浅沼のぞみ 2008『盛岡市内遺跡群 平成 18・19 年度発掘調査報告』盛岡市遺跡の学び館

佐々木琢 2000『秋浦Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 347 集

佐々木嘉直 1983『呷屋敷Ⅲ発掘調査報告書』岩手県埋文センター文化財調査報告書第 48 集

佐々木嘉直・佐藤勝 1983『呷屋敷Ⅰb 遺跡発掘調査報告書』岩手県埋文センター文化財調査報告書第 63 集

佐々木紀子・神原雄一郎 2013『繫Ⅴ遺跡』盛岡市教育委員会

笹平克子・小山内透 1994『向館遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 206 集

佐藤浩彦 2005『柘洞遺跡』遠野市埋蔵文化財調査報告書第 45 集

佐藤浩彦 2006『張山遺跡』遠野市埋蔵文化財調査報告書第 8 集

佐藤正彦 1991『門前貝塚発掘調査概報』陸前高田市文化財調査報告書第 15 集

佐藤正彦 1992『門前貝塚』陸前高田市文化財調査報告書第 16 集

佐藤正彦・遠野いずみ・遠藤勝博・坂本優子 2003『川内遺跡発掘調査報告書』陸前高田市文化財調査報告書第 25 集

佐藤正彦・熊谷賢・高橋和弥 1997『堂の前貝塚発掘調査報告書Ⅰ』陸前高田市文化財調査報告書第 18 集

佐藤増子・熊谷賢・高橋和弥 1999『堂の前貝塚発掘調査報告書Ⅱ』陸前高田市文化財調査報告書第 21 集

佐藤勝・高橋信雄・高橋文夫・佐々木清文 1980『松尾村長者屋敷遺跡(1)(遺構編)』岩手県埋文センター文化財調査報告書第 12 集

佐藤淳一・高木晃 2001『南畑遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 349 集

嶋千秋・菅原弘太郎ほか 1979『東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書Ⅲ』岩手県文化財調査報告書第 35 集

神敏明・斎藤實・藤村敏男 1994『倍田Ⅳ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 207 集

神敏明・高橋佐知子・工藤利幸 1997『山ノ内Ⅲ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 250 集

杉沢昭太郎 2017『千鶏Ⅳ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 663 集

杉沢昭太郎・福島正和・宮内勝巳ほか 2020『田鎖遺跡・田鎖館跡・田鎖車堂前遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 718 集

鈴木朋美 1992『本宿遺跡』北上市埋蔵文化財調査報告書第 5 集

鈴木朋美 1996『樺山遺跡』北上市埋蔵文化財調査報告書第 25 集

鈴木博之・金子昭彦・古舘貞身・鈴木貞行 2016『青野滝北Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 658 集

鈴木優子・吉田努・昆野靖 1983『上村遺跡・下村 A 遺跡・下村 B 遺跡発掘調査報告書』岩手県埋文センター文化財調査

報告書第 56 集

- 須原拓 2013『大平野Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 609 集
- 須原拓・河本純一 2018『浜川目沢田Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 689 集
- 須原拓・戸根貴之 2008『袈帯遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 522 集
- 須原拓・小野寺純也・久保賢治・野中裕貴 2015『中野遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 636 集
- 瀬川司男 1999『安俵 6 区Ⅳ遺跡発掘調査報告書』東和町文化財調査報告書第 20 集
- 瀬川司男・小原信司・高橋信一郎 2000『安俵 6 区Ⅴ遺跡発掘調査報告書』東和町文化財調査報告書第 26・27 集
- 瀬川司男・小原信司・高橋信一郎 2004『清水屋敷Ⅱ遺跡発掘調査報告書 縄文編』東和町文化財調査報告書第 34 集
- 千田政博 2020『西平内Ⅰ遺跡発掘調査報告書』洋野町埋蔵文化財調査報告書第 9 集
- 高木晃 2020『長谷堂貝塚発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 719 集
- 高木晃・北田勲 2013『大畑Ⅲ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 606 集
- 高木晃・工藤利幸 1998『大日向Ⅱ遺跡発掘調査報告書 第 6・7・8 次』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 273 集
- 高木晃・野中裕樹 2014『屋形遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 629 集
- 高木晃・須原拓・八木勝枝・藤原大輔 2012『川目 A 遺跡第 5 次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 589 集
- 高橋文夫・佐藤勝 1981『松尾村長者屋敷遺跡 (2) (遺構編 2)』岩手県埋文センター文化財調査報告書第 20 集
- 高橋与右衛門・玉川英喜・昆野靖・菊池利和・長沼彬・光井文行・高橋義介 1986『水神遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 96 集
- 田鎖壽夫 1988『馬立Ⅰ・太田遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 123 集
- 田鎖壽夫・岩淵久 1986『大日向Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 100 集
- 田鎖壽夫・斎藤邦雄 1995『大日向Ⅱ遺跡発掘調査報告書 第 2 次～第 5 次調査』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 225 集
- 高田和徳・中村明央 2006『御所野遺跡Ⅲ』一戸町文化財調査報告書第 53 集
- 高田和徳・熊谷常正・桐生正一 1981『一戸バイパス関係埋蔵文化財調査報告書Ⅰ』一戸町教育委員会
- 高田和徳・山田昌久・松橋智佳子 1993『御所野遺跡Ⅰ』一戸町文化財調査報告書第 32 集
- 高田和徳・中村明夫・久保田太一・久保田滋子 2003『田中遺跡』一戸町文化財調査報告書第 46 集
- 高田和徳・中村明夫・久保田太一・久保田滋子 2004『御所野遺跡Ⅱ』一戸町文化財調査報告書第 48 集
- 高田和徳・中村明夫・最上法聖・村本周二・久保田滋子 2006『大平遺跡』一戸町文化財調査報告書第 56 集
- 高田和徳ほか 2015『御所野遺跡Ⅴ 総括報告書』一戸町文化財調査報告書第 70 集
- 高橋岳 2015『平田遺跡発掘調査報告書』釜石市埋蔵文化財調査報告書第 27 集
- 高橋岳 2017『泉沢屋敷遺跡発掘調査報告書』釜石市埋蔵文化財調査報告書第 30 集
- 高橋憲太郎 1987『崎山遺跡群Ⅰ』宮古市埋蔵文化財調査報告書 13
- 高橋憲太郎 1988『崎山遺跡群Ⅱ』宮古市埋蔵文化財調査報告書 15
- 高橋憲太郎 1989『崎山遺跡群Ⅲ』宮古市埋蔵文化財調査報告書 18
- 高橋憲太郎 1990『崎山遺跡群Ⅳ』宮古市埋蔵文化財調査報告書 23
- 高橋憲太郎 1991『崎山遺跡群Ⅴ』宮古市埋蔵文化財調査報告書 26

高橋憲太郎 1992 『崎山遺跡群Ⅵ』宮古市埋蔵文化財調査報告書 37

高橋憲太郎 1993 『崎山遺跡群Ⅶ』宮古市埋蔵文化財調査報告書 40

高橋憲太郎 1994 『崎山遺跡群Ⅷ』宮古市埋蔵文化財調査報告書 41

高橋憲太郎 1997 『白石遺跡』宮古市埋蔵文化財調査報告書 50

高橋憲太郎・武田将男 1989 『トロノ木Ⅰ遺跡—第1次～第7次発掘調査報告書』宮古市埋蔵文化財調査報告書 17

高橋文明 2001 『鳩岡崎上の台遺跡』北上市埋蔵文化財調査報告第 48 集

田野畑村教育委員会 2002 『館石野 1 遺跡 縄文時代後期の列石遺構の調査 平成 13 年度』田野畑村文化財調査報告書第 9 集

田野畑村教育委員会 2007 『館石野Ⅰ遺跡 縄文時代後期の列石遺構の調査 第9次-14次調査報告書』田野畑村文化財調査報告書第 14 集

千葉啓蔵 2002 『平沢Ⅰ遺跡発掘調査報告書Ⅵ』久慈市埋蔵文化財調査報告書 30 集

千葉孝雄 1995 『上八木田Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 227 集

巴亜子・小野寺純也・高橋義介 2017 『九重沢Ⅲ・平野原Ⅲ・栃洞Ⅲ・新里愛宕裏遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 672 集

鳥居達人・亀大二郎 2002 『沢田Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 396 集

鳥居達人・佐々木清文 2000 『矢神遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 339 集

中村直美 2000 『大向上平遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 335 集

中村直美・北田勲・原美津子 2002 『仁昌寺Ⅱ遺跡・仁昌寺遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 400 集

中村良幸 1986 『岩手県稗貫郡大迫町観音堂遺跡—第1次～6次発掘調査報告書—』大迫町埋蔵文化財報告第 11 集

中村良幸 1991 『岩手県稗貫郡大迫町観音堂遺跡—第7次発掘調査報告書—』大迫町埋蔵文化財報告第 20 集

中村良幸・小野美代子 1979 『立石遺跡』大迫町埋蔵文化財調査報告第 3 集

中村良一 1987 『青ノ久保遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 118 集

似内啓邦・太田代由美子・神原雄一郎 1997 『大館遺跡群 大館町遺跡』盛岡市遺跡の学び館

蜂谷艸平・松野恒夫ほか 1979 『東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書Ⅰ』岩手県文化財調査報告書第 33 集

濱田宏・宮内勝巳・藤田崇志・川村均 2017 『西平内Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 673 集

藤田直行 2007 『大日向Ⅱ遺跡発掘調査報告書 第11次・第12次調査』軽米町文化財調査報告書第 21 集

福島正和・晴山雅光 2011 『新田Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 572 集

藤本玲子・佐々木隆英 2015 『小成Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 644 集

古館貞身 2001 『秋浦Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 346 集

星雅之 2008 『力持遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 510 集

星雅之 2019 『力持遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 694 集

星雅之・阿部勝則 1998 『本内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 271 集

星雅之・菅野紀子 2009 『川目Ⅰ第6次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 525 集

星雅之・前田稔 2000 『沢田Ⅰ遺跡調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 342 集

星雅之・高橋工・野場俊彦・佐々木あゆみ 2017 『越田松長根Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 666 集

星雅之・田中美穂・佐藤里恵・高橋静歩 2011『子飼沢Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 583 集

本堂寿一 1979『八天遺跡』北上市埋蔵文化財調査報告第 27 集

増崎勝仁・遠藤勝博・曳地隆元・松崎哲也 2018『堂の前貝塚発掘調査報告書Ⅲ』陸前高田市教育委員会

松政里奈・星雅之・北村忠昭・佐々木隆英・森裕樹・金子佐知子・菊池貴広 2018『乙部野Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 382 集

松本建速 1999『下館銅屋遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 297 集

丸山浩治・菅野紀子 2009『戸仲遺跡第 3 次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書第 559 集

丸山浩治・濱田宏・村木敬・平野祐 2011『大平野Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 576 集

三浦謙一 1983『湯沢遺跡発掘調査報告書（遺物編）』岩手県埋文センター文化財調査報告書第 66 集

三浦謙一・佐々木勝・昆野靖 1984『長者屋敷遺跡発掘調査報告書（3）（遺物編）』岩手県埋文センター文化財調査報告書第 77 集

三浦謙一・高橋文夫・金沢光孝・高橋信雄・斎藤邦夫雄 1978『都南村 湯沢遺跡』岩手県埋文センター文化財調査報告書第 2 集

宮本節子 2000『相ノ沢遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 332 集

村上拓 2002『清水遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 382 集

村上達夫・菊池利和 1983『叭屋敷Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県埋文センター文化財調査報告書第 47 集

村木敬・河本純一 2019『鹿糠浜Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 702 集

室野秀文ほか 1995『大葛遺跡 第 1 次発掘調査報告書』

八重樫美奈・高田和徳 2009『御所野遺跡・馬場平遺跡』一戸町文化財調査報告書第 64 集

八木勝枝・戦場由裕 2020『下村遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 720 集

安原誠 2018『刈屋清水遺跡 下刈屋Ⅰ遺跡』宮古市埋蔵文化財調査報告書 95

山田町教育委員会 1999『新道貝塚発掘調査報告書平成 10 年度発掘調査』山田町埋蔵文化財調査報告書第 2 集

山田町教育委員会 2008『新道貝塚発掘調査報告書平成 18 年度第 3 次発掘調査』山田町埋蔵文化財調査報告書第 12 集

吉田充・丸山浩治・北田勲・川又晋 2004『館遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 432 集

吉田義昭 1960『門前貝塚』郷土史料館報告 盛岡市公民館

四井謙吉・小平忠孝・種市進 1981『安代町 荒屋Ⅰ遺跡・荒屋Ⅱ遺跡・越戸Ⅱ遺跡』岩手県埋文センター文化財調査報告書第 21 輯

陸前高田市教育委員会 1972『堂の前貝塚発掘調査概要』

渡辺洋一・酒井宗孝 1995『大畑Ⅰ遺跡 大畑Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 218 集

## <山形県>

阿部明彦・長橋至 1981『町下遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第 57 集

阿部明彦・名和達朗 1981『下野遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第 38 集

伊藤邦弘 2001『高瀬山（SA）第 2・3 次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書 94 集

今田秀樹 2008 『高瀬山 (HO) 2 期発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 167 集

岩崎義信 2000 『長者屋敷遺跡発掘調査報告書』 長井市埋蔵文化財調査報告第 18 集

岩崎義信 2010 『市内遺跡発掘調査報告書 18』 長井市埋蔵文化財調査報告書第 30 集

岩崎義信 2011 『市内遺跡発掘調査報告書 19』 長井市埋蔵文化財調査報告書第 31 集

井田秀和 1982 『石ヶ森遺跡発掘調査報告書』 高島町埋蔵文化財調査報告書第 1 集

井田秀和 1984 『台の畑遺跡 資料編』 高島町埋蔵文化財調査報告書第 2 集

氏家信行・志田純子 1998 『山居遺跡発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 53 集

大川貴弘 2006 『小山崎遺跡第 12 次踏査概要報告書』 遊佐町埋蔵文化財調査報告書第 5 集

大川太弘・秋山綾子ほか 2015 『小山崎遺跡発掘調査報告書 総括編』 遊佐町埋蔵文化財調査報告書第 10 集

菊地政信 1994 『塔ノ原発掘調査報告書』 米沢市埋蔵文化財調査報告書第 43 集

菊地政信 1999 『大樽遺跡』 米沢市埋蔵文化財調査報告書第 62 集

菊地政信 2008 『遺跡詳細分布調査報告書第 21 集』 米沢市埋蔵文化財調査報告書第 95 集

菊地政信・月山隆弘 1999 『遺跡詳細分布調査報告書第 12 集』 米沢市埋蔵文化財調査報告書第 69 集

菊地政信・月山隆弘 2000 『遺跡詳細分布調査報告書第 13 集』 米沢市埋蔵文化財調査報告書第 65 集

桐谷優・湯原勝美・武田和宏 2004 『山形西高敷地内遺跡発掘調査報告書』 山形市埋蔵文化財センター調査報告書第 18 集

黒坂雅人 2003 『釜淵 C 遺跡発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 115 集

黒坂雅人・國井修 1999 『大樽遺跡発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 67 集

黒坂雅人・豊野潤子 2001 『中台 4・5 遺跡発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 84 集

小関真司・渡辺薫 1997 『津谷遺跡発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 46 集

小林圭一 2005 『高瀬山遺跡 (HO 地区) 発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財センター調査報告書 145 集

今正幸・大場正善・安部将平 2012 『高瀬山遺跡 (HO) 3 期発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財センター調査報告書 200 集

齋藤主税・須賀井明子・石井浩幸 2004 『高瀬山遺跡 (1 期) 第 1~4 次発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 121 集

齋藤守 1994 『蔵台遺跡発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 5 集

佐々木洋治・佐藤正俊・横戸昭二 1979 『熊ノ前遺跡発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 16 集

佐竹圭一 2002 『中川原 C 遺跡 立泉川遺跡発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財センター調査報告書 98 集

佐藤禎宏 2005 『小山崎遺跡台 8~11 次調査概要報告書』 遊佐町埋蔵文化財センター調査報告書第 4 集

佐藤禎宏・大川貴弘 2006 『小山崎遺跡第 12 次調査概要報告書』 遊佐町埋蔵文化財調査報告書第 5 集

佐藤禎宏・大川貴弘 2007 『小山崎遺跡第 13 次調査概要報告書』 遊佐町埋蔵文化財調査報告書第 6 集

佐藤禎宏・大川貴弘 2008 『小山崎遺跡第 14 次調査概要報告書』 遊佐町埋蔵文化財調査報告書第 7 集

佐藤禎宏・大川貴弘 2009 『小山崎遺跡第 15 次調査概要報告書』 遊佐町埋蔵文化財調査報告書第 8 集

佐藤禎宏・大川貴弘 2010 『小山崎遺跡第 16 次調査概要報告書』 遊佐町埋蔵文化財調査報告書第 9 集

佐藤禎宏・佐藤鎮雄 1971 『神矢田遺跡—第 1 次・第 2 次発掘調査報告—』

佐藤禎宏・佐藤鎮雄 1972 『神矢田遺跡—第 3 次・第 4 次・第 5 次発掘調査報告と考察—』

佐藤庄一・黒坂雅人 1996 『富沢 I 遺跡発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 30 集

佐藤庄一・水戸弘美 1993 『山形西高敷地内遺跡第 5 次発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財調査報告書 192 集

佐藤庄一・尾形典典・阿部明彦 1992 『山形西高敷地内遺跡第 4 次発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財調査報告書第 173 集

## 集

- 佐藤庄一・尾形典典・阿部明彦・佐々木洋治・名和達朗・茨木光裕 1979『山形西高敷地内遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第 17 集
- 佐藤庄一ほか 1985『山形西高敷地内遺跡第 3 次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第 91 集
- 佐藤鎮雄・佐藤正俊 1977『中山遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第 9 集
- 佐藤正俊・佐藤義信・大類誠・名和達朗 1980『水上遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第 27 集
- 佐藤正俊・渋谷孝雄・名和達朗 1981『山形市柏倉地区遺跡群発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第 33 集
- 佐藤正俊・名和達朗 1981『うぐいす沢遺跡第 1 次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第 41 集
- 佐藤善春・國井修 1997『宮下遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第 47 集
- 渋谷孝雄・竹田純子 2001『小山崎遺跡第 4 次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 91 集
- 須賀井新人 2000『野向遺跡 市野々向原遺跡 千野遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 71 集
- 高桑弘美・佐藤祐輔・安部実・黒坂広美・佐藤正俊・阿部明彦・長橋至 2010『百刈田遺跡第 1～4 次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 184 集
- 手塚孝 1988『遺跡詳細分布調査報告書第 1 集』米沢市埋蔵文化財調査報告書第 23 集
- 手塚孝・加藤稔・金子正広 1977『米沢市八幡原中核工業団地造成予定地内埋蔵文化財調査報告書第 3 集』米沢市教育委員会
- 手塚孝・菊地政信・金子正廣 1989『遺跡詳細分布調査報告書第 2 集』米沢市埋蔵文化財調査報告書第 25 集
- 手塚孝・菊地政信・月山隆弘 1999『遺跡詳細分布調査報告書第 12 集』米沢市埋蔵文化財調査報告書第 65 集
- 手塚孝・菊地政信・橋爪健 1986『米沢市万世町桑山団地造成地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ』米沢市教育委員会
- 手塚孝・佐藤智幸 2019『花沢 A 遺跡第Ⅲ次発掘調査報告書』米沢市埋蔵文化財調査報告書第 114 集
- 手塚孝・佐藤正俊・佐藤義信 1979『郡の神遺跡 周辺遺跡』山形県埋蔵文化財調査報告書第 23 集
- 名和達朗・阿部明彦 1981『水上遺跡第 2 次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第 40 集
- 名和達朗・渋谷孝雄 1983『中村 A 遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第 73 集
- 沼沢雪雄・佐藤敏 1982『砂川 A 遺跡発掘調査報告書』朝日村埋蔵文化財発掘調査報告書第 1 集
- 丸山晶子 2000『高瀬山遺跡 (2 期) 第 2・3 次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 80 集
- 水戸部秀樹 2003『かっぱ遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 114 集
- 水戸部秀樹・阪英子 2005『空沢遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 144 集
- 渡辺淳一・押切和紀 2007『石畑遺跡』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 164 集

## <秋田県>

- 赤上秀人 2004『高野遺跡』秋田県文化財調査報告書第 372 集
- 五十嵐一治 1999『伊勢堂岱遺跡』秋田県文化財調査報告書第 293 集
- 榎本剛治 2009『伊勢堂岱遺跡Ⅷ』北秋田市埋蔵文化財調査報告書第 12 集
- 榎本剛治 2011『史跡伊勢堂岱遺跡発掘調査報告書』北秋田市埋蔵文化財調査報告書第 13 集
- 大野憲司・工藤晃 1993『東北自動車道秋田線発掘調査報告書 X V』秋田県文化財調査報告書第 235 集
- 大野憲司・小林克・栄一郎・高橋学 1990『はりま館遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第 192 集
- 大野憲司・谷地薫・利部修・小林克・高橋学・高橋忠彦 1986『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書 I』秋田県文化財調査報告書第 150 集

小畑巖・柴田陽一郎 1990『西山地区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書VI』秋田県文化財調査報告書第198集

開田猛夫・吉川寿朗・築瀬圭二・打矢泰之 2007『家ノ前遺跡』秋田県文化財調査報告書第418集

鹿角市教育委員会 1984『天戸森遺跡発掘調査報告書』鹿角市文化財調査資料26集

鹿角市教育委員会 2017『特別史跡大湯環状列石総括報告書』鹿角市文化財調査資料110集

菅野美香子・栄一郎・三浦俊成 2006『深渡遺跡』秋田県文化財調査報告書第407集

菅野美香子・栄一郎・菅原一彦・石川和良 2005『日廻岱B遺跡』秋田県文化財調査報告書第394集

菅野美香子・利部修・河田弘幸・栄一郎 2011『漆下遺跡』秋田県文化財調査報告書第464集

栗澤光男・鎌田茂 1990『大砂川地区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書I』秋田県文化財調査報告書第199集

小林稔幸 2003『碎瀧遺跡』秋田県文化財調査報告書第349集

小林克・高橋学 1989『一般国道7号八竜能代道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書II』秋田県文化財調査報告書第178集

小林克・武藤佑浩・高橋学・大野憲司 1989『八木遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第181集

齋藤重隆・鈴木茂・島田祐悦・土田宏 2004『堀量遺跡』秋田県文化財調査報告書第367集

栄一郎・宮本長二郎 2001『フフキ遺跡』秋田県文化財調査報告書第322集

柴田陽一郎 1994『県道田山・花輪線関係遺跡発掘調査報告書II』秋田県文化財調査報告書第248集

柴田陽一郎 2001『松木台III遺跡』秋田県文化財調査報告書第326集

柴田陽一郎・小林芳行 2003『フフキ遺跡』秋田県文化財調査報告書第352集

柴田陽一郎・桜田隆・高橋学 1991『宝竜堂遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第214集

柴田陽一郎・五十嵐一治・山田祐子・巴亜子・深沢恵里子 2010『湯瀬館跡(第2次)』秋田県文化財調査報告書第462集

新海和広・吉川寿朗・千葉史宏・高安直美・今野沙貴子 2006『烏野上岱遺跡』秋田県文化財調査報告書第406集

柴田陽一郎・利部修・高橋学・稲村亨・黒澤尊 1997『遺跡詳細分布調査報告書』秋田県文化財調査報告書第270集

高橋忠彦・白石建男・栄一郎・利部修・武藤佑浩・栗沢光男 1989『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書III』秋田県文化財調査報告書第180集

高橋学 1992『国道103号道路改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書VI』秋田県文化財調査報告書第222集

高橋学・五十嵐一治 1995『家の下遺跡(1)』秋田県文化財調査報告書第256集

谷地薫・小山内透 1991『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書IX』秋田県文化財調査報告書第207集

出島雄蔵・田村栄・渡部紀・本間宏 1986『本道端遺跡』比内町埋蔵文化財調査報告書

畠山憲司 1981『内村遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第82集

畠山憲司・橋本高史・栗沢光男 1979『梨ノ木塚』秋田県考古学協会

藤原司・藤本幸雄 2000『奥椿岱遺跡』秋田県文化財調査報告書第305集

細田昌史 2007『橋場岱A・C・G遺跡』北秋田市埋蔵文化財発掘調査報告書第5集

本多嘉之・船木義勝・桜田隆 1999『小袋岱遺跡』秋田県文化財調査報告書第285集

武藤佑浩・和泉昭一 1991『大砂川地区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書II』秋田県文化財調査報告書第213集

谷地薫・馬場泰一・加藤竜・菅野美香子 2010『森吉家ノ前A遺跡(第3次)』秋田県文化財調査報告書第453集

山本起嗣・菅原一彦・宇田川浩一・山田祐子・徳永辰實・山田徳道・小林克 2006『森吉家ノ前A遺跡』秋田県文化財調査報告書第213集



査報告書第 409 集

吉川孝・佐々木政任・栄一郎・五十嵐典彦 2001『江原嶋 1 遺跡』秋田県文化財調査報告書第 310 集

<上記以外の引用・参考、土器図版掲載報告書・報文>

秋田かな子 1995「八幡台遺跡出土の縄文時代後期土器について」『東海史学』29：106-114

稲村晃嗣 1988「鴻ノ巣貝塚出土の縄文時代後期初頭の土器群（補遺）」『村上徹君追悼論文集』：39-53

稲村晃嗣 1989「鴻ノ巣貝塚出土の縄文時代後期初頭土器群」『考古学の世界』：279-297

稲村晃嗣 1994「両耳壺の研究ノート」『民族考古』2：23-42

稲村晃嗣 2004「千葉県山武姥山貝塚出土の縄文時代後期初頭土器について」『時空をこえた対話—三田の考古学—』慶應義塾大学民族学考古学専攻設立 25 周年記念論集：85-90

蜂谷孝之・白井久美子ほか 2010『千原台ニュータウン 23』千葉県教育振興財団第 633 集

小高春雄・山口典子ほか 2013『千原台ニュータウン 30』千葉県教育振興財団第 695 集

児玉大成 2006『小牧野遺跡発掘調査報告書 IX』青森市埋蔵文化財調査報告書第 85 集

近藤敏 1987『菊間手永遺跡』市原市文化財センター調査報告書第 23 集

新谷武・遠藤正夫・成田滋彦・畠山昇・一条秀雄 1987『大石平遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 103 集

諏訪間伸 1992「東大竹・山王塚（八幡台）遺跡」『文化財ノート』2 伊勢原市教育委員会

成田誠治・北林八洲晴・坂本洋一・成田滋彦ほか 1985『大石平遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 90 集

山田洋一・畠山昇・遠藤正夫・一条秀雄ほか 1986『大石平遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 97 集

## 論文の内容の要旨

論文題目 縄文時代中期／後期移行期における社会変容プロセスの研究

氏名 太田 圭

第 1 章では従前の縄文時代中期／後期移行期（以下、移行期と略する）の研究を整理し、成果と課題を確認したうえで本論の研究課題と研究目的を示した。研究課題は、「日本列島の各地域で移行期における各種の考古学遺物の検討は精緻に行われているが統一した時間軸がないため各地域の諸文化要素の時間的変化を広域に対比することが困難であること」、「移行期における環境変動と考古学的現象の関係性が積極的に評価されているが特定の地域や資料に基づく評価であり広域にその評価を適用することができるか再検討する必要があること」である。これらの課題をふまえて本論では、「広範囲で諸文化要素の時間的変化を対比するために用いる広域的な時間軸となる土器型式編年を構築すること」、「広域的な時間軸に基づく諸文化要素の比較検討から移行期における社会変容プロセスを明らかにすること」を研究目的とした。

第 2 章では、移行期の研究における課題を解決し、研究目的を達成するための研究内容と研究方法、分析対象資料を提示した。

第 3 章では土器の型式学的分析と層位的な出土状況の把握をもとに東北北部から南関東の各地域において土器の検討を行った。地域ごとの土器群の変遷を整理し、各地域間の土器群の対応関係を検討することで広域的な時間軸を構築した。

第 4 章では第 3 章の検討から得られた各地域における土器群の分布状況とその変化を整理し、土器群の型式学的分析の結果もふまえて、地域間の土器群の関係性と関係性の時間的変化を検討した。特定の土器群（加曾利 E 式土器群、大木式土器群、牛蛭類型土器群、曾利式土器群）に焦点をあて同時期の併存する土器群間の関連性を検討し、各土器群の分布状況の時間的変化を把握することで、土器情報の拡散と受容の様相を検討した。その結果、後期初頭後半から後期前葉前半において小地域ごとに土器群の地域的な特徴が顕著になるとともに特定の土器群が広域に拡散し、拡散先の土器と相互の影響関係を有する状況が確認された。この状況から、この時期に東日本太平洋側地域では広域的な土器情報のネットワークが構築されていたと考えられる。同時期の東北中部から東北南部では、在地の土器群と周辺地域の複数の土器群が混在するようになる。後期前葉以降は、東北地方から関東地方への土器群の影響が弱くなる一方で、関東地方から東北地方への影響が強くなる傾向が確認された。同時期には、北上川中流域や北上川下流域では在地の土器群の様相が不明瞭となり東北北部や関東地方、新潟県域に分布の中心をもつ土器群が混在するようになる。後期前葉以降、東日本太平洋側地域では東北北部の土器群と関東地方の土器群の 2 つの土器群が分布し、北上川中流域から仙台湾周辺は 2 つの土器群の分布域の中間地域として位置づけられるようになることが明らかとなった。

第 5 章では、岩手県域を中心に竪穴住居数の動向を把握するとともに竪穴住居を伴う遺跡の分布を検討した。また、竪穴住居に付設される炉の形態や住居の規模と形状、住居内に付設される炉以外の施設も分析した。

竪穴住居数の検討からは、東日本太平洋側の各地域において竪穴住居数の時間的変化の傾向が異なることが確認された。中部高地と西南関東では従来、中期末葉に竪穴住居数が激減し、この要因として気

候寒冷化（4.3ka イベント）が指摘されてきた。本論における分析からは、岩手県域と宮城県域、栃木県北東部では後期初頭に竪穴住居数が減少し、福島県域では中期末葉に急減するという全体の傾向が確認された。一方、岩手県や福島県の一部地域と栃木県西南部では中期末葉から後期初頭に竪穴住居数が増加することが確認された。これらの状況から中期末葉における竪穴住居数の激減という現象は、東日本全域で一様に生じた現象ではないことが示された。小地域や遺跡単位で竪穴住居数の動向を把握すると、より広域な範囲が示す動向とは異なる動向を示す地域や遺跡が存在することが確認され、広域的な環境変化のみならず地震や津波などの局地的な環境変化を要因としたより狭い範囲での竪穴住居数の時間的な変化が生じた可能性も示された。竪穴住居数の動向にみられる狭い範囲に限定的な変化は東日本太平洋側地域の各地域で生じており、これらが生じる時期は地域ごとに異なる。このような竪穴住居数の変化は、広域的な環境変化のみが直接的な要因となって生じるのではなく、地域ごとに生じる多様な環境変化に当時の人びとが対応した結果を反映している可能性が高い。

竪穴住居を伴う遺跡の分布状況の検討からは、移行期を経て特定地域で竪穴住居が構築されなくなるような状況は確認されなかった。4.3ka イベント直後の後期前葉には竪穴住居を伴う遺跡の分布に変化が生じることから、気候寒冷化とそれに伴う地形変化などの環境変化に対応して居住域の立地や生業活動の範囲が変化した可能性が示された。

竪穴住居に付設される施設は岩手県域の資料を対象として分析したが、中期末葉から後期初頭において河川流域単位ごとに地域的な特徴が顕著になること、移行期を経て炉形態は中期後葉の要素を後期前葉まで引き継いでいることが確認された。

第 6 章では移行期における遺構情報の拡散や受容の様相を検討するために、後期前葉の東北北部に展開する環状列石と時期を同じくして東北中部や東北南部、北関東に展開する住居内敷石行為を分析した。環状列石は、中部高地・関東地方から日本海側ルートを通じて東北北部へ波及したことがこれまでの研究で指摘されている。岩手県域における配石遺構を検討した結果、環状列石の東北北部への波及に東北中部太平洋側地域は直接的に関与していない可能性が高いことが示された。岩手県域と宮城県域、福島県域、栃木県域における住居内敷石行為の分析からは、中期末葉から後期前葉における遺構情報の受容は地域ごとに異なっていたことが明らかとなった。遺構情報を受容する場合、受容する地域では受容する地域に備わっている在地的な要素を素地として周辺地域から波及した情報を選択的に受容していた。西南関東の住居内敷石行為に関する情報は、宮城県南部までオリジナルに近い要素が直接的に波及しているが、より北に位置する宮城県北部や岩手県域には部分的に西南関東の要素が波及していたと考えられる。

第 7 章では土器埋設遺構をもとに遺構情報の拡散と受容の様相を検討した。岩手県域の屋内土器埋設遺構と福島県域の屋外土器埋設遺構を分析した結果、屋内土器埋設遺構と屋外土器埋設遺構の情報が拡散する場合、それぞれの遺構情報を受容する素地を有する地域で選択的に受容されていたことが明らかとなった。屋内土器埋設遺構と屋外土器埋設遺構は離れた地域間で類似する属性が確認されるが、現在確認されている資料から離れた地域間で類似する遺構同士の系統的な関連性を積極的に指摘することは困難である。しかし横土器埋設遺構は、後期初頭後半から後期前葉に阿武隈川流域から南関東へ拡散し、関東地方の一部地域で選択的に受容されていた。このことから、広域に拡散した土器埋設遺構の情報が地域ごとに選択的に受容された結果、モザイク状に類似する土器埋設遺構が分布する状況が生じた可能性が示された。土器の情報と土器埋設遺構の情報の拡散と受容を複合的に検討したところ、土器埋

設遺構と埋設土器に使用される土器群との間に強い関係性を有する場合があることが明らかとなり、網取式土器群の拡散と横位土器埋設遺構の拡散に強い関連性があることが示された。

第 8 章では、移行期の社会変容プロセスについて検討した。従前の移行期の議論において取り上げられてきた気候変動と社会の変化の関係を、本論で示された局地的な変化に着目して整理した結果、広域的な気候寒冷化は移行期の社会変容に影響を与えているもののその影響の度合いや影響に対する対応は地域ごとに多様であることが明らかとなった。移行期における考古学的資料の時間的変化には局地的な変化もみられ、広域的な環境変化とは異なる局地的な環境変化を要因として様々な変化が生じた可能性が高い。社会変容の背景には、地域ごとに異なる様々な環境変化への当時の人びとの対応が有機的に結び付いている状況があると考えられる。

情報伝達の媒体となるモノや人の流動性や移動性の度合いが時間的経過に伴い変化することは特定の情報が波及する範囲の広域化や情報の流れの活発化の程度を示すと捉えたうえで、第 3 章から第 7 章の検討結果を遺物と遺構の情報の拡散と受容という視点から考察したところ、移行期における社会変容プロセスは以下のように結論づけられた。縄文時代を通じて特定の情報が波及する範囲の広域化や情報の流れの活発化の程度が時間的経過に伴い強くなったり弱くなったり変化することが繰り返され、地域性が再構成されることで縄文時代の社会が変化したと考えられる。移行期における地域性の再構成は、地域間で双方向的に土器の情報が広域に行き来する状況が縄文時代の他時期と比較して長期間にわたり継続する点、遺構に地域的な特徴が強く表れ広範囲に遺構の情報が行き来し特徴的な遺構が広域に拡散する点、生業形態や居住形態に大きな変化が生じる可能性が高い点、以上の事象が同時に確認される点で縄文時代の他時期とは大きく異なると考えられる。今後は他時期の諸文化要素を本論と同様の視点から検討し、本論で得られた移行期の社会変容の特徴を縄文時代全体の社会変容の中に位置付ける必要がある。また、移行期における各種の変化の背景やその関係性を把握し、当時の環境変化に対する人びとの対応の様相を明らかにすることで、社会変容プロセスの要因を具体化していく必要がある。